Tobii Dynavox I-Series+
ユーザーマニュアル

I–12+
I–15+

tobii dynavox

ユーザーマニュアル Tobii Dynavox I-Series+

バージョン 1.9.1
06/2016
無断複写・転載を禁じます。
Copyright © Tobii AB (publ)

本文書のいずれの部分も、発行者の事前の書面による許可がない場合、形式、手段 (電子、コピー、記録など) を問わず、複製、取得システムでの保存、または送信が禁止されています。

請求される著作権保護には、画面ディスプレイ、メニューなどの画面に表示されるソフトウェアプログラムから生成された素材を含む (ただしこれらに限定されない) 、法律または地域法で許可されるか本書で付与された著作権保護可能な素材および情報のすべての形式および内容が含まれます。

本書に含まれる情報は、Tobii Dynavox の所有物です。Tobii Dynavoxによる書面による事前の許可なく、全体または一部を問わず複製することを禁じます。

本書内で参照される製品名は、それぞれの所有者の商標や登録商標である可能性があります。発行者および著者は、これらの商標に対する権利を主張するものではありません。

本書の準備に際しては万全を期しておりますが、発行者と著者は、誤り、省略、あるいは本書に含まれる情報の使用や、プログラムとそれに付随するソースコードの使用により生じた損害賠償の責任を負いません。発行者と著者は、いかなる場合においても、本書より直接的または間接的に発生する、あるいは発生したと主張される利益の損失またはその他の商業上の損失の損害賠償に対し、一切の責任を負いません。

内容は予告なしに変更されることがあります。

本書の最新バージョンについては、Tobii Dynavoxのウェブサイト、www.TobiiDynavox.com をご覧ください。

下記の製品は、米国特許 7,572,008 により保護されています：

- I–12+ ETR
- I–15+ ETR

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの種類は、製品背部のラベルに表示されています。

目次

1 はじめに 7
1.1 忠告についての説明 7
1.2 シンボルと標識 7
1.3 使用目的 9
1.3.1 携帯利用 10
1.3.2 取り付けによる利用 10
1.4 パッケージの内容 10
1.4.1 Tobii Dynavox I-Series+ Tobii Dynavox Communicatorと 10
1.4.2 Tobii Dynavox I-Series+とTobii Dynavox Compass 11
2 セーフティ 12
2.1 聴覚の損傷を防ぐために 12
2.2 温度 12
2.3 電源供給とバッテリー 13
2.4 接続部 13
2.5 緊急時 14
2.6 赤外線 14
2.7 てんかん 14
2.8 電気 14
2.9 子供の安全 14
2.10 環境制御 14
2.11 Gaze Interaction 14
2.12 第三者 15
3 Tobii Dynavox I–12+ と I–15+ の概要と 16
3.1 主要な機能 16
3.2 本機について 16
3.2.1 Tobii Dynavox I–12+と Tobii DynavoxI–15+ 16
3.2.2 ポート、センサーおよびデバイスのボタン 17
3.3 プリインストールされているソフトウェア 19
3.4 デバイスの設定 19
3.5 microSD カードへのアクセス 20
3.5.1 microSD カードの取り出し 20
3.5.2 microSD カードの挿入 21
3.6 Tobii Dynavox クイックリリース・ アダプター・ パネル 21
3.6.1 Tobii Dynavox QR アダプターパネルの取り付け 22
3.6.2 Tobii Dynavox QR アダプターパネルの取り外し 22
4 Tobii Dynavox I-Series+のバッテリー 23
4.1 バッテリー 23
4.1.1 ホットスワップ可能 23
4.2 充電 23
4.2.1 充電レベルの確認 24
4.3 バッテリーの挿入と取り外し 24
4.3.1 バッテリーの挿入 24
4.3.2 バッテリーの取り外し 24
5 Tobii Dynavox I-Series+ の使用 26
5.1 デバイスの起動 26
5.1.1 パスワード情報 26

5.1.2 Tobii Dynavox I-Series+ Welcome Guide 26
5.2 デバイスの終了 26
5.3 Gaze Interaction使用 27
5.3.1 配置 27
5.3.2 トラックボックス 28
5.3.3 トラックステータス・ビューアー 28
5.3.3.1 トラックステータスの表示 28
5.3.4 位置設定ガイド 29
5.4 Windows Control の使用 29
5.4.1 Windows Control の種類 29
5.4.2 Windows Control の起動と無効化 30
5.4.3 Gaze Selection の使用 30
5.4.3.1 Gaze Selection タスクバー 31
5.4.3.2 タスクボタン 32
5.4.3.3 Windows 8の機能オーバーレイ 33
5.4.3.4 Windows 10の機能オーバーレイ 35
5.4.3.5 Windows 8.1とWindows 10ウィンドウのスナップ/アプリ 37
5.4.3.5.1 ウィンドウのスナップ操作/アプリを閉じる方法 37
5.4.3.5.2 さらにアプリをスナップするには、 39
5.4.3.6 選択方法 — 注視とスイッチ 41
5.4.3.6.1 スティッキータスクおよびスイッチの既定左クリック/タップ 41
5.4.3.6.2 スイッチではなくキーボードのボタンでタスクを有効にする 42
5.4.3.7 キーボードの注視 42
5.4.3.7.1 キーボードタスクバー 43
5.4.3.7.2 キーボードタスクバーのタスクボタン 44
5.4.3.7.3 単語予測 44
5.4.3.8 範囲ベースのキーボードと Gaze Selection の組み合わせ 45
5.4.4 Mouse Emulation の開始 45
5.4.4.1 Mouse Emulation メニューの配置 45
5.4.4.2 Mouse Emulation モードの Windows Control でのクリック 45
5.4.4.3 Mouse Emulation モードの Windows Control での拡大 46
5.4.4.4 Mouse Emulation 機能の選択 46
5.4.4.5 Mouse Emulation モードの Windows Control の一時停止 46
5.4.4.6 Mouse Emulation モードの Windows Control でのスクロール 46
5.5 Gaze Interaction で Tobii Dynavox I-Series+ をスリープ状態から起動する 47
5.6 Gaze Interaction を一時停止/再開する。Gaze Interaction で Tobii Dynavox I-Series+ をスリープ状態にする 48
5.7 カメラの使用 49
5.8 GEWAプログラム設定が可能な赤外線リモコンの使用 49
5.8.1 I-Seriesプロダクトキーの取り扱い 49
5.9 音量の調節 49
5.10 音声の調節 49
5.11 工場出荷時の設定に戻す 50
5.12 タッチパネルのキャリブレーション 51
6 I-Series Control Center による Tobii Dynavox I-Series+ の設定 52
6.1 ボタン 53
6.1.1 ボタンを押した時に音が出るようにする 53

6.1.2 すべてのボタンを無効にする 53
6.2 ディスプレイ 54
6.2.1 輝度の調節 54
6.2.2 ディスプレイの回転 54
6.3 スイッチ 55
6.3.1 ボタンを押した時に音が出るようにする 56
6.3.2 スイッチに電源オン機能を設定する 56
6.3.3 スイッチに電源オフ機能を設定する 56
6.4 Wake-on-Gaze® 57
6.5 ワイヤレス 58
6.5.1 WLAN 58
6.5.1.1 Tobii Dynavoxプロダクトキーの取り扱い 58
6.5.1.2 WLAN 通信を有効/無効にする 58
6.5.1.3 WLAN への接続 58
6.5.2 携帯電話通信のための Bluetooth® 59
6.5.2.1 I-Seriesプロダクトキーの取り扱い 59
6.5.2.2 Bluetooth® 通信を有効/無効にする 59
6.5.2.3 Bluetooth® デバイスへの接続 59
6.6 セーフティ 60
6.6.1 音声 60
6.6.2 温度制御 60
6.6.2.1 デバイスの使用 61
6.7 I-Seriesプロダクトキー 61
6.8 設定と更新 62
6.8.1 I-Series Welcome Guide 62
6.8.2 I-Series Update Notifier 62
6.9 システム 64
6.9.1 バージョンと型式番号 64
6.9.2 バックアップ 64
6.9.2.1 ユーザープロファイル・ カード 65
6.9.2.2 ユーザーによる手動のバックアップ 65
6.9.2.3 ユーザーによるバックアップファイルの復元 65
6.9.2.4 バックアップの失敗 65
6.9.3 アイトラッカー 65
6.10 アクション用にショートカットを作成する 66
6.10.1 設定可能なアクション 66
6.10.2 アクションの選択 66
7 Gaze Interaction Settings 68
7.1 Gaze Interaction Settings の設定にアクセスする 68
7.2 キャリブレーション 69
7.2.1 キャリブレーションの開始 69
7.2.2 キャリブレーションの中断 69
7.2.3 アクティブ・ アイのカスタマイズ 69
7.2.4 キャリブレーション・ポイントの改良 70
7.2.5 キャリブレーション・ポイントの削除 71
7.2.6 キャリブレーションのカスタマイズ 71
7.2.7 キャリブレーション範囲のカスタマイズ 73
7.3 インタラクション 74
7.4 ユーザープロファイル 75
7.4.1 新規プロファイルの作成 75

7.4.2 現在のユーザープロファイルの選択 75
7.4.3 プロファイルの削除 75
7.5 Windows Control 76
7.5.1 自動起動 76
7.5.2 Windows Control の種類 76
7.5.2.1 Gaze Selection 76
7.5.2.2 Mouse Emulation 77
7.5.2.2.1 マウスコントロールスピード 77
7.5.2.2.2 拡大鏡のサイズとズーム 77
7.5.2.2.3 右クリックから左クリックに自動切替 77
7.5.2.2.4 スクロール機能をオフにする 77
7.5.2.2.5 ユーザー設定のカーソル 77
7.5.2.2.6 メニュー非表示 78
7.6 システム設定 78
7.6.1 システム・オフスクリーン・メニュー 78
7.6.2 位置設定ガイド 79
7.7 システム情報 80
7.7.1 アイトラッカーのファームウェアのアップグレード 80
8 Gaze Selection の設定 81
8.1 一般設定タブ: 81
8.2 キーボード設定タブ 82
8.3 タスクバー設定タブ 83
8.3.1 最大化の左クリック/タップ 84
9 製品のお手入れ 85
9.1 温度と湿度 85
9.1.1 一般利用 85
9.1.2 移動と保管 85
9.2 掃除 85
9.2.1 スピーカーのクリーニング 85
9.3 配置 85
9.4 Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの移動 85
9.5 バッテリーの廃棄 86
9.6 Tobii Dynavox I-Series+ の廃棄 86
付属書 A サポート、製品保証、トレーニング用リソース 87
付属書 B 準拠に関する情報 88
B1.1 P15B 機器用 88
B1.2 ポータブルデバイス用 88
付属書 C コンピューターデバイスの運用状況 95
付属書 D 最高許容温度 97
付属書 E 技術仕様書 98
付属書 F 承認済みのアクセサリー 102

1 はじめに

TobiiDynavoxのTobii Dynavox I-Series+ デバイスをご購入いただき誠にありがとうございます。

本製品の最適なパフォーマンスを実現するために、本書を時間をかけてよくお読みください。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスには、12.1インチ画面のTobii Dynavox I–12+と、15.0インチ画面のTobii Dynavox I–15+の 2 つのサイズがあります。Tobii Dynavox I-Series+ は Gaze Interaction デバイスですが、Gaze Interaction 機能なしでもオーダー可能です。

本ユーザーズマニュアルでは以下を扱います。

- Tobii Dynavox I-Series+ デバイス、Tobii Dynavox I–12+およびTobii Dynavox I–15+のモデル。
- I-Series Control Center（デバイスのコントロールおよびI-Seriesプロダクトキー用）。
- Gaze Interaction 機能

1.1 忠告についての説明

このマニュアルでは、以下の（5）段階の忠告が使用されています。

は、ユーザーに何らかの重要な内容もしくは特別注意を要する事柄を通知する際に使用されます。

は、器材に何らかの危害あるいは故障を引き起こす可能性がある場合に、それを通知するのに使用されます。

は、警告が無視された場合に、ユーザーに対する何らかの危害のリスクが生じる可能があるため、それを通知するのに使用されます。

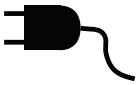
は、聴覚に障害をきたす可能性を通知するのに使用されます。

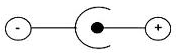
は、警告が無視された場合に、肌が継続的に接触することにより恒久的な肉体的危害を引き起こす可能性がある場合に、それを通知するのに使用されます。

1.2 シンボルと標識

このセクションは Tobii Dynavox I-Series+、そのアクセサリーと梱包材において使用されるシンボルについての情報を記載したものです。

シンボルと標識	説明
	USB 3.0 ポート
	USB 2.0 ポート
	電源オン
	RJ 45 イーサネットポート
	3.5 mm スイッチポート 1

シンボルと標識	説明
SW2	3.5 mm スイッチポート 2
	電源接続部
	ヘッドホンジャック 3.5 mm
	HDMI 1.3 ケーブル用コネクタ
	右側のバッテリーを取外すには:
	左側のバッテリーを取外すには:
	お住まいの国で指定された要求事項にしたがって廃棄してください。
	CEは欧州共同体の略称で、この標識は、EUにおける税関吏に対して、この製品がEC指令の最低1つ以上に準拠していることを示すものです
	この標識は、米国で製造あるいは販売される電気製品に使用される認証マークで、このデバイスから発生する電磁波障害が、連邦通信委員会によって認められた基準未満であることを認証するものです。
	c-UL US クラシフィケーション・ マーク
	RoHS指令適合
	ユーザー用取扱説明書を参照
	リチウムイオン充電池。リサイクルまたは正しい方法で廃棄すること
	再生可能材質
	米国およびカナダにおけるタイプLおよびタイプRリスティング・ マーク
	関連するオーストラリアのEMC要求事項に適合
	日本の電気/電子機器および構成部品に対する認証

シンボルと標識	説明
	お住まいの国で指定された要求事項にしたがって廃棄してください。
	安全性クラスII機器（強化絶縁）
	このマークは、直流/交流電源アダプターのプラグ極性を示すものです。
	カナダと米国におけるレコグナイズド・コンポーネントのマーク
	世界で最も認知された安全性のマーク。この安全性表示は、当製品がIEC 60601-1に対してテスト済であることを示しています
IP43	エンクロージャーの侵入保護コード IEC 60529 に対応
	技術適合マークは、無線装置が日本の無線法で規定された技術規制に準拠していることを証明するものです。I–15+でのみ有効です。
	関連する日本のEMC要求事項に適合します。I–15+でのみ有効です。

1.3 使用目的

Tobii Dynavox I-Series+ は、補助代替コミュニケーション（AAC）製品として、ユーザーのコミュニケーション能力を高めると共に、さらなる独立を支援するために特別設計された音声発生装置（SGD）です。

Tobii Dynavox I-Series+ の主な目的は、負傷、障害や病気のために話す能力に障害がある方の日常的なコミュニケーションを補完することにあります。このような意図された用途は、長時間持続型の充電池、より優れた音質、高度な耐久性、環境制御や接続機能の内蔵など、数々のデザイン上の特徴に反映されています。

Tobii Dynavox I-Series+ は、Tobii アイトラッカー（オプション）および手で触れることで操作可能な静電容量式タッチパネルを搭載した Gaze Interaction デバイスです。このデバイスは、2 つの置き方で使用するように設計されています。その一つは、Gaze Interaction の使用を目的とする直立した、あるいは取り付けられた（適切な表面に縦方向に直立させた）置き方、もう一つはタッチパネルの使用に最適な、横に寝かせた（水平に寝かせた）置き方です。Gaze Interaction およびタッチパネルは、付加的な入力方法としてスイッチ、キーボードやスキャニングを組み合わせて使用することができます。

Tobii Dynavox I-Series+ は、主に対面型のコミュニケーションを、そして二次的に長距離のコミュニケーション、コンピューターへのアクセスやオンラインによる交流を行う目的で設計されています。Tobii Dynavox I-Series+ を使用することで、ユーザーは文字または記号を使って合成 (コンピューター音声) またはデジタル (録音された音声) の話し言葉を生成し、対面のコミュニケーションができます。多様なコミュニケーション方法により、Tobii Dynavox I-Series+ のユーザーは潜在能力を最大限に実現することができます。

Tobii Dynavox I-Series+ は、ユーザーがテキストメッセージ、チャットや音声通信を通じて、Bluetooth® で携帯電話へ、WiFi で Skype® へ、そしてインターネットでEメールやその他 Facebook® のような第三者のアプリケーションを利用できる、数多くの通信オプションを可能にします。

また、Tobii Dynavox I-Series+ を使うとユーザーは Microsoft® Windows 環境が提供する自由と柔軟性を得ることができ、テレビやその他の家電を GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコンにより操作できるようになります。

Tobii Dynavox I-Series+ は耐久医療機器の基準を満たしています。また、医療機器クラス I にも登録されています。Tobii Dynavox I-Series+ には 2 つのサイズがあります。また、ロックされた専用の音声発生装置としても利用可能です。

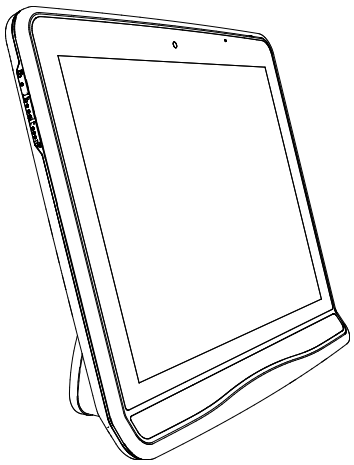
Tobii Dynavox I-Series+ は生命維持装置ではありません。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに支障が生じた場合、ユーザーはこれを使ってコミュニケーションを取ることができなくなります。

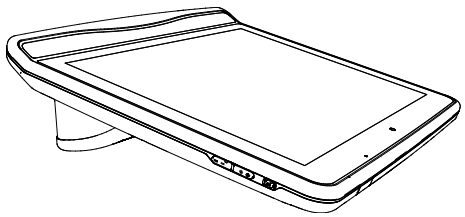
1.3.1 携帯利用

携帯型の Tobii Dynavox I-Series+ は、 2 つの異なる位置で使用可能です。

- 直立
- 平ら



直立



平ら

直立方向は、 Gaze Interaction ユーザーに最適で、平らな位置はタッチパネルまたはスキャンのユーザーに最適です。

1.3.2 取り付けによる利用

Tobii Dynavox I-Series+ は複数の取り付けシステムに装着することができます。デバイスにTobii Dynavoxクイックリリース (QR) アダプターパネルを装着します。Tobii Dynavox QR アダプターパネルは次のサポートシステムに取り付けることができます。

- Daessy
- REHAdapt

詳細な手順については、*3.6 Tobii Dynavox* クイックリリース・ アダプター・ パネル、ページ *21* と 付属書 *F* 承認済みのアクセサリー、ページ *102*を参照してください。

1.4 パッケージの内容

Tobii Dynavox I-Series+ の梱包材は保管しておいてください。

保証内容に関連する問題や修理のためにデバイスをTobii Dynavoxに返品する必要が生じた場合は、発送に元のパッケージ (あるいは同等のもの) を使用することが求められます。

1.4.1 Tobii Dynavox I-Series+ Tobii Dynavox Communicatorと

以下のアイテム が Tobii Dynavox I-Series+ のパッケージに含まれています。

- デバイス (12″ または 15″) 1つ
- アイトラッカー (内蔵) 1つ
- Tobii Dynavox QR アダプターパネル1つ
- バッテリー2個
- 電源装置1個

- Windows 10 ライセンス 1つ
- Tobii Dynavox Communicator 1つ (インストール済)
- Tobii Dynavox Sono Suite 1つ (インストール済)
- Tobii Dynavox I-Series+ User's Manual (PDF 文書としてデバイスに内蔵) 1部
- クイックスタートマニュアル (印刷されたもの) 1部
- セーフティおよびコンプライアンス関連文書
- 製品保証に関する文書

1.4.2 Tobii Dynavox I-Series+ と Tobii Dynavox Compass

以下のアイテム が Tobii Dynavox I-Series+ のパッケージに含まれています。

- デバイス (12″ または 15″) 1つ
- アイトラッカー (内蔵) 1つ
- Tobii Dynavox QR アダプターパネル1つ
- バッテリー2個
- 電源装置1個
- Windows 10 ライセンス 1つ
- Tobii Dynavox Compass 1つ (インストール済み)
- Tobii Dynavox I-Series+ User's Manual (PDF 文書としてデバイスに内蔵) 1部
- クイックスタートマニュアル (印刷されたもの) 1部
- セーフティおよびコンプライアンス関連文書
- 製品保証に関する文書

2 セーフティ

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、当取扱説明書の 付属書 *B* 準拠に関する情報、ページ *88* および 付属書 *E* 技術仕様書、ページ *98* に挙げられる、医療用デバイス規格 (クラス 1/タイプ B) を含むすべての仕様と規格に対して準拠していることが試験および認証されています。それにも関わらず、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを安全に操作するために配慮すべき、いくつかの安全に関する警告があります。

このデバイスに変更を加えることは許されていません。

Tobii Dynavox I-Series+ は生命維持装置として使用しないでください。また、電源の停止やその他の原因により機能が喪失された場合に、このデバイスに依存することはできません。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの小さい部品が外れた場合には、これが窒息のリスクとなる場合があります。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、大雨や、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの技術仕様に規定される天候条件以外の環境に晒したり、そのような状況で使用しないでください。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスには、必ず取り付け説明書が添付されている Tobii Dynavox I-Series+ 専用のアクセサリのみを使用するようにしてください。

小さいお子様や、知覚障害者は、両親や保護者の監視なしに Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに接したり、使用してはいけません。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの画面側の側面に装飾を施したり付箋を貼らないでください。Gaze Interaction やタッチパネルの性能に影響をおよぼす可能性があります。

2.1 聴覚の損傷を防ぐために

イヤホン、ヘッドホン、またはスピーカーを高音量で使用すると、永続的な難聴を引き起こす恐れがあります。これを防ぐために、音量は安全なレベルに設定してください。時間と共に高音量に対して鈍感になり、許容範囲内のように聞こえても、聴力に害を与える可能性に変わりはありません。耳鳴りのような症状が出た場合は、音量を下げるかイヤホン/ヘッドホンの使用を停止してください。音量が大きいほど、より短期間で聴覚に影響が及ぼされるようになります。

聴覚専門家は聴覚を保護するために、以下の対策を提案しています。

- 高音量でイヤホンまたはヘッドホンを使用する時間を制限する。
- 騒音環境を遮断するために音量を上げるのを避ける。
- 自分の近くで人が話しているのが聞こえない場合、音量を下げる。

安全な音量レベルを確立するために：

- 音量コントロールを低く設定する。
- ひずみがなく、明瞭に、無理なく音が聞こえるまで音量をゆっくり上げる。

2.2 温度

このデバイスは、携帯と設置の2種類の異なるモードで使用できます。設置モードに設定されている場合、デバイスはより高温で稼働することができます。デバイスは、許容最高環境温度をより高いレベルに設定します。デバイスをこのモードで運用する場合のリスクは、継続的な使用によりデバイスが高温に達し、肌が直接接触した状態が続くと恒常的な肉体的障害を及ぼす可能性があることです。携帯モードは最高デバイス温度のシャットダウン限度を低めの温度に設定するため、継続的な肌の露出により生じる恒常的肉体的障害のリスクを低減させます。設置モードを選択するのは、適切な装着システムを用いてデバイスが車椅子やテーブルなどに取り付けられている場合に限定してください。

直下日光やその他の暑い環境での使用により、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは表面が熱くなることがあります。内蔵の温度センサーが搭載されており、温度を監視するようになっています。表 *D.1* 最高許容温度、ページ *97*で携帯モードと設置モードに対して指定された温度を超える値をセンサーが検知した場合、デバイスは、ユーザーに危害が生じることがないように、自動的に Windows をシャットダウンするか、スリープ状態にします (Windows 電源ボタンの設定によって異なる) 。ユニットは冷却する時間が必要なため、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを再起動するのに時間がかかることがあります。

2.3 電源供給とバッテリー

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスにはリチウムイオンバッテリーが搭載されています。これらのバッテリーの6か月間の保存温度範囲は-20℃ から 40℃です。

あなたが暑い環境にいる場合は、バッテリー充電能力に影響が生じる可能性があることに注意してください。バッテリーの充電が可能になるには、内部の温度が 0 ℃ と 45 ℃ の間でなければなりません。内部のバッテリー温度が45 ℃ を超えると、バッテリーは全く充電しません。

バッテリーが正常に充電されるようにするには、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスとバッテリーをより涼しい環境に移動してください。

バッテリーを火や 50 ℃ を超える温度に露出しないようにしてください。前記の条件にさらすとバッテリーが故障、熱を放射、発火または爆発するおそれがあります。最悪の事態として、例えば、暑い日の車のトランク内などは上記の温度以上に達する可能性があるので注意してください。つまり、バッテリーが装着された状態でデバイスを熱くなった車のトランクに保管すると、デバイスの故障につながる恐れがあります。

バッテリーを分解したり、傷つけたりしないでください。バッテリーの投棄の際には、お客様の地域の環境法や環境規制に留意してください。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを安全に動作させるためには、Tobii Technology が承認する充電器、バッテリーおよびアクセサリーのみを使用してください。

人体が危険な電圧にさらされる可能性があるため、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの金属外箱を開けたり、改造したりしないでください。デバイスには修理可能な部品は含まれていません。Tobii Dynavox I-Series+ デバイスもしくはそのアクセサリーが機械的に損傷した場合は、使用しないでください。

バッテリーが充電されない場合や Tobii Dynavox I-Series+ が電源装置により起動されない場合、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスはシャットダウンします。

電源供給ケーブルが損傷されている場合は、有資格の修理担当者以外はこれを取替えないでください。

非医療規格の電源供給器が使用されているデバイスを、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスのコネクターに接続しないでください

電源供給器のカプラーもしくは取り外し可能なプラグが主電源遮断デバイスとして使用されるため、遮断デバイスの運用を困難にするような場所に Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを配置しないでください。

リチウムイオンバッテリーの発送には特別な規則が適用されます。これらのバッテリーを落としたり、粉砕したり、ショートさせた場合は危険なレベルの熱を発して引火する可能性があるため、火災の危険があります。

リチウム金属あるいはリチウムイオンバッテリーを発送する場合は、IATA規則を参照してください。http://www.iata.org/whatwedo/cargo/dgr/Pages/lithium-batteries.aspx

2.4 接続部

Tobii Dynavox I-Series+ は、認可された取付け部材メーカーの指示通りに装着してください。Tobii Dynavox および同代理店は、Tobii Dynavox I-Series+ が落下したことに起因する人物や物体への損害または傷害に対して、責任を負いません。Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの装着は完全にユーザの自己責任で行われるものとします。

2.5 緊急時

本デバイスを、緊急通報や銀行取引用に使用しないでください。緊急の場合に備えて複数の手段を用意しておくことをお勧めします。銀行取引は、ご利用の銀行が推奨するシステム、および銀行の基準に従って認可されたシステムによってのみ行う必要があります。

2.6 赤外線

Tobii Dynavox I-Series+は、アイトラッカーと環境制御ユニットからパルス赤外線（IR）光線を発します。IRで制御される他のデバイスまたはIR光線の妨害に弱い他のデバイスは、Tobii Dynavox I-Series+から発せられるIR光線の影響を受ける場合があります。このようなデバイスの機能の重要性が高い場合は、このようなデバイスの周囲でTobii Dynavox I-Series+を使用しないでください。

2.7 てんかん

光過敏性てんかん を患う人の中には、日常生活において特定の点滅光または光のパターンにさらされた際にてんかん発作または意識消失の症状を起こす人がいます。このようなことは、てんかんの既往歴またはてんかん発作を起こしたことがない人に発生することもあります。

光過敏性てんかんを患う人は、TV 画面、特定のビデオゲーム、および点滅する蛍光灯でも症状を起こす可能性があります。このような人々は、画面上の特定のイメージまたはパターンを見る際、またはアイトラッカーの光源にさらされただけでも発作を起こす場合があります。てんかん患者の約 3～5% の人々がこのタイプの光過敏性てんかんであると見積もられています。光過敏性てんかん患者の多くは、発作が起こる前に「オーラ」や、奇妙な感覚を体験します。使用中に奇妙な感じがしたら、目をアイトラッカーからそらしてください。

2.8 電気

人体が危険な電圧にさらされる可能性があるため、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの金属外箱を開けないでください。デバイスには修理可能な部品は含まれていません。

2.9 子供の安全

Tobii Dynavox I-Series+ は高度なコンピューターシステムであり、また電気機器です。そのため、本製品は複数の別個の、組み立てられた部品で構成されています。子供の手により、これらの部品の一部は機器から取り外される可能性があり、子供の窒息の危険性またはその他の危険を呈することになり得ます。

小さいお子様は、両親や保護者の監視なしにデバイスに接したり、使用してはいけません。

2.10 環境制御

GEWAプログラム設定が可能な赤外線リモコン — 環境制御ユニット（ECU）を、赤外光制御デバイスの唯一の通信方法として使用しないでください。

2.11 Gaze Interaction

ユーザーによっては、当初 Gaze Interaction デバイスにまだ馴染んでいない場合、意図的に視線を合わせたり、高度に集中することによって生じる一定レベルの疲労や、頻繁なまばたきによって起きる目の乾きを経験することがあります。疲労や目の乾きを経験した場合は、最初はゆっくりと使用し始め、Gaze Interactionセッションの長さを快適なレベルに抑えるようにしてください。目の潤いを取り戻す目薬も、目の乾きの対応策として効果的です。

2.12 第三者

想定された用途以外でのTobii Dynavox I-Series+の使用や、想定された用途を**変**える他社のソフトウェアまたはハードウェアとの**併**用はリスクであり、Tobii Dynavoxは一切の**責**任を**負**いかねます。

3 Tobii Dynavox I–12+ と I–15+ の概要と

3.1 主要な機能

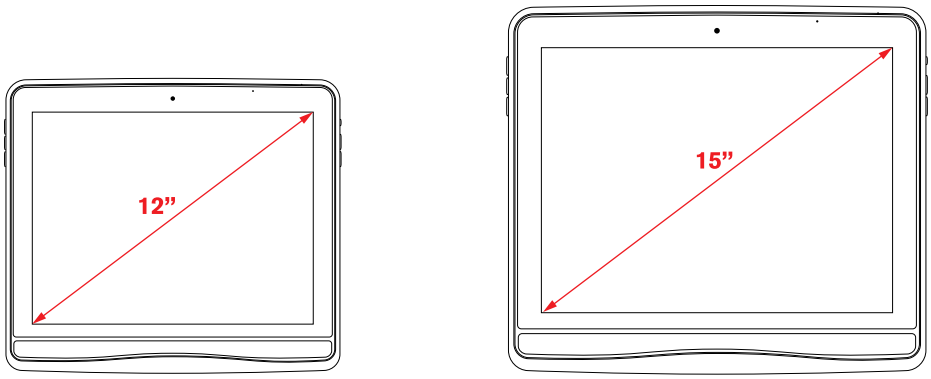
Tobii Dynavox I-Series+ には複数の機能が搭載されています。これらの一部の機能は標準装備されていますが、その他は追加機能としてご注文いただけます。

標準機能:2 × カメラ、1 × マイク、2 × スピーカー、1 × ECU（環境制御ユニット）、1 × Bluetooth®（携帯電話等で使用するためのもの）および 1 × WLAN（ワイヤレス・ローカル・エリア・ネットワーク）

3.2 本機について

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスにはカラーの静電容量タッチパネル、LEDバックライトスクリーンが採用されています。Tobii Dynavox I–12+には解像度 1024 × 768、サイズ 12.1″の画面が付いています。Tobii Dynavox I–15+には解像度 1024 × 768、サイズ 15.0″の画面が付いています。

3.2.1 Tobii Dynavox I–12+ と Tobii DynavoxI–15+



3.2.2 ポート、センサーおよびデバイスのボタン

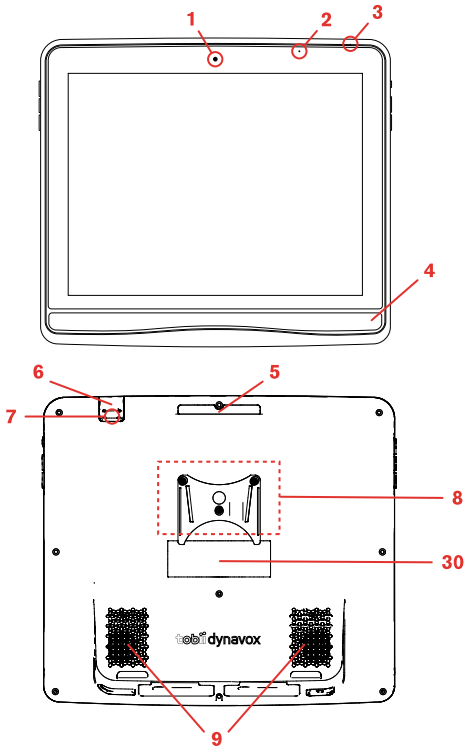


図 3.1 表面と裏面

位置	説明	位置	説明
1	ウェブカメラ、2メガピクセル、固定焦点 (FF)レンズ	6	GEWAプログラム設定が可能な赤外線リモコン (送信機) この部品は単に赤外線信号を送信するためのものです。デバイスのプログラム設定を行うには、図 *3.2* 底面、左側、右側、ページ *18* の製品箇所27に示すポートを使用してください。
2	光センサー	7	カメラ、5メガピクセル、オートフォーカス (AF)
3	マイク	8	接続部
4	アイトラッカー	9	スピーカー
5	持ち運び用取っ手	30	ラベル

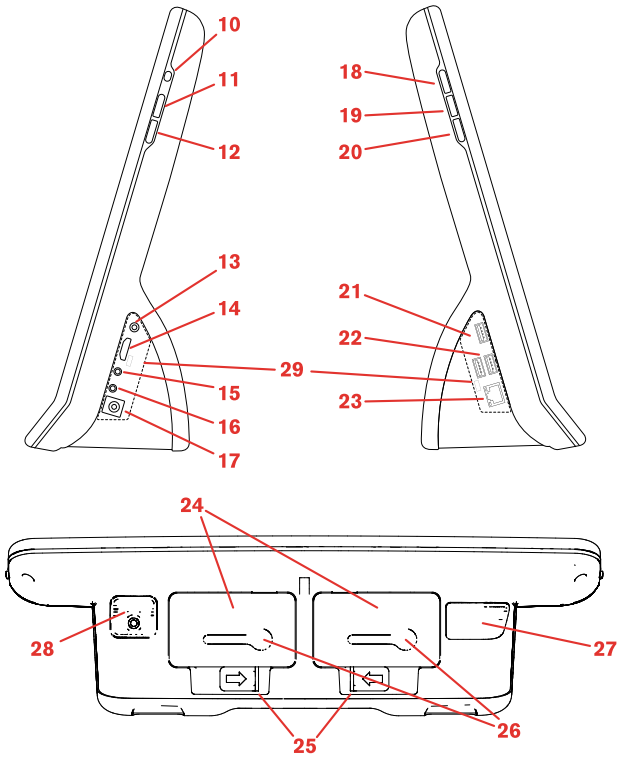


図 3.2 底面、左側、右側

位置	説明	位置	説明
10	電源ボタン	20	メニューボタン
11	音量を上げるボタン	21	USB 3.0 コネクタ
12	音量を下げるボタン	22	2× USB 2.0 コネクタ
13	ヘッドホンジャック 3.5 mm	23	RJ45 ネットワークコネクタ
14	HDMI 1.3 ケーブル用コネクタ	24	バッテリー
15	スイッチポート 1	25	バッテリーのスライド型ロック
16	スイッチポート 2	26	バッテリー表示
17	電源接続部	27	GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコン (送受信機) Tobii Dynavox Communicator /- Tobii DynaVox Compass 内から GEWA のプログラミングを行う際にこのポートを使用します。
18	クイックアクセス・ボタン 1 (設定可能)	28	microSD カード (蓋の下にあり)
19	クイックアクセス・ボタン 2 (設定可能)	29	I/O カバー (IP43 規格を満たすため)

決してコネクタをポートに無理に押し込まないでください。コネクタとポートが簡単に接続できない場合は、おそらく適合性に問題があります。コネクタとポートに適合性があり、ポートに対してコネクタを正しく配置したことを確認してください。

USB コネクタの取り扱いには十分ご注意ください。

3.3 プリインストールされているソフトウェア

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは注文されたソフトウェア、および必要なソフトウェアがすでにインストールされ、すぐに使える状態で配達されます。いずれかの時点で再インストールが必要になった場合は、工場出荷状態に初期化してください。詳細情報については、*5.11 工場出荷時の設定に戻す、ページ 50*を参照してください。

Windows® の製品番号は、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの背面に記載されています。

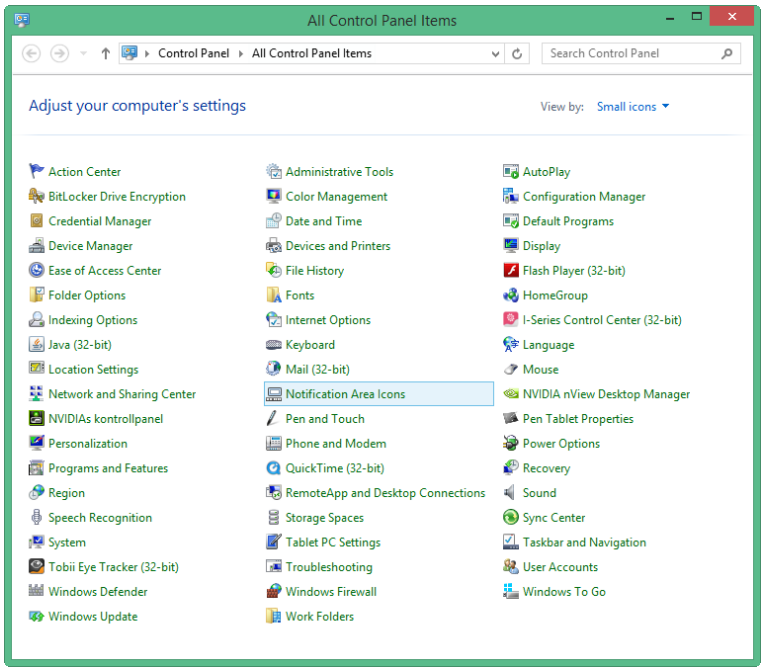
3.4 デバイスの設定

デバイスのハードウェア機能を設定するには、プリインストールされた **I-SeriesControl Center** を使用します。以下の内の1つの方法で**I-Series Control Center** にアクセスできます。

- デスクトップの**I-Series Control Center** のショートカットをクリックします 。

または

1. スタートメニュー > コントロールパネル に進みます。



2. コントロールパネルがクラシック表示になっている場合は、**I-Series Control Center** をダブルクリックします。
   コントロールパネルがカテゴリ表示になっている場合は、表示方法 **>** 小さなアイコンまたは大きなアイコンを選択し、**Tobii Dynavox I-Series+ Control Center** をダブルクリックします。

または

1. スタートメニュー **> Tobii Dynavox >**に進みます。
2. **I-Series Control Center,** をクリックします。

または

- デバイスにインストールされた通信ソフトウェアを介して行う場合。

リストの左側から変更するハードウェア設定を選択します。右側の部分に様々な設定が表示されます。変更は即座に実行されます。

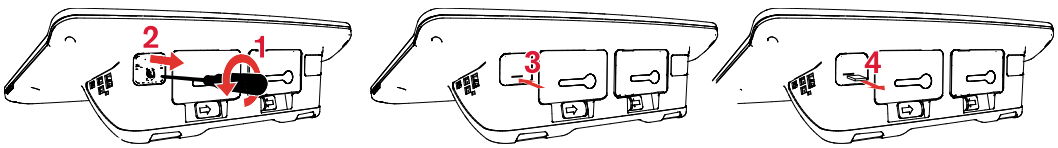
I-Series Control Center を使った Tobii Dynavox I-Series+ の設定についてのより詳しい情報は、 *6 I-Series Control Center による Tobii Dynavox I-Series+ の設定、ページ 52* をご覧ください。

のアイコンがあるところでは、アイコン上を短い間マウスオーバーさせるか、または画面上のアイコンに触れると、情報ボックスが表示されます。

3.5 microSD カードへのアクセス

microSD カード（ *図 3.2 底面、左側、右側、ページ 18* の製品箇所28 ） は、初期設定で Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに事前にインストールされています。

3.5.1 microSD カードの取り出し

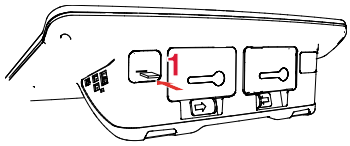


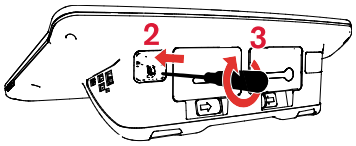
microSD カードを取り出すには、

1. Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを平らな面に画面を下にして置きます。
2. プラスのドライバーで蓋を固定しているネジを外します。
3. 蓋を取り外します。
4. microSD カードを押すとロックが解除されます。
5. カードをソケットから取り出します。
6. 蓋を取り付けます。

7. プラスのドライバーでネジを締め、蓋を元の位置に固定します。

3.5.2 microSD カードの挿入





microSD カードを挿入するには、

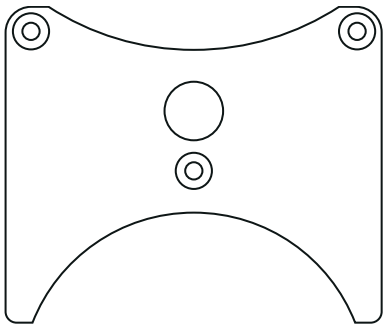
1. Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを平らな面に画面を下にして置きます。
2. プラスのドライバーで蓋を固定しているネジを外します。
3. 蓋を取り外します。
4. 慎重に microSD カードをソケットに挿入します。

   無理に microSD カードを押しこまないでください。コネクタと microSD カードが簡単に接続できない場合は、おそらく適合性に問題があります。

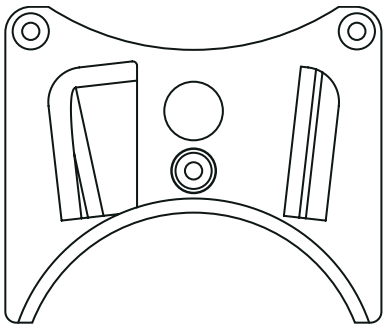
5. 蓋を取り付けます。
6. プラスのドライバーでネジを締め、蓋を元の位置に固定します。

3.6 Tobii Dynavox クイックリリース・アダプター・パネル

Tobii Dynavox QR アダプター・パネルには2つの側面があります。



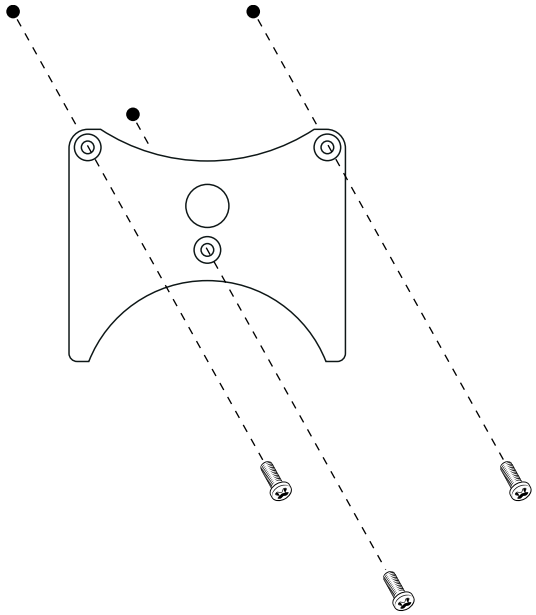
Daessy



REHAdapt

取り付けシステムを使用するには、Tobii Dynavox QR アダプター・パネルが Tobii Dynavox I-Series+ の反対方向に面するようにしてください。

3.6.1 Tobii Dynavox QR アダプターパネルの取り付け



Tobii Dynavox QR アダプターパネルを取り付けるには、

1. Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを平らな面に画面を下にして置きます。
2. パネルの必要な**側**面を**選択**します。*1.3.2* 取り付けによる利用、ページ *10* を参照してください。
3. 必要な**側**面がユニットの反**対**を向くようにパネルをデバイスに配置します。
4. トルクス T20 ドライバーを使って3つのネジ (3) を**締**め、パネルをユニットに固定します。

3.6.2 Tobii Dynavox QR アダプターパネルの取り外し

Tobii Dynavox QR アダプターパネルを取り外すには、

1. Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを平らな面に画面を下にして置きます。
2. トルクス T20 ドライバーを使ってパネルをユニットに固定している3つのネジ (3) を外します。
3. パネルを取り外します。

4 Tobii Dynavox I-Series+のバッテリー

4.1 バッテリー

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスには2つのバッテリーケースがあります。Tobii Dynavox I–12+ と I–15+ のバッテリーは、両方とも同じサイズと容量です。付属書 *E* 技術仕様書、ページ *98* をご覧ください。

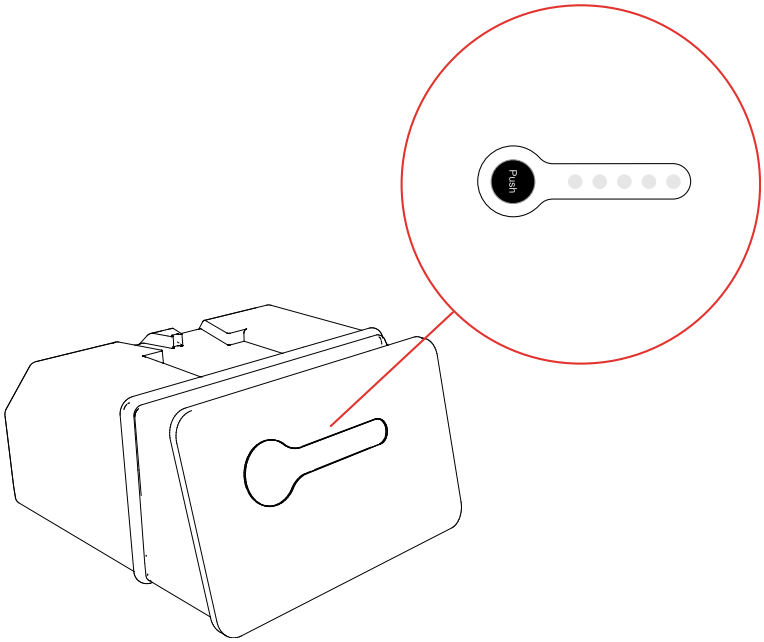


図 4.1 残量表示つきのバッテリー

4.1.1 ホットスワップ可能

残りのバッテリーが十分に充電されている場合は、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの電源を切らずに1つのバッテリーを取り外し/交換できます。デバイスが動作するには、バッテリー残量が少なくとも10%程度である必要があります。

もう一方のバッテリーを取り外す前に、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスが新たに挿入されたバッテリーを識別するまでしばらくお待ち下さい。

4.2 充電

バッテリーは、同梱のアダプター、または I-Series テーブル充電器 (同梱されていません。別途購入が必要です) を使ってのみ充電してください。Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに電源が入っておらず、アダプターのプラグが差し込まれている状態では、完全に放電されたバッテリーの充電には最高 5 時間かかります。デバイスはバッテリーの充電中も使用できますが、バッテリーが完全に充電されるまでの時間は長くなります。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイス内と I-Series テーブル充電器の両方の使用時に充電が行われるように、バッテリーを挿入する前に、アダプターが壁のコンセントとデバイスまたは充電器の両方に差し込まれていることを確認してください。

バッテリーが充電されるのは、容量が 95% 以下になった場合に限られます。

バッテリーの推定寿命は 500 充電/放電サイクルです。その後は、バッテリー容量は、使用時間において約20%減ります。

バッテリーの保存温度と充電温度については、*2* セーフティ、ページ *12* を擬卵ください。

4.2.1 充電レベルの確認

通知領域のバッテリーのアイコン、 をクリックすると、デバイスに装着されているバッテリーの残量を確認できます。

また、バッテリー表面のインジケーターボタンを押すと、バッテリーのステータスをいつでも確認できます。5つの LED (発光ダイオード) は残りの充電レベルを示します。例えば、LED が3つ点灯している場合は、残りの充電は 60% であることを示します。図 *4.1* 残量表示つきのバッテリー、ページ *23* をご覧ください。

充電中は、最大容量の LED インジケーターが点滅します。

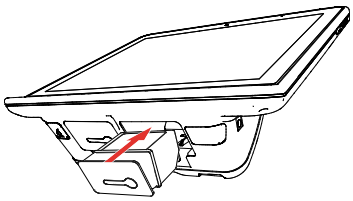
バッテリーの容量が10%未満に下がった場合にインジケーターボタンが押されると、最小容量の LED インジケーター (“20” LED) もまた点滅します。そのため、20% インジケーターの点滅を充電の保証として考えてはいけません。

バッテリーの放電量が多い場合は (これは、電源アダプターを接続せずに、空のバッテリーを Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに挿入されたままにした場合に発生することがあります)、アダプターを Tobii Dynavox I-Series+ デバイスまたはテーブル充電器に適切に再接続しても、充電状態が表示されない場合があります。充電が行われていることを示す LED が現れるまでに、多少時間がかかることがあります (最高 20 分)。この間にバッテリーは充電されますが、これは通常の充電を開始するのに十分になるまでレベルを上げるリカバリ充電です。

4.3 バッテリーの挿入と取り外し

安全上の理由から、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスはバッテリーが挿入されていない状態で配達されます。またバッテリーは完全に充電されていない状態で配達されますが、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは直ちにご利用いただけます。ただし、少なくとも2時間充電した後にデバイスをご利用することをお勧めします。

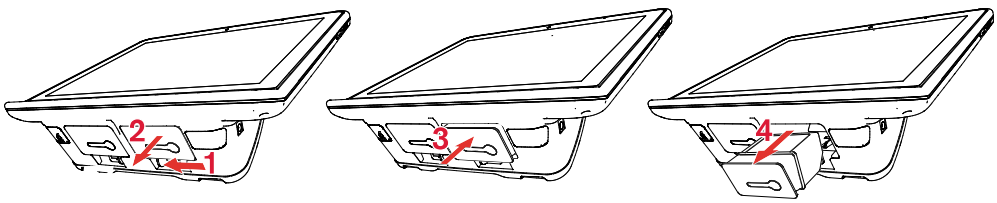
4.3.1 バッテリーの挿入



バッテリーを挿入するには、

1. バッテリーをバッテリーケースに挿入します。
2. 所定の位置にロックされるまでバッテリーを押してください。バッテリーが所定の位置にロックされたことを示す、カチッという音が聞こえます。

4.3.2 バッテリーの取り外し



Tobii Dynavox I-Series+ が直立位置にある場合：

1. バッテリーのスライド型ロックを横にスライドさせます。
2. バッテリーを取り出します (バッテリーは 1 cm ほどはみ出ます) 。
3. バッテリーをもう少し外に出します (バッテリーを再度一番奥まで押さないでください) 。
4. バッテリーを挿入部から取り出します。

Tobii Dynavox I-Series+ が横に寝かされてある場合：

1. Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを平らな面に画面を下にして置きます。
2. バッテリーのスライド型ロックを横にスライドさせます。
3. バッテリーを挿入部から取り出します。

5 Tobii Dynavox I-Series+ の使用

文字が読める限りは、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの利用に他のスキルは不要です。このユーザー用取扱説明書とクイックスタートガイドの指示に従ってください。

5.1 デバイスの起動

以下の内の1つの方法でデバイスを起動します。

- デバイスの右側の電源ボタンを押します。(図 *3.2* 底面、左側、右側、ページ *18* の製品箇所9)
- 設定済みのスイッチを有効化します (*6.3* スイッチ を参照) 。

デバイスを起動すると、デバイスが交流電源とバッテリーのどちらに接続されているかにより、電源 LED が青か緑に点灯します。LED の点灯パターンについてのより詳しい情報は、付属書 C コンピューターデバイスの運用状況、ページ *95* をご覧ください。

5.1.1 パスワード情報

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、現存のオペレーションシステムではパスワードなしに起動するように設定されています。パスワードポップアップ画面が出てくることが稀にあります。たとえばオペレーションシステムで新規ユーザーを作成しているときや、オペレーションシステムのスリープモードから復帰するとき、またはインターネットでソフトウェアの更新をダウンロードしている時などです。

新規の Windows ユーザーの作成やインターネットからの更新のダウンロードによって、Tobii Technology で設定およびインストールされたオペレーティングシステムのシステムとソフトウェアの設定が損なわれる可能性があります。

パスワードポップアップ画面が現れてパスワードの入力が必要な場合、すべての Tobii Dynavox I-Series+ デバイスのデフォルトのパスワードは 「**Iseries**」(大文字と小文字を区別) です。パスワードを入力するには、Windows のオンスクリーン・ キーボードあるいは外付の USB キーボード (同梱されていません) を使用してください。

パスワードを変更する場合は、必ず書き留めて、後で参照できるように安全な場所に保管してください。

新しいパスワードの保管に推奨の場所：_____

オペレーティングシステムのアクセスパスワード無しでは、Tobii Dynavox サポートはお客様の将来発生する問題への支援ができない場合があります。

5.1.2 Tobii Dynavox I-Series+ Welcome Guide

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを初めて起動すると、Tobii Dynavox I-Series+ Welcome Guide が表示されます。このガイドは、デバイスを最大限に活用できるように、いくつかのステップで段階的に説明するセットアップウィザードです。

指示に従い、 次へ を選択してガイドの次のページに進んでください。

Welcome Guideが完了した後、I-Seriesで自動再起動が実行されます。

5.2 デバイスの終了

以下の内の1つの方法でデバイスを終了します:

- ウィンドウズのスタートメニューを使用 (可能な場合はこの方法をお勧めします)。
- 設定済みのスイッチを2～7秒間押し続ける。

  スイッチを7秒以上押し続けると、保存されていない変更を無視してデバイスが直ちに終了します。

- デバイスにインストールされた通信ソフトウェアを介して行う場合

上記のどちらの方法でもデバイスを終了できなかった場合は、デバイスの右側にある電源ボタンを7秒間押し続けてください。これによって、開いているアプリケーションが閉じるのを待たずにデバイスは即座に終了します。

Tobii Dynavox I-Series+ Control Center で側面のボタンが無効にされている場合は、この方法は利用できません。詳細な手順については、*6.1.2* すべてのボタンを無効にする、ページ *53* を参照してください。

これは「クリーンな」ウィンドウズの終了とは見なされないため、本当に必要ではない場合には推奨されません。

5.3 Gaze Interaction使用

Tobii Dynavox I-Series+ はメガネ、コンタクトレンズ、カラーコンタクトレンズや光の条件に関係なく正確に機能します。ユーザーは、Gaze Interaction コミュニケーターのように Gaze が有効化されたアプリケーション (Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass など) や2種類のWindows Control を利用した視線の動きによりコンピューターをコントロールすることが可能になります。*5.4.1 Windows Control* の種類、ページ *29* を参照してください。

5.3.1 配置

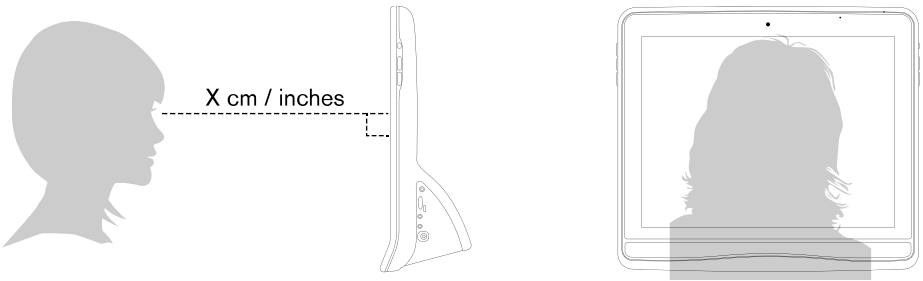


図 5.1 配置

Tobii Dynavox I-Series+ は、ユーザーの目と平行に約 60 cm 離れた距離で最適に動作するように設計されています。図 *5.1* 配置、ページ *27* をご覧ください。

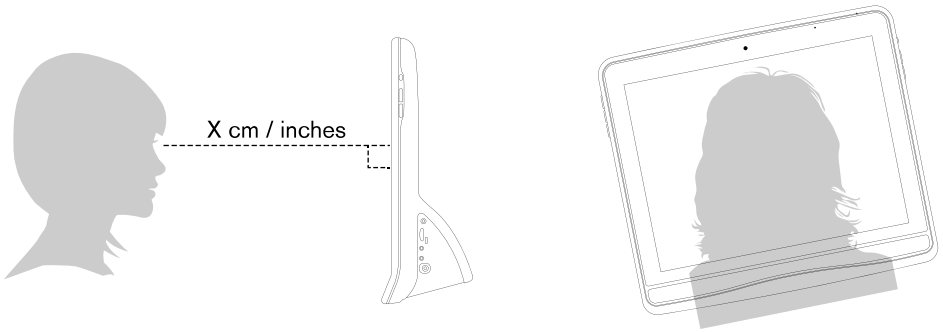


図 5.2 ユーザーが横に身体を曲げたり横になっている場合の配置

つまり、横に身体を曲げたり、横になったりしているユーザーの場合、Tobii Dynavox I-Series+ も傾けて、最適な距離でユーザーの目を画面に平行に保つ必要があります。図 *5.2* ユーザーが横に身体を曲げたり横になっている場合の配置、ページ *27* をご覧ください。

ユーザーの快適性を考慮して、ユーザーに対する本ユニットの最適な位置と距離を決めてください。太陽光が画面またはユーザーの目に直接照射していない方が、ユーザーの快適さと Gaze Interaction の性能が増すことにも留意してください。

できるだけ最適な Gaze Interaction を可能にするために、ユーザーは最適な距離を置く必要があります。

5.3.2 トラックボックス

Tobii Dynavox I-Series+ では、存分な頭の動きが可能です。Tobii Dynavox I-Series+ が一度正しくキャリブレーションされ、ユーザーの前に配置された後は、更なる調整は不要です。

Tobii Dynavox I-Series+ は業界トップサイズのトラックボックスを生産しており、およその寸法は 30 cm × 20 cm × 20 cm（横幅 × 高さ × 奥行き）です。トラックボックスとは、画面の中央上寄りの位置から約 60 c m 離れたところにある、仮想上の箱のことです。

70 cm (27.5インチ) で、Tobii Dynavox I-Series+に搭載されているアイトラッカーにより、Tobii Dynavox I-Series+は約50 × 36 cm (20 × 14インチ) または35 × 30 cm (13.8 × 11.8インチ) の領域で、 ヘッドを自由に水平移動できます。詳細情報については、付属書 *E* 技術仕様書、ページ *98*を参照してください。

Gaze Interaction が正常に機能するためには、ユーザーは少なくとも片目がトラックボックス内に常に入っているようにする必要があります。

5.3.3 トラックステータス・ビューアー

トラックステータス・ビューアーを使って（トラックステータス・ビューアーについての詳細は *5.3.3.1* トラックステータスの表示 、ページ *28* を参照 ）Tobii Dynavox I-Series+ の Gaze Interaction の最適な高さと水平方向の配置場所を決定します。

- ユーザーの目に対応する2つのマルは、理想的にはトラックステータス・ビューアーの中心にあるようにしてください。
- トラックステータス・ビューアーの右側にある距離計を使って、Tobii Dynavox I-Series+ からのユーザへの最適な距離を確定してください。
- Tobii Dynavox I-Series+ とユーザーとの距離が最適になると、距離計の白い三角形が、緑の範囲の中央付近に移動します。

Tobii Dynavox I-Series+ のキャリブレーションについてのより詳しい情報は、*7.2* キャリブレーション、ページ *69* をご覧ください。キャリブレーションを行う際は、上記に関連して照明条件も確認してください。

5.3.3.1 トラックステータスの表示

トラックステータス･ビューアーは、Gaze Interaction がユーザーの目を認識できており、ユーザーがデバイスの前の正しい位置にいることを確認できるウィンドウ、あるいはダイアログです。

以下の内の 1 つの方法でトラックステータス･ビューアを開きます。

- **Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings** の設定 **>** キャリブレーションを開き、トラックステータスボタンを選択します。
- 通知領域内の **Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings** アイコン を右クリックし (タッチスクリーンでの右クリックは、アイコン上を指で一定時間押さえる動作になります)、トラックステータスの表示を選択します。

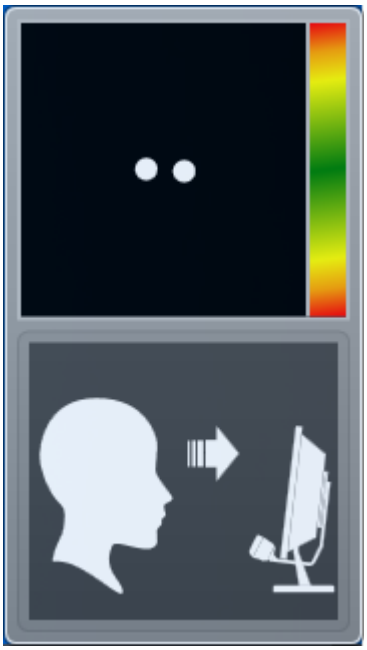
5.3.4 位置設定ガイド

位置設定でさらに支援をお求めの場合は、モニターの右下隅に自動表示される位置設定ガイドがあります。

位置設定ガイドは、トラックステータス・ビューアーの機能と、ユーザーが正しい位置設定を行うための補助となる6つの異なる画像ベースの指示を組み合わせた視覚的ガイドです。

6つの指示は、ユーザーに次の内容を指示します。

1. 頭を下に動かす。
2. 頭を上に動かす。
3. 頭を右に動かす。
4. 頭を左に動かす。
5. 頭をモニターに近づける。
6. 頭をモニターから遠ざける。



頭をモニターに近づける。

頭を右に動かす。

位置設定ガイドは、ユーザーの位置設定がガイドの指示通りに改善されると非表示されます。

ユーザーによっては、目が最適な位置から離れる度に位置設定ガイドがポップアップするのを好まない人もいます。

位置設定ガイドの自動表示をオンまたはオフにするには、*7.6 システム設定、ページ 78 をご覧ください。*

5.4 Windows Control の使用

Windows Controlは、Gaze Interaction を使ってデスクトップとWindowsコンピューターのすべてのアプリケーションにアクセスすることを可能にします。

5.4.1 Windows Control の種類

Windows Control は2つの異なるモードで使用することができます。

- **Gaze Selection**
  Gaze Selectionは非常に正確かつ高速な入力方法であり、使いやすいインターフェイスによる高度なWindowsアクセスを可能にします。誤ったクリック操作、意図しないマウスポインタの移動がありません。リラックスしながら、Windowsデスクトップ、ソフトウェアアプリケーション、Webページ、動画を見ることができます。次に実行するアクションが決まったら、ツールバーから任意のツールを選択し、対象領域に視線を戻し、選択を行います。

  Gaze Selectionは、迅速な決定や移動の必要がなく、完全なアクセシビリティで基本的にすべてのWindowsソフトウェアを制御する、高度なWindowsアクセスで最適です。Gaze (視線の停留)を使用して制御するか、アクティブ化方法を切り替え、制御と速度を高めることができます。

- **Mouse Emulation**
  Mouse Emulationでは、物理マウス入力デバイスを使用している場合のように、マウスポインタを完全に制御できます。左クリック、右クリック、ダブルクリック、ズーム、スクロールなどができます。基本的に、マウスクリックで動作するすべてのWindowsソフトウェアを制御できます。ある程度練習することで、他のマウスポインタデバイスと同等の精度を実現できます。Mouse Emulationは、高度なWindowsの使用が初めて(感覚)の場合や、視線の使用を教えるソフトウェアに最適です。機能を制限する場合や、キーボードのF2キーを押して不要な操作が発生しないようにする場合は、Mouse Emulationメニューを非表示にできます。

  Mouse Emulationで使用されるソフトウェアやゲームの例については、http://www.tobiidynavox.com/eyegames/をご覧ください。

使用する Windows Control の種類を選択し、Windows Control をカスタマイズするには、以下のステップに従います：

- **Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings** の設定 **> Windows Control** を開きます。詳細は *7.5 Windows Control*、ページ *76*を参照してください。
- **Windows Control** の種類で、希望する Windows Control の種類を選択します。

5.4.2 Windows Control の起動と無効化

Windows Control を起動するには、通知領域にある **Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings** アイコン を右クリックし、**Windows Control** を有効にするを選択します。

または

デスクトップで **Windows Control** ショートカット をダブルクリックします。これにより Windows Control がすぐに起動します。

Windows Control を無効にするには、通知領域の **Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings** アイコン を右クリックし、**Windows Control** を無効にするを選択します。

Windows Control は、Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass または Tobii Dynavox Eye Control SDK が供給する機能を実装したその他の通信ソフトウェアからも起動できます。

自動起動

- **Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings > Windows Control** を開きます。
- Tobii Dynavox Gaze Interaction Software の起動時に Windows Control を自動的に起動させたい場合は、**Windows Control** を起動時に自動スタートする チェックボックスをチェックします。

5.4.3 Gaze Selection の使用

Windows Control の Gaze Selection モードを使うと、ユーザーは不要なクリックをすることなく、2 ステップの選択方法で、標準 Windows デスクトップ・ オペレーティング・システムを制御することができます。また、視線でマウスカーソルを追うことを防ぎます (Gaze Selectionでは、マウスカーソルがふらふらと動くことはありません) 。

1. まず、ドックされたタスクバーを見て、そこから希望のタスクを選択します。

2. 次に、タスクを実行したいと思うスクリーンの部分（またはスクリーン上のアイコン）を見ます。自動ズーム機能が有効化され、アイコンの選択またはタスクの実行で終了します。

Gaze Selection のすべての機能に対してタッチとマウスが有効になっているため、ユーザーは、必要に応じて簡単に介護者や介助者の方の手を借りることができます。介護者や介助者の方は、より簡単に機能/タスクを選択したり、ユーザー用の設定を変更することができます。

5.4.3.1 Gaze Selection タスクバー

Gaze Selection タスクバー上部に、トラックステータス・ビューアーがあります。これは、アイトラッカーがユーザーの目を認識できており、ユーザーがデバイスの前の正しい位置にいることを確認できるようにするものです。

Gaze Selection タスクバーのタスクボタンは、図 *5.3 Gaze Selection* タスクバーのモード、ページ *32* に示される通り、3つの異なるモードが可能です。

- **標準 (未選択)** - Gaze Selection のためのタスクボタンが選択されていません。
- 一次選択（青/黒）- マークが付いたタスクボタンが選択され、ユーザーが画面上の希望の場所もしくはアイコンを見つめ自動的にズームされた後、タスクが実行されます。選択方法がGaze Selection 設定ダイアログ内のスイッチに設定されている場合、選択されたタスクボタンはタスクの実行後も有効のままになります。

  機能オーバーレイタスクはズーミングを実行しません。一次選択で機能オーバーレイを選択すると、その機能エリア/コマンドは有効になりますが表示はされません。

- 二次選択（青/白）- 一次選択と同じですが、より高精度です。一次選択とは、タスクが最終的に実行される前にズームが更に拡大され、希望する画面の部分がより大きくなり、その中がより選択しやすくなることです。下のイメージのように、色が変化するまでタスクボタンの上に視線を置くと、このモードがオンになります。

  機能オーバーレイタスクはズーミングを実行しません。二次選択で機能オーバーレイを選択すると、その機能が有効になり、各機能のエリアがユーザーに見えるようになります。

機能オーバーレイはズーミングを実行しません。また、他のいくつかのタスクも、特定の状況によってはズーミングを実行しません（スクロール、設定、キーボード）。

図 5.3 Gaze Selection タスクバーのモード

5.4.3.2 タスクボタン

タスクボタン	アクション	説明
	カーソルの配置	凝視するカーソルを配置できるタスク。
	視線のドラッグ/ドロップ	2つの「クリック」を行うタスクです。最初のクリックは、ドラッグのスタート位置を表し、2つ目のクリックはドロップ位置を表します（オブジェクトの移動または範囲の選択）。 ▪ タスクを選択します。 ▪ 移動させたいオブジェクト、または選択範囲のスタートポイントを見ます。 ▪ スイッチまたは注視で Gaze Selection（最初の「クリック」）を実行します。 ▪ 直ちに、オブジェクトのドロップ位置、または選択範囲の終了ポイントを見ます。 ▪ スイッチまたは注視で2回目の「クリック」を実行します。

タスクボタン	アクション	説明
	視線のスクロール	スクロール可能なウィンドウで行った場合、視線でコントロールしてページをスクロールすることができるタスクです。 ▪ タスクを選択します。 ▪ スクロールできる部分を見て、視線を止めます。すると視線のスクロールアイコンが視線が置かれた場所に現れます。 ▪ 上にスクロールする場合は、アイコンの上を見ます。 ▪ 下にスクロールする場合は、アイコンの下を見ます。 ▪ 左にスクロールする場合は、アイコンの左を見ます。 ▪ 右にスクロールする場合は、アイコンの右を見ます。 ▪ スクロール中に上下または左右の方向を切り替えるには、もう一度アイコン（タスクバーのアイコンではなく画面上のアイコン）に視線を戻します。 ▪ スクロールを止めるには、Gaze Selectionタスクバー（または画面の外）に視線を戻します。 モダンUIアプリやモダンUI Windows スタート画面で縦や横にスクロールするには、視線のスクロールタスクを使用します。
	左クリック / タップ	左シングルクリックを実行するか、タッチ型デバイスで1回タップするのに対応するタスク。スイッチモードの状態では、左クリック / タップは、既定ではオンでスティッキー状態です（*5.4.3.6.1* スティッキータスクおよびスイッチの既定左クリック/タップ、ページ *41*を参照）
	機能オーバーレイ	機能オーバーレイを有効にするタスク。一次選択は機能オーバーレイを有効にします。二次選択は機能オーバーレイを有効にし、選択しやすくするために、機能オーバーレイ（と個別の機能および機能エリア）を、画面上の他のオブジェクトの上に表示します。機能オーバーレイで使用可能な個別の機能は、Windows 8（*5.4.3.3 Windows 8*の機能オーバーレイ、ページ *33* を参照）とWindows 10（*5.4.3.4 Windows 10*の機能オーバーレイ、ページ *35* を参照）では異なります。
	右クリック	右シングルクリックを行うタスクです。
	ダブルクリック	左ダブルクリックを行うタスクです。スイッチモードの状態では、ダブルクリックは「スティッキータスク」となります（*5.4.3.6.1* スティッキータスクおよびスイッチの既定左クリック/タップ、ページ *41* を参照）
	キーボードの注視	Gaze typing 用のキーボードを有効にするためのスクリーン上のGaze を開くタスク
	設定	Gaze Selection 設定ダイアログを開くタスク 詳細な手順については、*8 Gaze Selection* の設定、ページ *81* を参照してください。

5.4.3.3 Windows 8の機能オーバーレイ

Windows 8 Gaze Selection は、新しく革新的な Gaze Interaction の方法です。現代的でかつ直感的なタッチ式のタブレット環境を念頭に置き、またUltrabook、ラップトップやデスクトップPCの完全な Gaze Interaction 体験も最高度に高めるように設計されています。

全体観的で包括的な OS のコントロールが可能な Gaze Interaction のソリューションとして作成されており、Windows 8 OS の完全なハンズフリー操作を可能にしています。エミュレートしたタッチジェスチャー、各種クリック、タップや横スワイプから、チャームや画面を2分割するスナップ機能に至るまで。また、文字通りの「凝視/ハンズオフ」のマルチタスキングから、過去と現行の使用可能なあらゆるデスクトップ・アプリケーションと設定の真の意味でのアクセスとコントロールに至るまで、さまざまなソリューションが盛り込まれています。

Windows 8 Gaze Selection は、Windows 8 のニュース、ソーシャル、プロフェッショナル、エンターテインメントや教育関連の何万という数のモダンアプリを、Eye Control によってコントロールできるようにします。

直感的で新しいタッチ式を中心としたマイクロソフト Windows 8 のインターフェイスの能力を活用することを念頭に構築された新たな Gaze Selection は、ハンズフリーの使用体験を現代の消費者向けのコンピューター環境にももたらします。

完全にハンズフリーの使用シナリオを中心に構築されている Gaze Selection は、スイッチを使ったさらに迅速なアクセスを可能にするだけでなく、複数モードによる入力と第三者による介助のためのタッチ (およびマウス) も有効化されています。

一次選択で機能オーバーレイを選択すると、その機能エリア/コマンドは有効になりますが表示はされません。

二次選択で機能オーバーレイを選択すると、その機能が有効になり、各機能のエリアがユーザーに見えるようになります。

機能オーバーレイタスクはズーミングを実行しません。

機能	アクション	説明
	アプリ切替	稼働中のモダンユーザーインターフェイス (UI) のアプリすべてが、デスクトップも含めて表示されるようにするアプリ切替バーを開く機能 デスクトップ上で稼働中のすべてのソフトウェアが、ここでは非表示になります。これらはデスクトップからでしか表示されません。 アプリ切替は、開かれているアプリが1つ未満しかない場合は表示されません。 PC の設定でアプリ切替がオフにされている場合は、アプリ切替にアクセスできません。
	アプリバーの表示	アクティブなアプリのアプリバーを表示させる機能。アプリバーはアクティブなアプリのコンテキストによって決まるため、構成されるアクションは各アプリによって異なります。
	チャームメニュー	チャームメニューを開く機能。
	タスクバーの移動	タスクバーを右/左から起動する機能。

機能	アクション	説明
	ウィンドウのスナップ操作/アプリを閉じる	3つの異なる動作を行う機能。 ▪ アクティブなアプリを希望のターゲット部分に移動し、並べて表示させるには、 を選択します。 ▪ アクティブなアプリを画面の下に動かして、アクティブなアプリを閉じるには を選択します。 ▪ 全画面表示でアクティブなアプリを移動し、並べて表示させるには を選択します。 詳細情報については、*5.4.3.5 Windows 8.1とWindows 10*ウィンドウのスナップ/アプリ、ページ *37*を参照してください。
	Windows ボタン	Windows のモダン UI と以前のモダン UI アプリまたはデスクトップの切り替えをする機能。 デスクトップ上で稼働中のすべてのソフトウェアが、ここでは非表示になります。これらはデスクトップからでしか表示されません。
	タスクバーの非表示	全画面表示のためにタスクバーを非表示にする機能。タスクバーの表示を戻すには、タスクバーがどちら側にあるかにより、 か を選択します。
	以前のアプリをフリップ	実行中のすべてのアプリとデスクトップの間で切り替える機能。 デスクトップ上で稼働中のすべてのソフトウェアが、ここでは非表示になります。これらはデスクトップからでしか表示されません。

5.4.3.4 Windows 10の機能オーバーレイ

Windows 10 Gaze Selection は、新しく革新的な Gaze Interaction の方法です。現代的でかつ直感的なタッチ式のタブレット環境を念頭に置き、またUltrabook、ラップトップやデスクトップPCの完全な Gaze Interaction 体験も最高度に高めるように設計されています。

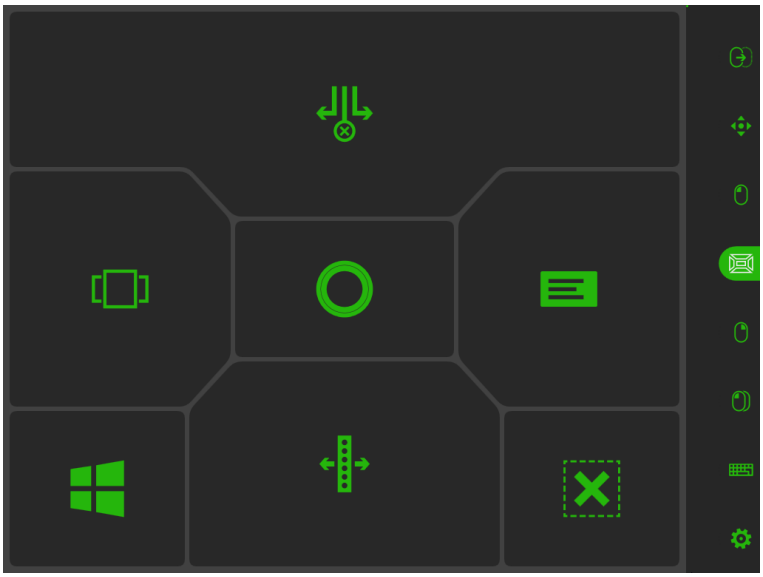
全体観的で包括的な OS のコントロールが可能な Gaze Interaction のソリューションとして作成されており、Windows 10 OS の完全なハンズフリー操作を可能にしています。エミュレートしたタッチジェスチャー、各種クリック、タップや横スワイプから、チャームや画面を2分割するスナップ機能に至るまで。また、文字通りの「凝視/ハンズオフ」のマルチタスキングから、過去と現行の使用可能なあらゆるデスクトップ・アプリケーションと設定の真の意味でのアクセスとコントロールに至るまで、さまざまなソリューションが盛り込まれています。

Windows 10 Gaze Selection は、Windows 10 のニュース、ソーシャル、プロフェッショナル、エンターテインメントや教育関連の何万という数のモダンアプリを、Eye Control によってコントロールできるようにします。

直感的で新しいタッチ式を中心とした マイクロソフト Windows 8 のインターフェイスの能力を活用することを念頭に構築された新たな Gaze Selection は、ハンズフリーの使用体験を現代の消費者向けのコンピューター環境にももたらします。

完全にハンズフリーの使用シナリオを中心に構築されている Gaze Selection は、スイッチを使ったさらに迅速なアクセ

スを可能にするだけでなく、複数モードによる入力と第三者による介助のためのタッチ（およびマウス）も有効化されています。



一次選択で機能オーバーレイを選択すると、その機能エリア/コマンドは有効になりますが表示はされません。

二次選択で機能オーバーレイを選択すると、その機能が有効になり、各機能のエリアがユーザーに見えるようになります。

機能オーバーレイタスクはズーミングを実行しません。

機能	アクション	説明
	タスクビュー	実行中のモダンユーザーインターフェイス（UI）のアプリすべてが表示されるタスクビューを開く機能。 タスクビューは、開かれているアプリが1つ未満しかない場合は表示されません。
	Cortana	Cortanaを開く機能。Cortanaはより優れた新しい個人支援機能です。CortanaはWebの検索、PC上のアイテムの検索、予定表の追跡などができます。
	通知	通知を開く機能。
	タスクバーの移動	タスクバーを右/左から起動する機能。

機能	アクション	説明
	ウィンドウのスナップ操作/アプリを閉じる	3つの異なる動作を行う機能。 ▪ アクティブなアプリを希望のターゲット部分に移動し、並べて表示させるには、 を選択します。 ▪ アクティブなアプリを画面の下に動かして、アクティブなアプリを閉じるには を選択します。 ▪ 全画面表示でアクティブなアプリを移動し、並べて表示させるには を選択します。 詳細情報については、*5.4.3.5 Windows 8.1とWindows 10ウィンドウのスナップ/アプリ、ページ 37*を参照してください。 このタスクは、コンピュータがタブレットモードのWindowsを実行している場合にのみ使用できます。
	Windows ボタン	Windows のモダン UI と以前のモダン UI アプリまたはデスクトップの切り替えをする機能。 デスクトップ上で稼働中のすべてのソフトウェアが、ここでは非表示になります。これらはデスクトップからでしか表示されません。
	タスクバーの非表示	全画面表示のためにタスクバーを非表示にする機能。タスクバーの表示を戻すには、タスクバーがどちら側にあるかにより、 か を選択します。

5.4.3.5 Windows 8.1とWindows 10ウィンドウのスナップ/アプリ

5.4.3.5.1 ウィンドウのスナップ操作/アプリを閉じる方法

このタスクは、コンピュータがタブレットモードのWindowsを実行している場合にのみ使用できます。

Windows 8.0、8.1、および10のスナップ・ウィンドウ機能により、画面を分割して、2つから4つのモダンアプリを同時に並べて表示させることができます。この機能はデバイスの画面解像度によって制約されます。Windows 8.1およびWindows 10のそれぞれの画面解像度で実行が可能なアプリ数についての詳細は、表 *5.1 Windows 8.1とWindows 10*の画面上のアプリ数、ページ *37* を参照してください。ウィンドウをスナップできるには、画面解像度が最低でも 1024×768 (Windows 8.1、Windows 10) または 1366×768 (Windows 8.0) 必要です。

表 5.1 Windows 8.1とWindows 10の画面上のアプリ数

アプリ数	画面解像度 (ピクセル)
2	<1499
3	1500 — 1999
4	>=2000

Windows 8.0 が同時に実行できるアプリ数は2つのみです。

ウィンドウのスナップ/アプリを閉じる操作は、画面に表示されているアプリしか制御できません。

これは、いくつのアプリが同時にスナップされているかによって異なった表示になります。

アプリをスナップするには、

1. タスクバーから （機能オーバーレイ）タスクを**選択**します。
2. 次のアクションから1つを**選択**します。
   - アクティブなアプリを希望のターゲット部分に移**動**し、**並**べて表示させるには、 を**選択**します。
   - アクティブなアプリを画面の下に**動**かして、アクティブなアプリを**閉**じるには を**選択**します。
   - 全画面表示でアクティブなアプリを移**動**し、**並**べて表示させるには を**選択**します。

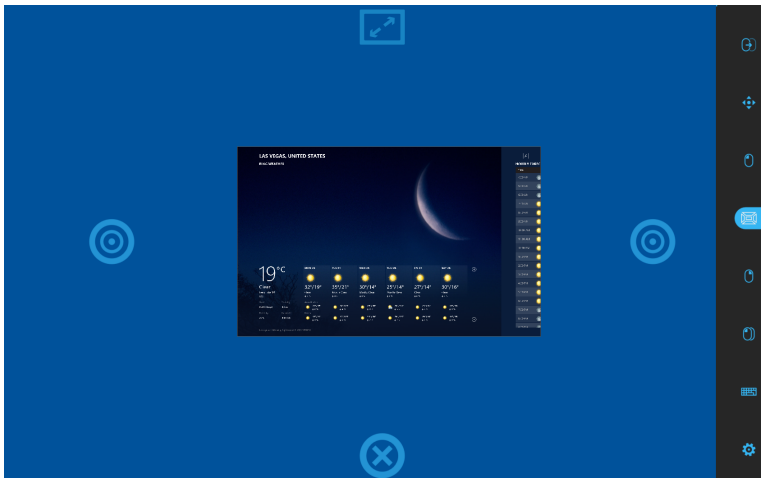


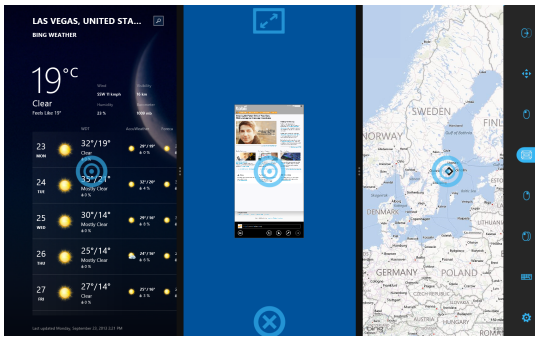
図 5.4 概要

アプリを移**動**したり**閉**じるには、
たとえば、アプリが中央にスナップされている**場**合は、以下を**選択**します。

1. **機**能

2. 中央部分を**選択**します。

3. 以下を**選択**します。



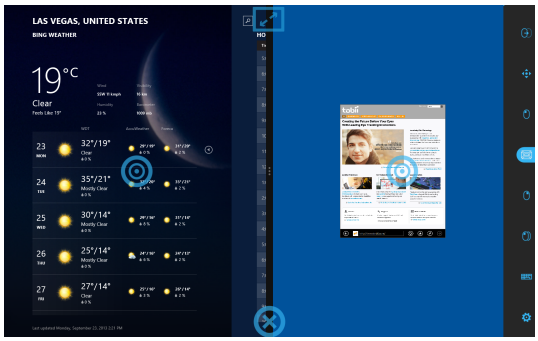
- アプリを （全画面）表示で移**動**する**際**の**選択**：
- アプリを新たなターゲット部分に移**動**するには、 （ターゲット）のいずれかを**選択**します。
- アプリを画面下中央部分の （**閉**じる）アイコンまでドラッグすると、アプリを**閉**じることができます。

たとえば、アプリが左**側**か右**側**にスナップされている**場**合は、以下を**選択**します。

1. **機**能

2. 左**側**か右**側**の部分を**選択**します。

3. 以下を**選択**します。



- アプリを （全画面）表示で移**動**する**際**の**選択**：
- アプリを新たなターゲット部分に移**動**するには、 （ターゲット）のいずれかを**選択**します。
- アプリを画面下中央部分の （**閉**じる）アイコンまでドラッグすると、アプリを**閉**じることができます。

5.4.3.5.2 さらにアプリをスナップするには、

画面上で2つ以上のアプリをスナップできるようにするには、タスクバーの （ドラッグ・アンド・ドロップ）タスクを使用しなければなりません。画面上で同**時**にいくつのアプリを表示できるかについての**詳細**は、表 *5.1 Windows 8.1*と*Windows 10*の画面上のアプリ数、ページ *37* を参照してください。 （ドラッグ・アンド・ドロップ）により、各スナップ部位の幅をカスタマイズすることもできます。

1. モダンUIスタート画面または最近使用したアプリ/アプリ切替(Windows 8.0または8.1)またはタスクビュー(Windows 10)からアプリを起動します。これは画面中央に配置されます。図 5.5 選択された3つめのアプリ、ページ 40 をご覧ください。

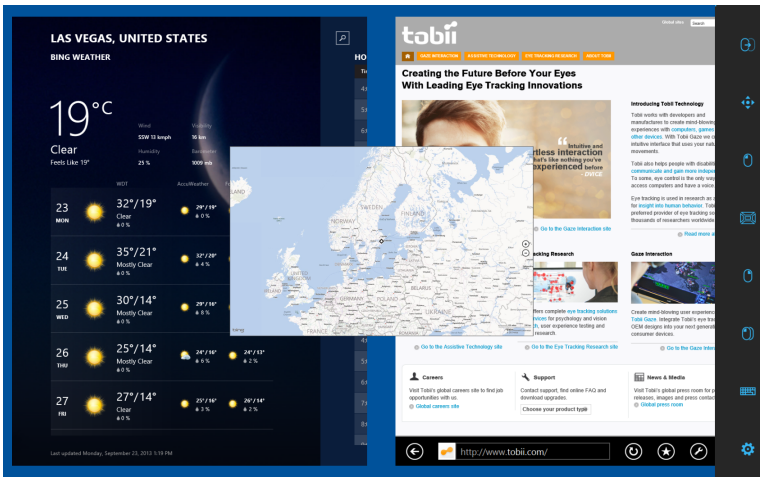


図 5.5 選択された3つめのアプリ

2. タスクバーから (ドラッグ・アンド・ドロップ)タスクを選択します。
3. アプリをドラッグしたら、希望の場所にドロップします

   - 右 – タスクバーから (ドラッグ・アンド・ドロップ)タスクを選択します。右側のターゲットに配置するには、画面の右側にドロップします。図 5.6 右にスナップ、ページ 40 をご覧ください。
   - 左 – タスクバーから (ドラッグ・アンド・ドロップ)タスクを選択します。左側のターゲットに配置するには、画面の左側にドロップします。図 5.7 左にスナップ、ページ 41 をご覧ください。

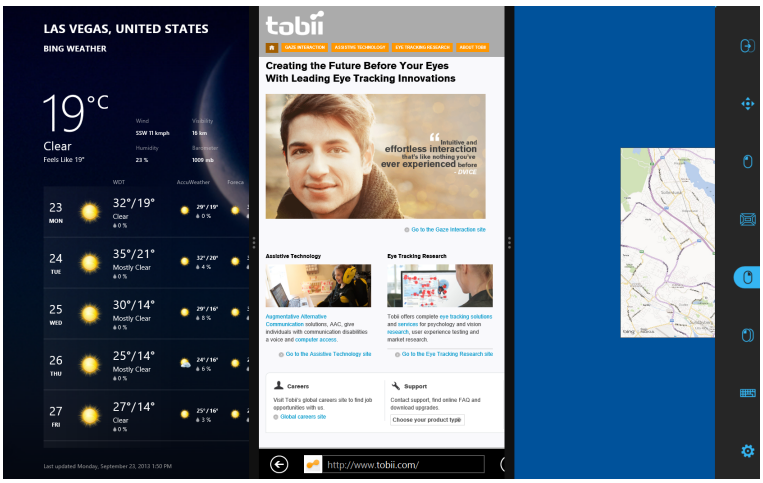


図 5.6 右にスナップ

図 5.7 左にスナップ

5.4.3.6 選択方法 – 注視とスイッチ

選択したタスクを実行するには2つの方法があります。選択方法は、Gaze Selection設定ダイアログ内から設定します。*8 Gaze Selection* の設定、ページ *81* を参照してください。

選択を実行する前に、タスクバーから実行するタスクを選択します。「一次」または「二次選択」とハイライトされるまで、選択したタスクを見つめます。

- 注視 - 選択したタスクを実行するには、タスクを実行したいと思うスクリーンの部分 (またはスクリーン上のアイコン) を見つめます。自動ズーム機能が有効化され、アイコンの選択またはタスクの実行で終了します。
- スイッチ- 2つの異なる実行モードがあります。
  - スイッチのシングルアクティベーション - ズーム機能は Gaze 方法と同じ方法で、Gaze Selection Settings ダイアログ内の設定に従い実行されます。*8 Gaze Selection* の設定、ページ *81* を参照してください。
  - スイッチの有効化とホールド - ズーム機能はズームをし続け、スイッチを離したり無効にしたときのみズーム機能が終了します。

機能オーバーレイタスクはズーミングを実行しません。

注視方法を使用する場合、ユーザーはタスクの実行後にタスクバーに視線を戻し、新しいタスクを選ばなければなりません。これは、新しいタスクが今使用したばかりのタスクと同じ場合にもあてはまります。

Gaze Selection Settings で精度が0に設定されている場合は、ズームは実行されません。詳細情報については、*8 Gaze Selection* の設定、ページ *81*を参照してください。

5.4.3.6.1 スティッキータスクおよびスイッチの既定左クリック/タップ

スイッチ方法を使用する場合、「スティッキータスク」とよばれる機能を活用することになります。つまり、タスクが「スティッキー」になると、選択したタスクを繰り返し実行するためにタスクバーに視線を戻す必要がありません。タスクを変更したい場合のみ、視線を戻します。

スイッチ方法を使用する場合、タスクの左クリック/タップが既定により「スティッキー」になります。つまり、左クリック/タップが常にオンになり、他に何も選択されていない限りは、スイッチを有効にすることで常にオンの状態であることを意味します。別のタスクが選択されている場合は、1回 (1回の選択) のみそれが有効になり、その後なされる選択に対しては、Gaze Selection が設定を自動的に既定の左クリック/タップに戻します。

その例外となるのは、タスクのダブルクリックです。スイッチモードの使用中にこれが選択されている場合、これも同様にスティッキーになります。したがって、別のタスクが選択されるまでは、選択された状態が続きます (その後は既定の左クリック/タップに戻ります) 。

スイッチとタスクの左クリック/タップを1回選択して有効にし、再度タスクの左クリック/タップを選択する必要なく何度でも希望のものを何でも選択できるようにすることで、インターネットの簡易/継続的なサーフィンなど、優れた利用が可能になります。

5.4.3.6.2 スイッチではなくキーボードのボタンでタスクを有効にする

「キーボードボタンの F12」

を取り付けられたキーボードで選択すると、タスクの選択が有効になります。これは接続されたスイッチと全く同様の方法で使用できます。スイッチについてのより詳しい情報は、*5.4.3.6* 選択方法 ― 注視とスイッチ、ページ *41* をご覧ください。

5.4.3.7 キーボードの注視

タスクバーの Gaze Keyboard ボタンを選択すると、スクリーン上のキーボートとして Gaze Keyboard が起動します。Gaze Keyboardは、ユーザーの設定に基づき、画面の上または下に配置されます。

キーボードタスクの一次または二次選択を使用して、2つの方法で画面上にキーボードを配置できます。

- 一次選択：
  1. キーボードタスクの一次選択をアクティブ化する
  2. 書き込む場所を選択すると、キーボードが反対側で起動します。
     画面の下部に書き込む場合は、上部に配置されます。逆も同様です。

     停留を使用すると、ただちに停留する場所の繁体側にキーボードが配置されます。ユーザーがスイッチを使用している場合は、最初に入力する場所に視線を置いてから、スイッチを押して、反対側にキーボードを配置する必要があります。

- 二次選択：
  - キーボードは自動的に画面に下部に配置されます。

Gaze Keyboardとともに使用すると、キーボードタスクバーが起動します。詳細情報については、*5.4.3.7.1* キーボードタスクバー、ページ *43*を参照してください。

Gaze Keyboard は、回転ループ内で 4 つのキーボードページで構成されています。Gaze Keyboard の全ページで、左右の端にある次ページボタンを選択すると、ユーザーは別のキーボードページに簡単に切り替えることができます。

ユーザーが見ているキーボード上のキーは、キーの文字/機能

のそばにあるライトフレームが示しています。

以下の **4** つのキーボードページがあります：

図 5.8 デフォルトスタートアップページ

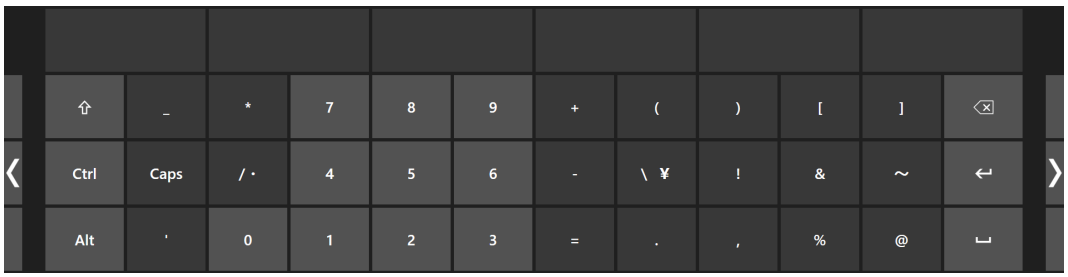


図 5.9 右側の最初のページ

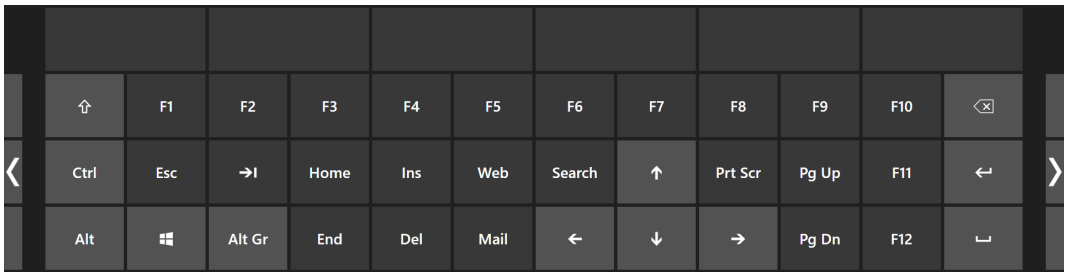


図 5.10 右側または左側の2ページ目

図 5.11 左側の最初のページ

Shift、Ctrl、Alt、Win、Alt Gr キーは、一度選択すると「スティッキー」になり、選択が継続されます。これは、ユーザーがキーボードから新しいキーを選択するまで、そのキーが継続して選択されることになります。次に選択したキーが別の継続選択キーであった場合、キーの選択は継続されます。

文字にアクセントを付けて表記するには：

1. アクセントを選択します。
2. 文字を選択します。
3. 選択されたアクセントで文字が表示されます。

5.4.3.7.1 キーボードタスクバー

キーボードタスクバーの上には、Gaze Selectionタスクバーと同じように、トラックステータスビューアがあります。これは、アイトラッカーがユーザーの目を認識できており、ユーザーがデバイスの前の正しい位置にいることを確認できるようにするものです。

キーボードタスクバーのタスクボタンは、図 *5.12* キーボードタスクバーのモード、ページ *44* に示される通り、3つの異なるモードが可能です。

- **標準 (未選択)** - Gaze Selection のためのタスクボタンが選択されていません。
- 一次選択（青/黒）- マークが付いたタスクボタンが選択され、ユーザーが画面上の希望の場所もしくはアイコンを見つめ自動的にズームされた後、タスクが実行されます。選択方法がGaze Selection 設定ダイアログ内のスイッチに設定されている場合、選択されたタスクボタンはタスクの実行後も有効のままになります。
- 二次選択（青/白）- 一次選択と同じですが、より高精度です。一次選択とは、タスクが最終的に実行される前にズームが更に拡大され、希望する画面の部分がより大きくなり、その中がより選択しやすくなることです。下のイメージのように、色が変化するまでタスクボタンの上に視線を置くと、このモードがオンになります。

  左クリック機能でのみ使用できます。

Windows 8 では、キーボードタスクバーの色は Windows の設定に適応します。

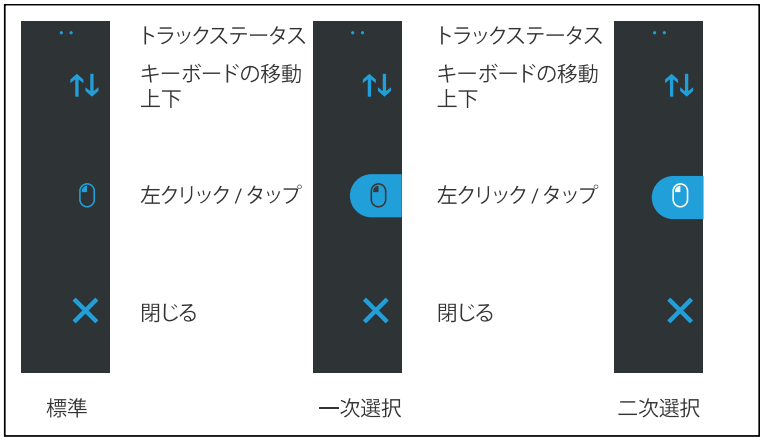


図 5.12 キーボードタスクバーのモード

5.4.3.7.2 キーボードタスクバーのタスクボタン

タスクボタン	アクション	説明
↑↓	キーボードの移動 上下	画面の上または下にキーボードを移動するタスク。 機能をアクティブ化するには、二次選択をトリガーする必要があります。
	左クリック / タップ	左シングルクリックを実行するか、タッチ型デバイスで1回タップするのに対応するタスク。
✕	閉じる	キーボードを閉じるタスク。

5.4.3.7.3 単語予測

Gaze Selectionで使用される単語予測エンジンはSwiftkeyのもので、一般的にタブレットとスマートフォンで使用されます。Swiftkeyは、ユーザーが次に入力しようとする単語を予測できる複数の人工知能技術を組み合わせたものです。Swiftkeyは、ユーザーが書き込んだ前のテキストから学習し、現在入力されたテキストと学習内容に基づいて、予測結果を出力します。単語予測言語は、キーボード言語設定によって異なります。

図 5.13 単語予測がアクティブなキーボード

単語予測が使用されているときには、6個のボックスがキーボードの上に表示されます。単語予測のアクティブ化と非アクティブ化の詳細については、*8 Gaze Selection* の設定、ページ *81*を参照してください。一番左側のボックスには、最も確率が高い予測単語が表示されます。残りの5個のボックスには、それぞれ予測された単語が1個表示されます。予測された単語を選択するには、正しい単語が入ったボックスを選択します。探している単語がない場合は、入力を続け、次の文字の後に探している単語が見つかるまで繰り返します。

単語予測を使用し、caféのようなアクセントを含む単語を入力する場合は、単語予測にアクセントを処理させることをお勧めします。「cafe」と入力すると、「café」の候補が表示されます。

単語予測でアクセントを手動で入力すると、予測ボタンの表示が崩れる場合がありますが、入力しているドキュメントの結果には影響しません。

ユーザーがタイピングすると、最新の 5 ~ 10 文字が、ブルーで強調表示されます。詳細情報については、*8 Gaze Selection* の設定、ページ *81*を参照してください。この機能により、ユーザーはスペルミスを簡単に発見し、実際に入力する場所で文字を確認する必要がなくなるため、タイピングスピードが向上します。

5.4.3.8 範囲ベースのキーボードと Gaze Selection の組み合わせ

Gaze Selection は、他のアイコントロールアプリケーションと組み合わせて使用することができます。他のアプリケーションの「Gaze有効化」範囲は、Gaze Selection ツールバーに有効のタスクがない限り、有効になります。スイッチで Gaze Selection を使用している場合、タスクボタンは「スティッキー」になります。タスクの選択を解除する必要がある場合は、選択したタスクを短時間見直してください。

5.4.4 Mouse Emulation の開始

Mouse Emulation モードは、ユーザーが標準的なPCのマウスポインターを画面上でエミュレートし、制御することを可能にします。

Mouse Emulation の設定を行うには、Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings を開きます。詳細な手順については、*7.5.2.2 Mouse Emulation*、ページ *77* を参照してください。

5.4.4.1 Mouse Emulation メニューの配置

メニューはデスクトップのどこにでも、または画面の縁に沿ってドックさせることもできます。Mouse Emulationメニューをドックするには、メニューを画面の端にドラッグします。また、移動アイコン を押したままドラッグしても、移動ができます。メニューがドックされている場合、Mouse Emulation メニューの項目を表示するには画面の外側に目を向けなければなりません。

Mouse Emulation メニューがオフスクリーン・ システムメニューと同じ側に表示されている場合 (詳細情報は *5.6 Gaze Interaction* を一時停止/再開する。*Gaze Interaction* で *Tobii Dynavox I-Series+* をスリープ状態にする、ページ *48* を参照してください) 、Mouse Emulation メニューが全く機能しない可能性があります。

5.4.4.2 Mouse Emulation モードの Windows Control でのクリック

Mouse Emulation メニューの ボタン ドロップダウンリストから、どのような種類のマウスクリックを実行するのかを選択します。

右クリックすると、マウスの右クリックがシミュレートされます。

左クリックすると、マウスの左クリックがシミュレートされます。

5.4.4.3 Mouse Emulation モードの Windows Control での拡大

ズームを使うときは、ズームのアイコン を Mouse Emulation メニューから**選択**します。

ズームでクリックを**実**行する**場**合：

1. ズームを**選択**します。
2. 通常通りにその他のオプションを**選択**します。オプションはこれで、**拡**大状**態**を反映するように**変**更されました。

右クリックズーム

左クリックズーム

5.4.4.4 Mouse Emulation 機能の選択

クリックに**別**の**機**能を**設**定するには：

マウスカーソル

画面上でのカーソルの**動**きなし

シングルクリック

ダブルクリック

ドラッグ･アンド･ドロップ

5.4.4.5 Mouse Emulation モードの Windows Control の一時停止

Windows Control を一**時**停止するには、Windows Control メニューの「一**時**停止」アイコンを**選択**します。

一**時**停止

Gaze Interaction の一**時**停止は、Tobii Dynavox I-Series+ の下部の Tobii ロゴ (のあたり) を**見**てから、ポップアップ表示される一**時**停止アイコン Gaze Interaction を使って**選択**することでも**実**行できます。

詳細な手**順**については、*7.6.1* システム･ オフスクリーン･ メニュー、ページ *78* を参照してください。

5.4.4.6 Mouse Emulation モードの Windows Control でのスクロール

スクロールできる全てのオブジェクトには、右上の角にスクロールボタンが自**動**的に**現**れます。ウィンドウがフォーカスされている**時**のみにボタンは**現**れます。スクロールするには または アイコンを**選択**します。不要なアイコンが表示されたら、 を使ってこれらを非表示にすることができます。

スクロール･モードが有効な時は、陰影の付いたスライドがウィンドウ上に現れます。

スクロールするには、スクロールしたい方向を見つめます。

上下と左右のスクロールを切り替えるには、希望の方向の または アイコンを選択します。

スクロール機能を無効にするには、
Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings > Windows Control > マウスエミュレーション **>** 自動スクロール機能の無効化 を選択します。

5.5 Gaze Interaction で Tobii Dynavox I-Series+ をスリープ状態から起動する

Tobii Dynavox I-Series+ は、Gaze Interaction を使ってスリープ状態から起こすことができます。これによりユーザーは、夜間など、介護者なしで単独でいる際により独立し、安全を確保することができます。ユーザーが夜間に目を醒まし、介護者の注意を促したい場合は、Gaze Interaction で Tobii Dynavox I-Series+ を起動し、Tobii Dynavox I-Series+ を使って介護者の注意をすぐに喚起することができます。この方法によるデバイスのスリープ状態からの起動は、次のような名称がつけられています。**Wake-on-Gaze®**

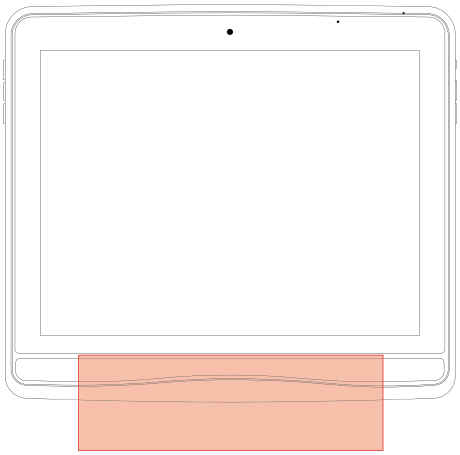


図 5.14 Wake-on-Gaze® 領域

Wake-on-Gaze® を使用するには、

1. Wake-on-Gaze® が有効になっていることを確認します。*6.4 Wake-on-Gaze®*、ページ *57* を参照してください。
2. Tobii Dynavox I-Series+ 下部にあるアイトラッカーの2つの発光体の間の部分を見つめてください。図 *5.14 Wake-on-Gaze® 領域*、ページ *47* を参照してください。

アイトラッカーは3秒毎にユーザーの目を検索します。

Tobii Dynavox I-Series+ がスリープから起動し、利用可能になります。

5.6 Gaze Interaction を一時停止/再開する。Gaze Interaction で Tobii Dynavox I-Series+ をスリープ状態にする

Gaze Interaction の使用中、ユーザーは、（目を少し休ませたい場合に）Gaze Interaction を一時停止/再開したり、（バッテリーの消費を抑えたい場合や、デバイスが必要ない場合などに）Tobii Dynavox I-Series+ をスリープ状態にすることができます。この方法によりデバイスをスリープ状態にする機能は、**Sleep-on-Gaze** とよばれています。

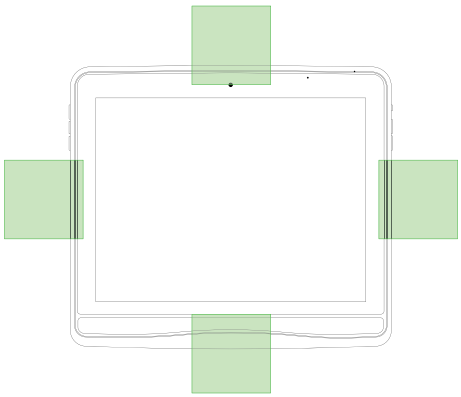


図 5.15 オフスクリーン・システムメニュー

Gaze Interaction を一時停止するには：

1. オフスクリーン・システムメニューの一時停止/再開が有効になっていることを確認してください。XXXを参照してください。 *7.6.1* システム・オフスクリーン・メニュー、ページ *78*
2. お使いの Tobii Dynavox I-Series+ でオフスクリーン・システムメニューが設定されている部分を見つめます。図 *5.15* オフスクリーン・システムメニュー、ページ *48* を参照してください。
   より詳しい情報や、オフスクリーン・システムメニューの設定方法については、*7.6.1* システム・オフスクリーン・メニュー、ページ *78* を参照してください。
3. Gaze Interaction を使って、ポップアップした （一時停止）アイコンを選択する。

Sleep-on-Gaze を使用するには、

1. **Sleep-on-Gaze** 機能が有効になっていることを確認します。*6.4 Wake-on-Gaze®*、ページ *57* を参照してください。
2. お使いの Tobii Dynavox I-Series+ でオフスクリーン・システムメニューが設定されている部分を見つめます。図 *5.15* オフスクリーン・システムメニュー、ページ *48* を参照してください。
   より詳しい情報や、オフスクリーン・システムメニューの設定方法については、*7.6.1* システム・オフスクリーン・メニュー、ページ *78* を参照してください。
3. Gaze Interaction を使って、ポップアップした （一時停止）アイコンを選択する。
4. スリープ状態にするにははいを、キャンセルするにはいいえを選択します。

5.7 カメラの使用

2つの内蔵カメラにより、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの前にあるアイテムのスナップショットを撮ったり、画面の横から撮ることができます。

カメラを操作するには
Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass またはその他の関係ソフトウェアを使用します。

5.8 GEWAプログラム設定が可能な赤外線リモコンの使用

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスには、GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコンが含まれていますが、これには2つのフィルターウィンドウを含む環境制御ユニット (ECU) があります。

- 送信フィルターウィンドウ1つ – 図 *3.1* 表面と裏面、ページ *17* の製品箇所6
- 送受信フィルターウィンドウ1つ – 図 *3.2* 底面、左側、右側、ページ *18* の製品箇所27

Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass で GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコンをプログラム設定するには、送信および受信フィルターウィンドウ (図 *3.2* 底面、左側、右側、ページ *18* の製品箇所27) を使用します。

GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコンは、プログラム可能な赤外線装置で、テレビや DVD のような赤外線リモコンを備える機器の操作に使用できます。

GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコンの使用とプログラミング方法についてのより詳しい情報については、**Tobii Dynavox Communicator 5**の基本操作 もしくは **Compass** ユーザーガイドを参照してください。

制御しようとしているデバイスが応答しない場合は、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスをわずかに上方か下方に傾け、赤外線が送信される角度を変えてみてください。

赤外線によって制御されるデバイスの操作において、ECUを唯一の通信方法として使用しないでください。

5.8.1 I-Seriesプロダクトキーの取り扱い

GEWAプログラム設定可能な赤外線リモコンを使用するにはI-Seriesプロダクトキーが必要です。I-Seriesプロダクトキーを入力または表示するには、**I-Series Control Center** のI-Seriesプロダクトキー・ セクションを開きます。*6.7 I-Series*プロダクトキー、ページ *61* を参照してください

I-Seriesプロダクトキーの設定が済むと、GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコンが利用可能になります。

5.9 音量の調節

音量を調節するには、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの右側にある音量を上げるボタン (箇所11) と音量を下げるボタン (箇所12) を使用します。位置を確認するには、図 *3.2* 底面、左側、右側、ページ *18* を参照してください。

Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compassでも音量を調節できます。

5.10 音声の調節

内蔵スピーカーは、**Microsoft Windows** コントロールパネル **>** サウンドを使って設定できます。

ここでは、Microsoft コントロールパネルでの音声設定方法については、マイクロソフトの情報を参照しています。

Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compassでも音声を調節できます。

5.11 工場出荷時の設定に戻す

すべての Tobii Dynavox I-Series+ デバイスには、工場出荷時の設定がイメージとしてディスクに含まれています。デバイスを元の状態にするには、OEM 工場出荷時設定のリカバリー・ アプリケーションを使って行うことができます。

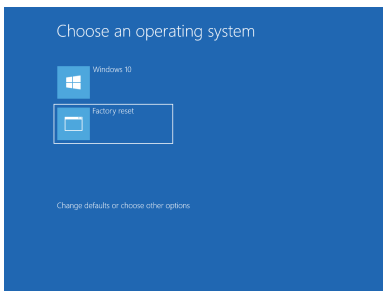
これを行った場合、デバイスがお手元に届いた後にインストールされた個人データ、またはソフトウェアは削除されます。

工場出荷時設定のリカバリーを行うと、何もインストールされずにデバイスが工場出荷時の設定にリセットされます。このモードでは、Tobii Dynavoxプロダクトキーとライセンス情報を再入力して、ご注文された SW のインストールを実行する必要があります。

プロセスを開始する前に、電源に接続してください。工場出荷時設定リカバリーの実行中にバッテリーが切れる可能性があるため、バッテリーを使ってデバイスを作動させないでください。そのようなことが起こった場合は、修理のためにTobii Dynavoxにユニットを送付しなければならないことがあります。

お使いの Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの工場出荷時設定リカバリーを行うには、次の手順に従ってください。

1. ドキュメントや Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass の設定といった個人データをバックアップします。
2. Tobii Dynavox I-Series+ プロダクトキーをお手元に用意しておいてください。
3. デバイスを終了します。
4. キーボードを接続します。
5. デバイスを再起動します。
6. [オペレーティングシステムの選択] が表示されるまで待機します。



7. (矢印) キーを押して「Windows 起動マネージャー」に移動します。

   「Windows 起動マネージャー」をアクティブ化するには、キーを2秒以内に押す必要があります。

8. 「工場出荷時にリセット」を選択し、 (リターン) キーボードボタンを押します。
9. Tobii Dynavox I-Series+ ソフトウェアのインストール・ ダイアログが開始されます。
10. 画面の指示に従います。これらの手順は、デバイス配達後に行った初期設定の内容と全く同じです。

または

お使いの Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの工場出荷時設定リカバリーを行うには、次の手順に従ってください。

1. ドキュメントや Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass の設定といった個人データをバックアップします。
2. Tobii Dynavox I-Series+ プロダクトキーをお手元に用意しておいてください。
3. デバイスを終了します。
4. キーボードを接続します。
5. デバイスを再起動します。

6. 「高度な起動の設定オプション」が開くまでの起動中は、

(F8) ボタンを押したままにします。
7.

(Esc) キーを押して「Windows 起動マネージャー」に移動します。
8. 「工場出荷時にリセット」を選択し、 (リターン) キーボードボタンを押します。
9. Tobii Dynavox I-Series+ ソフトウェアのインストール・ダイアログが開始されます。
10. 画面の指示に従います。これらの手順は、デバイス配達後に行った初期設定の内容と全く同じです。

これにより、工場出荷時の設定のリカバリープロセスが開始されます。これには約40分かかります。復元プロセスが終了すると、デバイスは、Tobii Dynavoxから最初に配達されてきた状態と同じ元のイメージにリセットされます。デバイスの注文後に追加のソフトウェアやTobii Dynavoxプロダクトキーをインストールしてあった場合は、これらを手動で再インストールする必要があります。

5.12 タッチパネルのキャリブレーション

Windows Control Panel がカテゴリ表示になっているか、小さな/大きなアイコンを使ったクラシック表示になっているかにより、タッチパネルのキャリブレーションには2つの方法があります。

Windows Control Panel のカテゴリ表示からタッチパネルのキャリブレーションを行うには、次の手順に従います。

1. スタート **> Control Panel** を選択します
2. ハードウェアと音声 を選択します
3. タブレット型 **PC** の設定 を選択します
4. ディスプレイ・オプションの下にあるキャリブレーション**...** ボタンを選択します
5. 画面上の指示に従って下さい。

Windows Control Panel で小さな/大きなアイコンを使ったクラシック表示からタッチパネルのキャリブレーションを行うには、次の手順に従います。

1. スタート **> Control Panel** を選択します
2. タブレット型 **PC** の設定 を選択します
3. ディスプレイ・オプションの下にあるキャリブレーション**...** ボタンを選択します
4. 画面上の指示に従って下さい。

6 I-Series Control Center による Tobii Dynavox I-Series+ の設定

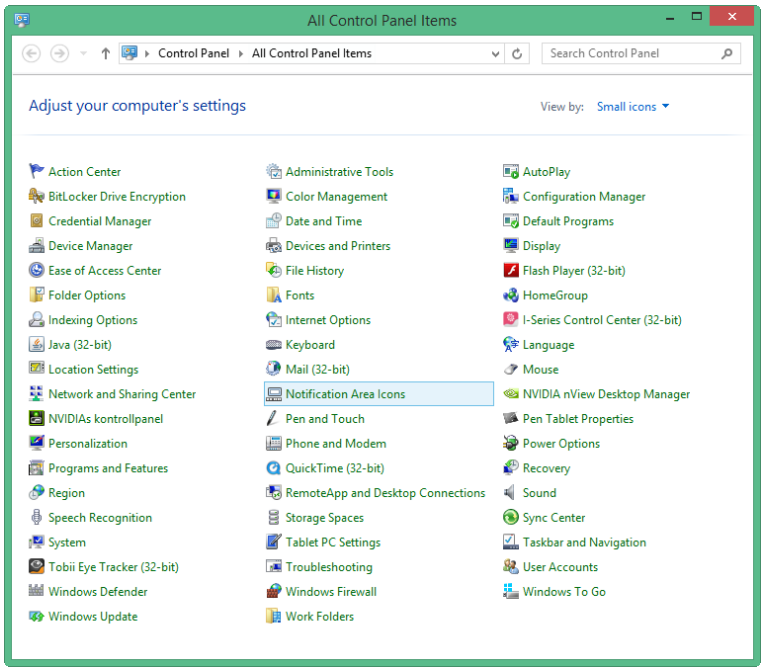
I-Series Control Center は、お使いの Tobii Dynavox I-Series+ デバイス上のプログラムで、I-Series Welcome Guide での初期設定時に選択した設定にアクセスしたり、これを変更することができます。Welcome Guide はいつでも好きなときに起動することができます。

I-Series Control Center を開くには、

- デスクトップの**I-Series Control Center** のショートカットをクリックします。

または

1. スタートメニュー > コントロールパネル に進みます。



2. コントロールパネルがクラシック表示になっている場合は、**I-Series Control Center** をダブルクリックします。
   コントロールパネルがカテゴリ表示になっている場合は、表示方法 > 小さなアイコンまたは大きなアイコンを選択し、**I-Series Control Center** をダブルクリックします。

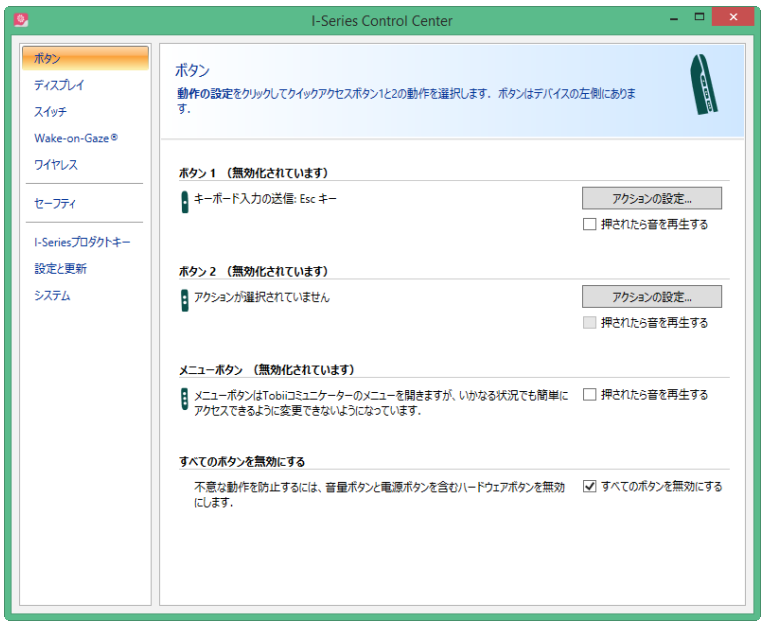
または

1. スタートメニュー > **Tobii Dynavox** に進みます。
2. **I-Series Control Center,** をクリックします。

または

- デバイスにインストールされた通信ソフトウェアを介して行う場合

6.1 ボタン



クイックアクセスボタンをプログラムすることにより、タスクや呼び出されたアクション用のショートカットを作成できます。クイックアクセスボタンは Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの左側にあり、**1**、**2** およびメニューと呼ばれています。

アクションをボタンとしてプログラムする方法についてのより詳細な情報は、*6.10 アクション用にショートカットを作成する、ページ 66* を参照してください。

6.1.1 ボタンを押した時に音が出るようにする

ボタンを押した時に音が出るようにするには、

1. **I-Series Control Center >** ボタンを開きます。
2. ボタンを押した時に音が出るようにする チェックボックスを選択して、ボタンが押された際の音声フィードバックを有効にします。

ボタンを押した時に音が出ないようにするには、

1. **I-Series Control Center >** ボタンを開きます。
2. ボタンを押した時に音が出るようにするチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

6.1.2 すべてのボタンを無効にする

不意にアクションが起動されるのを防止するには、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスのすべてのボタンを無効にすることができます。

すべてのボタンを無効にするには、

1. **I-Series Control Center >** ボタンを開きます。
2. すべてのボタンを無効にするチェックボックスを選択します。

電源ボタンは、すべてのボタンが無効にされている場合でも、デバイスを起動するのに使用できます。

電源ボタンを7秒以上押し続けると、すべてのボタンが無効にされている場合でも、保存されていない変更を無視してデバイスが直ちに終了します。

すべてのボタンを有効にするには、

1. **I-Series Control Center >** ボタンを開きます。
2. すべてのボタンを無効にする チェックボックスのチェックを非選択して解消し、すべてのボタンがまた有効になるようにします。

6.2 ディスプレイ

6.2.1 輝度の調節

デバイスにはセンサーが付いており、これが周囲光に応じて、Windows® で選択されたレベルに合うように自動的に画面の輝度を調節します。

自動輝度調節を無効にするには、

1. **I-Series Control Center >** ディスプレイを開きます。
2. 自動輝度調節を有効にする (推奨) チェックボックスをクリックしてチェックを外します。

自動輝度調節を有効にするには、

1. **I-Series Control Center >** ディスプレイを開きます。
2. 自動輝度調節を有効にする (推奨) チェックボックスを選択します。

輝度を手動で調節するには、

1. **I-Series Control Center >** ディスプレイを開きます。
2. **Windows** 電源オプションのリンクを選択します。
3. 輝度の調節を行います

より暗めの設定にしておくとバッテリーが長持ちします。

6.2.2 ディスプレイの回転

デバイスを180度回転すると、ディスプレイは自動的に回転されるので、デバイスを縦方向でも、スピーカーが下になるように横に寝かせても使用することができます。

ディスプレイの自動回転機能が有効にされている場合、ディスプレイが回転されるには2秒程度の間隔があります（その間スクリーン表示が消えます）。

デバイスの方向によりディスプレイが自動回転されるようにするには、

1. **I-Series Control Center >** ディスプレイを開きます。
2. デバイスの方向によりディスプレイを自動回転させるのラジオボランを選択します。

Tobii Dynavox I-Series+ の方向が変更されると、Tobii Dynavox I-Series+ が次のように設定されている場合、外付けディスプレイも方向が変更されます：

- 外付けディスプレイは HDMI により接続
- Tobii Dynavox I-Series+は、I-Series Control Center で自動的に方向が変更されるよう設定されています
- デュアル・ディスプレイは Windows でクローンモードに設定されています

外付けディスプレイの方向を変更せずに Tobii Dynavox I-Series+ の方向を変更できるようにするには、デュアル・ディスプレイを Windows でスパンモードに設定します。スパンモードでは、方向切り替え機能が各ディスプレイで個別に設定されます。

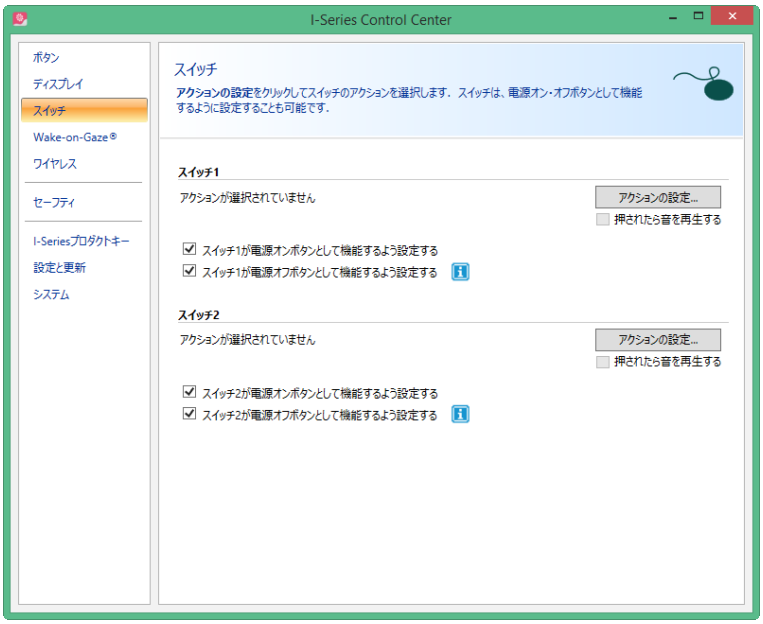
固定されたデバイスの位置を指定するには、

1. **I-Series Control Center >** ディスプレイを開きます。
2. 縦方向に固定あるいは横に寝かせた方向に固定のラジオボタンを選択します。

Gaze Interaction は縦方向で正常に機能するように最適化されています。

縦方向と横方向についてのより詳細な情報は、*1.3.1* 携帯利用、ページ *10* を参照してください。

6.3 スイッチ



電源オン（*6.3.2* スイッチに電源オン機能を設定する、ページ *56* を参照）またはオフ（*6.3.3* スイッチに電源オフ機能を設定する、ページ *56* を参照）ボタンとして機能するようにスイッチを有効にすることができます。

ボタンを押した時に音が出るようにする チェックボックスを選択して、スイッチが有効にされた際の音声フィードバックを有効にします。

アクションの設定を選択して、スイッチに割り当てるアクションを選択します。

アクションをスイッチとしてプログラムする方法についてのより詳細な情報は、*6.10* アクション用にショートカットを作成する、ページ *66* を参照してください。

6.3.1 ボタンを押した時に音が出るようにする

ボタンを押した時に音が出るようにするには、

1. **I-Series Control Center >** ボタンを開きます。
2. ボタンを押した時に音が出るようにするチェックボックスを選択して、ボタンが押された際の音声フィードバックを有効にします。

ボタンを押した時に音が出ないようにするには、

1. **I-Series Control Center >** ボタンを開きます。
2. ボタンを押した時に音が出るようにするチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

6.3.2 スイッチに電源オン機能を設定する

接続されたスイッチの電源オン機能を有効にするには、

1. **I-Series Control Center >** スイッチを開きます。
2. スイッチ「**1**あるいは**2**」を電源をオンにするボタンとして機能させるチェックボックスを選択します。

接続されたスイッチの電源オン機能を無効にするには、

1. **I-Series Control Center >** スイッチを開きます。
2. スイッチ「**1**あるいは**2**」を電源をオンにするボタンとして機能させるチェックボックスを非選択してチェックを消します。

6.3.3 スイッチに電源オフ機能を設定する

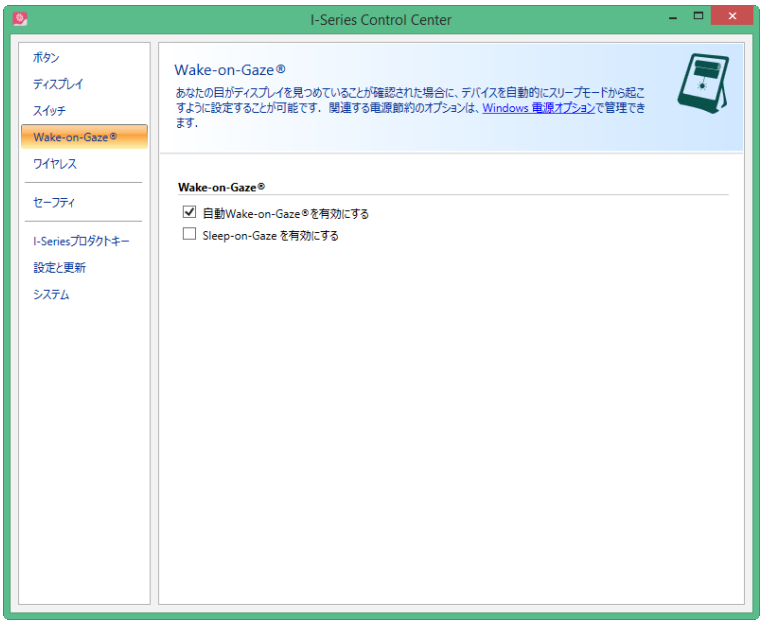
接続されたスイッチに電源オフ機能を設定するには、

1. **I-Series Control Center >** スイッチを開きます。
2. スイッチ「**1**あるいは**2**」を電源をオフにするボタンとして機能させるチェックボックスを選択します。

接続されたスイッチの電源オフ機能を無効にするには、

1. **I-Series Control Center >** スイッチを開きます。
2. スイッチ「**1**あるいは**2**」を電源をオフにするボタンとして機能させるチェックボックスを非選択してチェックを消します。

6.4 Wake-on-Gaze®



Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、ユーザーの目がディスプレイを見つめていることが確認された場合にスリープモードから自動的に起動するように設定できます。

デバイスで Wake-on-Gaze を有効にするには、

1. **I-Series Control Center > Wake-on-Gaze** を開きます。
2. 自動 **Wake-on-Gaze** を有効にするチェックボックスを選択します。
3. **Windows** 電源オプション リンクを選択し、必要に応じて電源オプションを調整します。

デバイスで Wake-on-Gaze を無効にするには、

1. **I-Series Control Center > Wake-on-Gaze** を開きます。
2. 自動 **Wake-on-Gaze** を有効にするチェックボックスをクリックしてチェックを消します。

Wake-on-Gaze® の使用方法についてのより詳細な情報は、*5.5 Gaze Interaction で Tobii Dynavox I-Series+ をスリープ状態から起動する、ページ 47* を参照してください。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、注視により (バッテリーの消費を抑えたい場合やデバイスが不要な場合に) スリープ状態にするよう設定することも可能です。

デバイスで Sleep-on-Gaze を有効にするには、

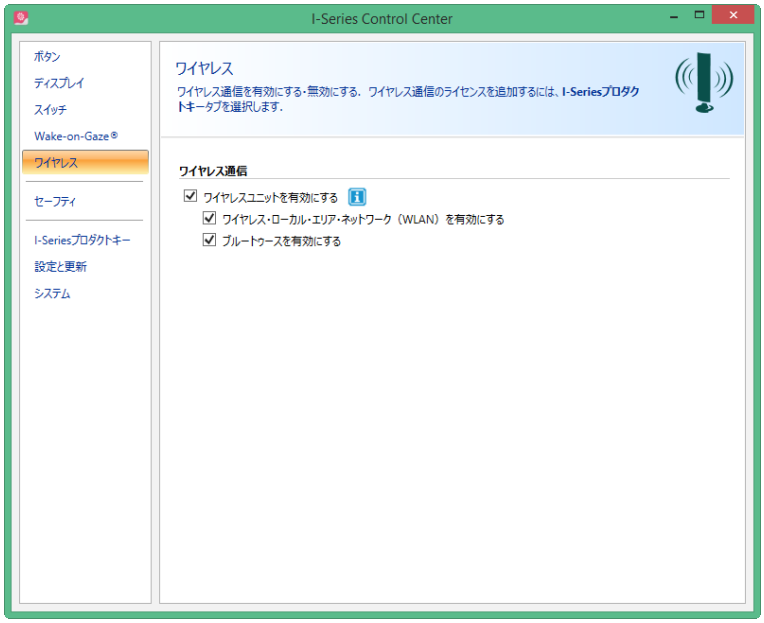
1. **I-Series Control Center > Wake-on-Gaze** を開きます。
2. Wake-on-Gaze が有効になっていることを確認します
3. **Sleep-on-Gaze** を有効にする チェックボックスを選択します。

デバイスで Wake-on-Gaze を無効にするには、

1. **I-Series Control Center > Wake-on-Gaze** を開きます。
2. **Sleep-on-Gaze** を有効にするチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

Sleep-on-Gaze® の使用方法についての情報は、*5.5 Gaze Interaction で Tobii Dynavox I-Series+ をスリープ状態から起動する、ページ 47* を参照してください。

6.5 ワイヤレス



6.5.1 WLAN

内蔵されている WLAN (ワイヤレス・ ローカル・ エリア・ ネットワーク) サポートは、 802.11 b/g/n 規格に適合した Wi-Fi™ ネットワークやアクセスポイントなどのワイヤレス・ ネットワークへの接続を I–12+ と I–15+ の両方で有効にします。

6.5.1.1 Tobii Dynavoxプロダクトキーの取り扱い

WLAN 通信の利用には I-Seriesプロダクトキーが必要です。I-Seriesプロダクトキーを入力または表示するには、**I-Series Control Center** のI-Seriesプロダクトキー・ セクションを開きます。*6.7 I-Series*プロダクトキー、ページ *61* を参照してください

6.5.1.2 WLAN 通信を有効/無効にする

WLAN 通信を有効にするには、

1. **I-Series Control Center >** ワイヤレスを開きます。
2. ワイヤレス・ ローカル・ エリア・ ネットワーク (**WLAN**) を有効にするチェックボックスを選択します。

WLAN 通信を無効にするには：

1. **I-Series Control Center >** ワイヤレスを開きます。
2. Clear the ワイヤレス・ ローカル・ エリア・ ネットワーク (**WLAN**) を有効にするチェックボックスのチェックを消すか、すべてのワイヤレス・ ユニットを無効にするチェックボックスを選択して、すべてのワイヤレス・ ユニットを無効にします。

6.5.1.3 WLAN への接続

1. デスクトップの通知領域の WLAN アイコン をクリックします。
2. ネットワークに接続を選択します。
3. 接続するネットワークを選択します。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスと共に使用するワイヤレスネットワークを設定する際は、信頼性のあるパフォーマンスを実現するために、アンテナダイバーシティをサポートするワイヤレスアクセスポイントが推奨されます。一般的に、上記のようなアクセスポイントは、ルーター機器にアンテナが2つあるので見分けがつきます。

アンチウイルスプログラムの利用を強くお勧めします。

6.5.2 携帯電話通信のための Bluetooth®

内蔵された Bluetooth® を利用すれば、モバイル Bluetooth® 規格に適合する携帯電話に接続することができます。

モバイル通信目的で **Tobii Dynavox** コミュニケーターを使用する場合に限ります。

Bluetooth® を介して Tobii Dynavox I-Series+ デバイス上で携帯電話の使用とプログラミングを行う方法についてのより詳しい情報は、**Tobii DynavoxCommunicator 5** の基本操作を参照してください。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに対応する携帯電話の機種についての詳細情報は、www.tobiidynavox.com をご覧ください。

6.5.2.1 I-Series プロダクトキーの取り扱い

本デバイスでの Bluetooth® 通信には、I-Series プロダクトキーが必要です。I-Series プロダクトキーを入力または表示するには、**I-Series Control Center** の I-Series プロダクトキー・ セクションを開きます。*6.7 I-Series プロダクトキー、ページ 61* を参照してください

6.5.2.2 Bluetooth® 通信を有効/無効にする

Bluetooth® 通信を有効にするには、

1. **I-Series Control Center >** ワイヤレスを開きます。
2. **Bluetooth** を有効にする チェックボックスを選択します。

Bluetooth® 通信を無効にするには、

1. **I-Series Control Center >** ワイヤレスを開きます。
2. **Bluetooth** を有効にするチェックボックスのチェックを外すか、またはすべてのワイヤレスユニットを無効にするチェックボックスのチェックを外して、すべてのワイヤレスユニットを無効にします。

6.5.2.3 Bluetooth® デバイスへの接続

より詳細な情報は、コミュニケーター**4** の基本的な使い方 を参照してください。

6.6 セーフティ

デバイスを初めて起動すると、**I-Series Control Center** のセーフティ設定が、I-SeriesWelcome Guide に含まれます。ガイドの内容をすべてカバーするには、これらのセーフティ設定を確認する必要があります。セーフティ設定はお客様の安全のためのものです。あらゆる変更に同意する前に、セーフティの詳細を必ずお読みください。

6.6.1 音声

スピーカー機能の使用を開始してスピーカーの出力設定を調整を行うには、音声のセーフティ情報 (初期設定でこれがすでに行われていない場合) を確認する必要があります。

承認するには：

1. **I-Series Control Center >** セーフティを開きます。
2. 音声セーフティの詳細 の文字をクリックします。ダイアログボックスが開き、セーフティに関する説明が表示されます。全文をよくお読みください。
3. 私はセーフティ詳細を読んで理解しており、スピーカー機能を有効にすることに同意します のチェックボックスを選択し、セーフティに関する説明を読んで理解したことを承認します。

6.6.2 温度制御

I-Series Control Center > 温度制御でデバイスの使用を設定する前に、温度制御セーフティー詳細を確認しなければなりません。

承認するには：

1. **I-Series Control Center >** セーフティを開きます。
2. 温度制御セーフティの詳細 の文字をクリックします。新しいダイアログボックスが開き、セーフティに関する説明が表示されます。全文をよくお読みください。
3. 私はセーフティ詳細を読んで理解しており、温度制御の機能を有効にすることに同意します のチェックボックスを選択し、セーフティの説明を読んで理解したことを承認します。

デバイスはポータブルまたは装着モードで利用できます。選択したモードによって、デバイスに許容される最高温度が異なります。デバイスが装着されている状態では、より高い温度での動作が可能です。

I–12+ と I–15+ は、両方とも携帯あるいは設置デバイスとして使用でき、携帯モードと設置モードの両方の運用が可能です。

デバイスが過熱した場合はシャットダウンされます。ユニットは冷却する時間が必要なため、再起動するまでに時間がかかることがあります。デバイスがまだ熱すぎる時に Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを再起動しようとすると、電源ボタンは2秒ほど紫色に点滅します。詳細な手順については、付属書 C コンピューターデバイスの運用状況、ページ *95* および 表 *D.1* 最高許容温度、ページ *97* を参照してください。

6.6.2.1 デバイスの使用

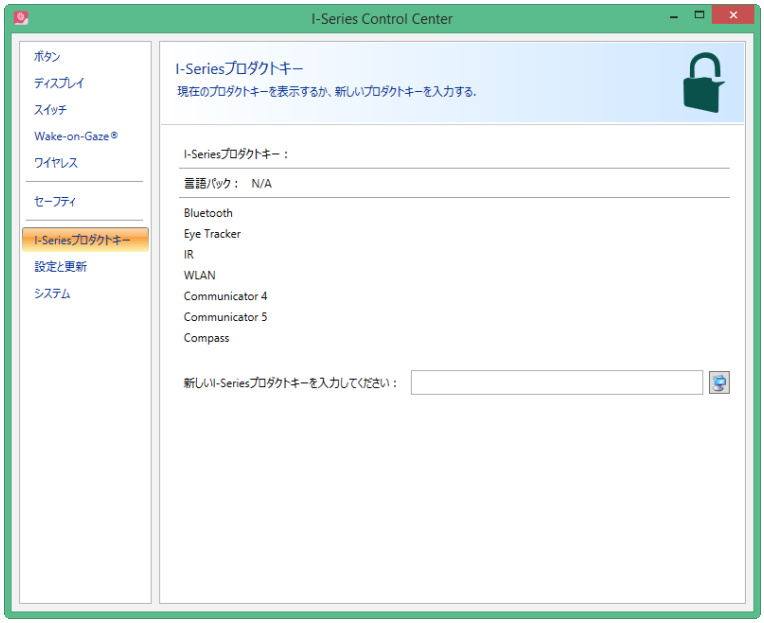
デバイスの使用モードの指定は セーフティ の設定外で行われますが、**I-Series Control Center** の範囲内です。

デバイス使用方法の指定：

1. **I-Series Control Center >** セーフティを開きます。
2. デバイスの使用方法 からお好みのオプションをクリックします。
   - 携帯モード — 携帯モードは最高デバイス温度のシャットダウン限度を低めの温度に設定するため、継続的な肌の露出により生じる恒常的肉体的障害のリスクを低減させます。
   - 設置モード — 設置モードは最高の許容デバイス温度をより高いシャットダウン温度に設定します。

詳細な手順については、表 *D.1* 最高許容温度、ページ *97* を参照してください。

6.7 I-Seriesプロダクトキー



Tobii Dynavox I-Series+ の次の機能を使用するにはライセンスが必要です。

- アイトラッカー
- Bluetooth®
- WLAN
- 赤外線通信
- Tobii Dynavox Communicator
- Tobii Dynavox Compass

現行のI-Seriesプロダクトキーを表示させるには、

- **I-Series Control Center > I-Series**プロダクトキーを開きます。

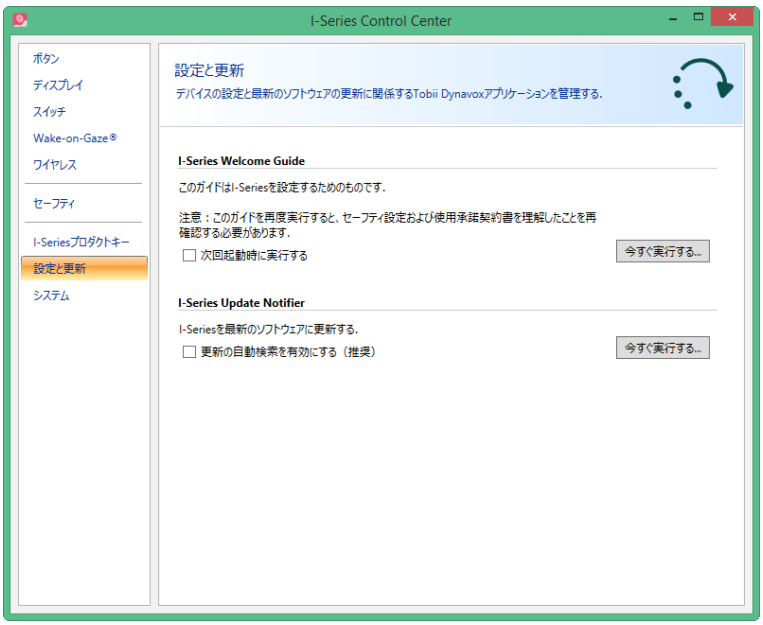
シンボルが表示されている場合は、デバイスのその機能に対するI-Seriesプロダクトキーが有効であることを示します。

I-Seriesプロダクトキーを追加するには、

1. **I-Series Control Center > I-Series**プロダクトキーを**開**きます。
2. **I-Series**プロダクトキーの入力ボックスで、新しいI-Seriesプロダクトキーを入力してください。

I-Seriesプロダクトキーを入力するには、接**続**されたキーボードを使用するか、この ボタンを**選択**して、画面上のキーボードを有**効**にしてください。

6.8 設定と更新



お使いのデバイスのセットアップや最新のソフトウェアへの更新に**関連**するTobii Dynavoxアプリケーションを管理します。

6.8.1 I-Series Welcome Guide

I-Series Welcome Guide は、ユーザーに使用**許諾**契**約書**やセーフティ**設**定などのセットアップ手**順**をご案内します。

I-Series Welcome Guide が**終**了していない**場**合、Tobii Dynavox I-Series+ が次回起**動**された**時**に自**動**的に**開**きます。

次回起**動時**に I-Series Welcome Guide を**実**行するには、次の手**順**に**従**ってください。

1. **I-Series Control Center >** セットアップと更新を**開**きます。
2. 次回起**動時**に**実**行チェックボックスを**選択**します。

今すぐに I-Series Welcome Guide を**実**行するには、次の手**順**に**従**ってください。

1. **I-Series Control Center >** セットアップと更新を**開**きます。
2. 今すぐ**実**行ボタンを**選択**します。

Welcome Guideが完了した後、I-Seriesで自**動**再起**動**が**実**行されます。

6.8.2 I-Series Update Notifier

I-Series Update Notifier は、Tobii Dynavoxソフトウェアの最新のソフトウェア更新が入手可能になったときに (自**動**、定期的、またはユーザーが**選**んだ**時間**に手**動**で更新) ユーザーに通知し、インストールの支援をするプログラムです。

I-Series Welcome Guide で、または後に I-Series Control Center で「自動更新の有効化」を選択すると、I-Series Update Notifier はTobii Dynavoxのウェブサイトにてお使いのソフトウェアのバージョン用の更新を自動的に検索します。

お使いの Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを正常に動作させ続けるためには、Tobii Dynavoxソフトウェアを定期的に更新することを強くお勧めします。従って自動更新を有効にすることを大いにお勧めします。

更新の自動検索を有効にするには、

1. **I-Series Control Center >** セットアップと更新を開きます。
2. 更新の自動検索を有効化 (推奨) チェックボックスを選択します。

更新が見つかった場合には、以下のI-Series Update Notifier のポップアップ画面が現れます。

利用可能な更新が、I-Series Update Notifier のステップ1の画面に表示されます。画面右側の緑のチェックマークの付いた大きなボタンがその更新に当たります。また、現在お持ちのソフトウェアと更新の、両方のバージョン番号も表示されます。

利用可能な更新をダウンロードしない場合は、更新しない分のボタンをクリックすると、その更新のチェックマークが赤に変わり、「X」が付きます。

以下の手順で進めてください。

- デバイスの更新をダウンロードするには ダウンロード ボタンをクリックして、ステップ 2 に進みます。
- ステップ 2 でインストールボタンをクリックすると、選択した更新がインストールされ、ステップ 3 に進みます。
- ステップ 3 では、お使いのシステムが更新されたことを知らせる画面が表示されます。終了 ボタンを選択して I-Series Update Notifier を閉じます。

「自動更新を有効化」を選ばなかった場合、I-Series Update Notifier を使ってTobii Dynavoxソフトウェアの更新を確認して、手動でダウンロードすることができます。

I-Series Update Notifier を手動で開いて有効化させるには (上記のステップ 1 の画面が開き、同様の自動化更新プロセスが開始します)、

- Windows のデスクトップから スタートメニュー **> Tobii Dynavox**に移動してから、I-Series Update Notifier アイコン を選択します。

または

1. **I-Series Control Center >** セットアップと更新を開きます。
2. 今すぐ実行ボタンを選択します。

6.9 システム

6.9.1 バージョンと型式番号

デバイスのバージョンと型式番号を表示するには：

- **I-Series Control Center >** システムを**開**きます。

本デバイスに**問題**が生じてカスタマーサポートに**連絡**する必要がある**場**合は、上**記**の情**報**をお手元にご用意ください。

デバイスのバージョンと型式番号をファイルに保存するには、

1. **I-Series Control Center >** システムを**開**きます。
2. ファイルに情**報**を保存ボタンを**選択**します。

すべての情**報**を含むこのファイルは、Eメールに添付することができます。

6.9.2 バックアップ

これは、Tobii Dynavoxソフトウェア**関連**ファイルに特定のシステム・バックアップです。デバイスは**1週間**に1回、定期的かつ自**動**的にTobii Dynavox通信アプリケーション (Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass のページセット、ファイル、**設**定など) に**関係**するデータ、Gaze Interaction ファイル (プロファイル、キャリブレーション**設**定、インタラクションの**設**定など) 、およびI-Series Control Center にあるお使いのデバイス特定の**設**定をバックアップします。バックアップを手**動**で**開**始したり、3つある最新のバックアップから**復**元を行うことができます。最新のバックアップが作成された後になされた**変**更は、それ以前のバックアップからの**復**元を**選択**した**場**合、元に**戻**されることにご注意ください。microSD カードに十分なスペースがある**場**合はマイ・ドキュメント・フォルダーにあるすべてのファイルもバックアップされますが、その**優**先**順**位はTobii Dynavoxソフトウェアに**関連**するファイルに**続**く2番めとなります。お使いのデバイスのすべてのファイルをバックアップするには、マイクロソフト**製**の **Windows** バックアップと**復**元アプリケーションを使用してください。

バックアップのプロセスは**週**に一度 **(毎週**日曜、**15時)** 行われ、最新の3回のバックアップが microSD カードに保存されます。

この時にお使いの Tobii Dynavox I-Series+ デバイスが作動中でない場合は、バックアップは実行されません。

このプロセスにより全てのユーザーのファイルがバックアップされます。バックアップドライブに十分な空き容量がない場合、一部のファイルはバックアップされません。イメージファイルは優先度が最も低いファイルです (最後にバックアップされます)。バックアップできる最大ファイルサイズは、1ファイル 100 MB です。これより大きいファイルは除外されます。

バックアップファイルは **Q:\Backup\<**日付**>** (**microSD** カード上) ディレクトリに保存されています。

Tobii Dynavoxは「Tobii Dynavoxアプリケーションデータ」以外のその他のデータに対する責任を負いません。

6.9.2.1 ユーザープロファイル・カード

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスには、出荷時に 32 GB の microSD カードが搭載されています。この SD カードは個人の設定やデータのバックアップ用です。Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに取り返しのつかない損傷が生じた場合、microSD カードを取り外し、新しいデバイスに挿入することで、簡便かつ迅速に個人データと設定を取り出し、復元することができます。

6.9.2.2 ユーザーによる手動のバックアップ

システムの手動バックアップを行うには、

1. **I-Series Control Center >** システムを開きます。
2. 今すぐバックアップボタンを選択します。

   バックアップが完了すると、画面に次のメッセージが表示されます。 バックアップが完了しました。

6.9.2.3 ユーザーによるバックアップファイルの復元

3つある最新システムバックアップの一つを使って復元を行うには、

1. **I-Series Control Center >** システムを開きます。
2. バックアップから復元ボタンを選択します。
3. 保存されているバックアップの日付の横にあるこのバックアップから復元ボタンを選択して、最新のバックアップの一つを選択します。

   復元が完了すると、画面に復元完了 と シンボルが、選択された復元元の日付の横に表示されます。

これらのバックアップファイルのコピーは、例えば外付けハードドライブや USB スティックなどの、任意の場所に保存できます。**Q:\Backup\<**日付**>** ディレクトリ内のフォルダを、任意の外部ディレクトリまたは選択したドライブにコピーします。

6.9.2.4 バックアップの失敗

バックアップに失敗する原因として考えられるのは、マイドキュメントフォルダにあるファイルの数が多すぎることです。最優先の対象外であるバックアップファイルは、別の場所 (写真や音楽ファイルなど) に移動するようにしてください。

6.9.3 アイトラッカー

アイトラッカーを有効にするには、

1. **I-Series Control Center >** システムを開きます。
2. アイトラッカーを有効にするチェックボックスを選択します。

アイトラッカーを無効にするには、

1. **I-Series Control Center >** システムを開きます。
2. アイトラッカーを有効にするチェックボックスを非選択します。

6.10 アクション用にショートカットを作成する

クイックアクセスボタンや接続されたスイッチをプログラムすることにより、アクションと呼ばれるショートカットを作成できます。クイックアクセスボタンは Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの左側にあり、**1**、**2** およびメニューと呼ばれています。

スイッチはスイッチコネクタに接続されています。

6.10.1 設定可能なアクション

以下は、設定可能な各アクションの簡単な説明です。

- 選択されたアクションなし — 初期設定 — 以前に設定されたタスクを削除する際に選択します。
- 入力の送信 - ユーザーは別のプログラムに入力送信できます (キー入力、マウスクリックまたはテキスト)。
- プログラムのスタート - ユーザーはプログラムを起動できます。
- 音量 - ユーザーは音量の上げ下げ、またはミュートのオン/オフができます。
- 明るさ - ユーザーは画面の明るさを強めたり弱めたりすることができます。
- Gaze Interaction – ユーザーは、トラックステータス ウィンドウの表示/非表示設定、キャリブレーション、または Gaze Interaction のオン/オフの一時停止ができます。
- ワイヤレス - ユーザーは無線通信のオン/オフ設定、または特定のワイヤレス通信を設定できます。
- Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass — 動作は Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass で設定およびカスタマイズされます。

クイックアクセス ボタンとスイッチで利用可能なアクションは同じです。

アクション用にショートカットを作成するには：

1. **I-Series Control Center** を開きます。
2. カスタマイズするアイテムに応じて、ボタン または スイッチ を選択します。
3. アクションの設定 をクリックするとダイアログボックスが表示され、ボタンに割り当てるアクションを選択できます。アクションの内の1つを選択すると、そのアクションのオプションが、選択されたアクションの下に表示されます。

クイックアクセスボタンを押したときに音が鳴るようにするには、アクションの設定後に音声の再生 チェックボックスを選択します。

6.10.2 アクションの選択

- 選択されたアクションなし — 初期設定 — 以前に設定されたタスクを削除する際に選択します。

- 入力の送信 - デバイスボタンまたはスイッチにより実行されるオプションを選択して、キーボード入力、マウスクリック、または指定された文字列のいずれかの送信を選択します。
  - キーボード入力の送信 - キーボード入力の送信リスト の中から、 別のプログラムに送信するキー入力を選択します。
  - マウスクリックの送信 - マウスクリックの送信リスト の中から、左・ 中央・ 右クリックのうち、希望のマウスクリックを選択します：
  - テキスト送信 - テキスト送信ボックス の中から、別のプログラムに送信する文字列を選択します。
- プログラムの起動 - このオプションを初めて使用する場合は 参照 をクリックしてプログラムを選択してください。
  初回以降に プログラムの起動 オプションを選択すると、前回選択されたプログラムが表示されます。そこでリストの中からプログラムを選択するか、またはリスト外のプログラムを実行する場合は 参照 を選択します。

  選択されたプログラムにプログラム引数を追加することができますが、通常は必要ありません。プログラムがプログラム引数を要求し、何を入力すべきか分からない場合は、そのソフトウェアの購入元にお問い合わせください。
- 音量 - お好みのオプションを選択して、音量の上げ下げ、またはミュートに設定することができます。
- 明るさ - お好みのオプションを選択して、画面の輝度を調整することができます。
- **Gaze Interaction** - トラックステータ スウィンドウ、Gaze Interaction のキャリブレーション、Gaze Interaction の一時停止、または Windows Control のオン/オフ切り替えを選択します。

  このオプションを有効にするには、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスにアイトラッカーと Tobii Dynavox Gaze Interaction Software がインストールされていなければなりません。

- ワイヤレス – オプションを選択して、全ての無線通信のオン/オフ、または各ワイヤレスユニットのン/オフの設定ができます。
- **Communicator /Compass** — 動作は Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass で設定およびカスタマイズされます。

スイッチのアクションが **I-Series Control Center** と **Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass** の両方で、または別の通信ソフトウェアにおいてカスタマイズされている場合、全てのアクションは同時に実行されます。スイッチに指定されたアクションが、**Tobii Dynavox Communicator /Tobii DynaVox Compass** または別の通信ソフトウェアで同じスイッチに設定されたアクションと競合しないことを確認してください。

グレー化された部分で矢印を選択するだけでスライド式メニューから戻ることができます。

7 Gaze Interaction Settings

7.1 Gaze Interaction Settings の設定にアクセスする

Gaze Interaction Settings の設定は、トラックステータス、キャリブレーション、および一般的な設定などのコントロール機能に、すばやく簡単にアクセスできるようにしたプログラムです。

Gaze Interaction Settings の設定 は、以下の内の 1 つの方法で起動します。

- スタートメニュー **> Tobii Dynavox** に進みます。
- 通知領域の **Gaze Interaction Settings** アイコン 、またはデスクトップのショートカット をダブルクリックします (ショートカットが作成されている場合)。
- 通知領域の **Gaze Interaction Settings** アイコン を右クリックしてから (タッチパネルでの右クリックは、アイコンを押し続ける動作です)、設定をクリックします。

- デバイスにインストールされた通信ソフトウェアを介して行う場合。

Gaze Interaction Settings の左側にあるリストから、変更するオプションを選択します。リストの右側に、選択可能なオプションが表示されます。

OK をクリックして変更を保存します。これにより、Gaze Interaction Settings の設定も閉じます。

変更をキャンセルするにはキャンセルをクリックします。これにより、Gaze Interaction Settings の設定も閉じます。

適用する をクリックして変更を保存します。Gaze Interaction Settings の設定は開かれたままになります。

このアイコン が表示されている場合、その機能に関する追加情報が記載された情報ボックスがあります。

7.2 キャリブレーション

このセクションは、個人のキャリブレーションを行い、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスで最適な Gaze Interaction を可能にする方法を説明します。

7.2.1 キャリブレーションの開始

以下の内の1つの方法でキャリブレーションを起動します。

- **Gaze Interaction Settings >Gaze Interaction** を開き、キャリブレーションを開始する...ボタンを選択します。
- 通知領域内の **Gaze Interaction Settings** アイコン を右クリックし (タッチスクリーンでの右クリックは、アイコン上を指で押さえる動作になります)、キャリブレーションの開始 を選択します。

- デバイスにインストールされた通信ソフトウェアを介して行う場合。

7.2.2 キャリブレーションの中断

以下の内の1つの方法でキャリブレーションを中断します。

- **Esc**キーを押す。
- 画面上をマウスを使って左クリックします。
- (タッチスクリーンのデバイス上で) 画面に触れる。

7.2.3 アクティブ・アイのカスタマイズ

特別な状況や障害のため、Gaze Interaction の使用に適している目が1つしかない場合があります。そのような場合に、またどちらの目により機能があるかをご存知の場合は、Gaze Interaction のトラッキングに使用する目を選択できます。

アイトラッカーによってトラックさせる目を選択するには、以下のステップに従います。

1. **Gaze Interaction Settings** の設定 **>** キャリブレーションを開きます。

2. 左目または右目のキャリブレーションの結果ボックスの下にある**Gaze Interaction** でこの目だけをトラッキングするチェックボックスを**選択**します。

7.2.4 キャリブレーション・ポイントの改良

キャリブレーション後、1つまたは**複**数のポイントを改良する必要がある**場**合があります。

カラースキームを使用すると、キャリブレーションの**質**を理解するのに役立ちます。

3色のステータスはすべて、成功したキャリブレーションの**結**果を表しています。

- キャリブレーション**結**果の背景色が明るい赤の**場**合、キャリブレーションに成功したものの、その**質**は比**較**的低いことを意味します。1 つまたは**複**数のポイントを**個**々に、または全てを再度キャリブレーションして、より良いGaze Interactionの**結**果を得ることができます。

  キャリブレーション・ポイントを**1個** (あるいはそれ以上) 改良するだけでも、キャリブレーションを大幅に改良することが可能です。

- キャリブレーション**結**果の背景色が明るい黄色の**場**合、キャリブレーションは成功し、その**質**は良**質**であることを意味します。1 つまたは**複**数のポイントを**個**々に高めることで、より良いGaze Interactionの**結**果を得られる**場**合があります。
- キャリブレーション**結**果の背景色が**緑**の**場**合、キャリブレーションは成功し、その**質**は高いことを意味します。

得られたキャリブレーションの**質**に**関**わらず、OK または**適**用するGaze Interactionを**選択**して、Gaze Interactionの使用を**開**始できることに留意してください。キャリブレーション**結**果の**質**に影**響**を受けるのは、Gaze Interactionの精度や**機**能です。できる限り最善のキャリブレーション**結**果を得るようにしてください。

ご留意ください！**結**局のところ、いちばん重要なのはユーザー**個**人の使用体**験**なのです！

キャリブレーションポイント内の**線**がキャリブレーションポイントの**円**の中心にあるマルに近いほど、そのポイント

のキャリブレーションは**優**れています。改良を行うポイントを**選択**し、これらのポイントのみを再度キャリブレーションすることができます。

1つあるいは複数のキャリブレーション・ ポイントを改良するには、以下のステップに従います。

1. **Gaze Interaction Settings** の設定 **>** キャリブレーションを開きます。
2. キャリブレーションの結果で改良したいポイントを選択します。
3. ポイントの改良ボタンを選択すると、選択されたポイントのキャリブレーションが始まります。

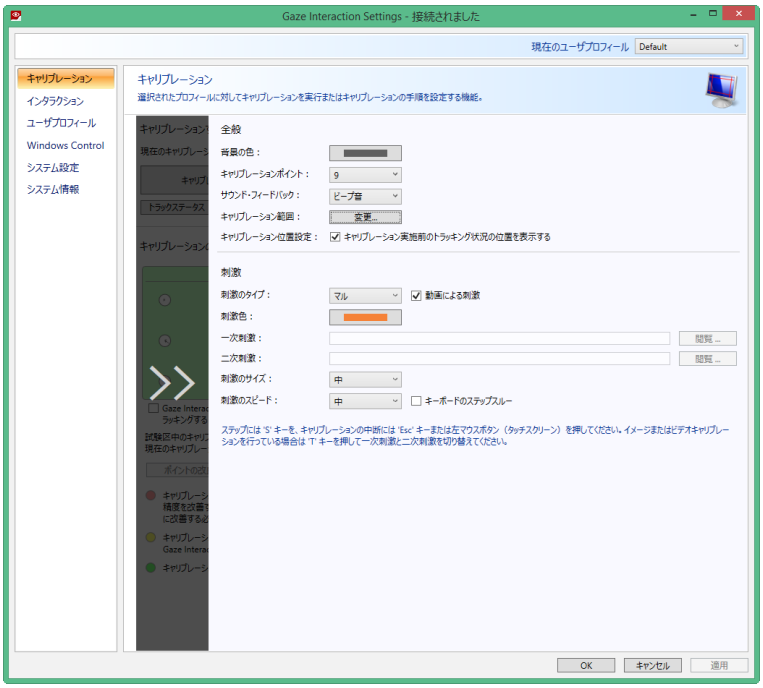
7.2.5 キャリブレーション･ポイントの削除

キャリブレーション後も相変わらず質の悪いキャリブレーション･ポイントがある (緑のラインがキャリブレーション･ポイントの円の周囲全体と外に散乱している) 場合、そのキャリブレーションからそのポイントを完全に削除することができます。これによって、その他のポイントのキャリブレーションが改良される可能性があります。ポイントを削除すると、画面のその領域はキャリブレーションが解除され、そこではGaze Interactionが適切に動作しないことに留意してください。

1つあるいは複数のキャリブレーション・ ポイントを削除するには、以下のステップに従います。

1. **Gaze Interaction Settings** の設定 **>** キャリブレーションを開きます。
2. キャリブレーションの結果で削除したいポイントを選択します。
3. ポイントの削除ボタンを選択します。

7.2.6 キャリブレーションのカスタマイズ



キャリブレーションをカスタマイズするには、以下のステップに従います。

1. **Gaze Interaction Settings** の設定 **>** キャリブレーションを開きます。
2. 設定...ボタンを選択します

全般

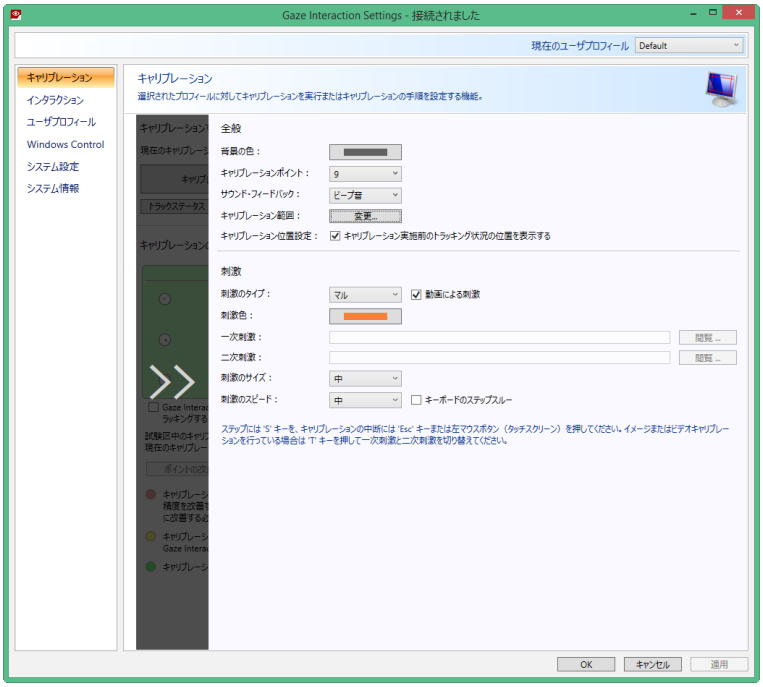
3. 背景色のボタンを選択してキャリブレーションの背景を選択し、希望の色を選択します。
4. キャリブレーションに用いるポイント数 を キャリブレーションポイントドロップダウンリストから指定します。ポイント数が高いほど、キャリブレーションの精度も高くなります。
5. サウンド･フィードバックを希望する場合、または サウンド･フィードバックドロップダウンリストにはないものを希望する場合に選択します。

刺激

6. 刺激のタイプドロップダウンリストから、刺激のタイプを選択します。それぞれカスタマイズ・オプションが異なる、3つの方法があります。
   - マル：
     - 刺激の色ボタンをクリックしてマルの色を選択します。
     - 刺激のサイズドロップダウンリストからマルのサイズを選択します。
     - 刺激のスピードドロップダウンリストからマルのスピードを選択します。
   - イメージ：
     - 参照を選択して、一次刺激のイメージを選択します。
     - 参照を選択して、二次刺激のイメージを選択します。
     - 刺激のサイズドロップダウンリストからイメージのサイズを選択します。
     - 刺激のスピードドロップダウンリストからイメージのスピードを選択します。
   - ビデオ：
     - 参照を選択して、一次刺激のビデオを選択します。
     - 刺激のサイズドロップダウンリストからビデオのサイズを選択します。
     - 刺激のスピードドロップダウンリストからビデオのスピードを選択します。
7. (静画ではなく) 刺激の動画化を行う場合は、刺激の動画化チェックボックスをチェックします。
8. キャリブレーションを制御する場合、例えばキャリブレーション刺激が動くタイミングをキーボードで決定する場合、キーボードのステップスルーチェックボックスをチェックします。
   - キーボードのステップスルーでは、ステップ (キャリブレーションの刺激を移動) には 'S' キーを 、キャリブレーションの中断には 'Esc' キー、マウスの左ボタンを押すか、またはタッチスクリーンに触れてください。イメージまたはビデオによるキャリブレーションを使う場合は、'T' キーを使って一次/二次刺激イメージを切り替えます。

グレー化された部分で矢印を選択するだけでスライド式メニューから戻ることができます。

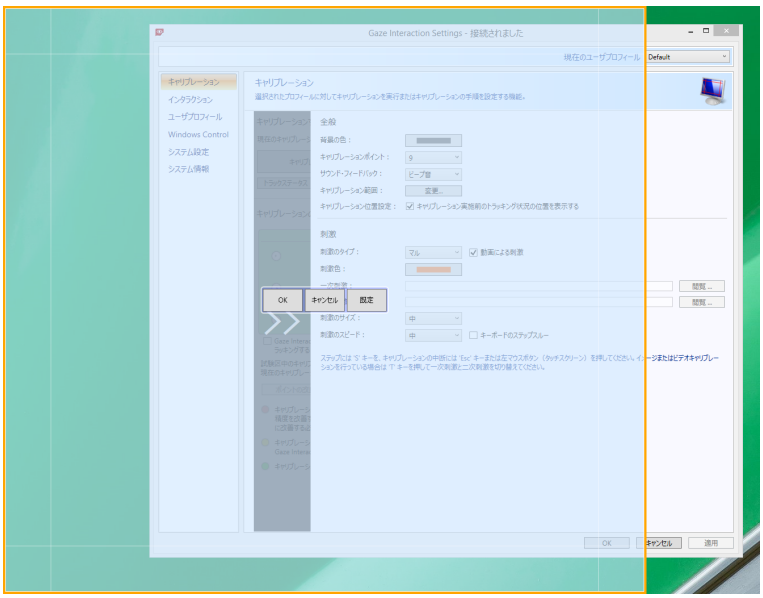
7.2.7 キャリブレーション範囲のカスタマイズ



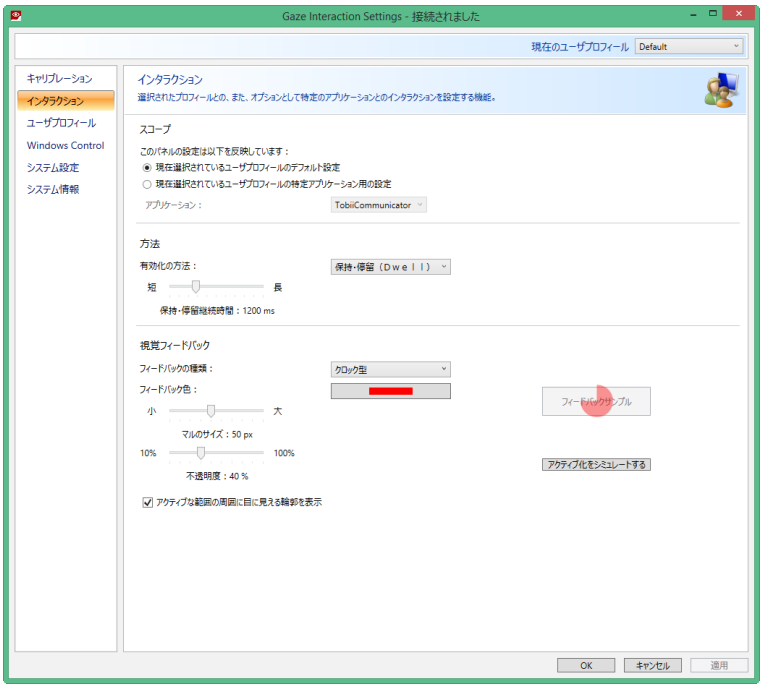
ユーザーがGaze Interactionを使用してスクリーンの一部エリアにアクセスできないことが判明した場合には、キャリブレーション範囲のカスタマイズが役に立つことがあります。キャリブレーション範囲のサイズを調節し、ユーザーがアクセスできない範囲を除外することで、全体のキャリブレーションを改善することができます。

キャリブレーション範囲をカスタマイズするには、以下のステップに従います。

1. **Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings** の設定 **>** キャリブレーションを開きます。
2. 設定...ボタンを選択します
3. キャリブレーション範囲を選択するには、変更...ボタンでキャリブレーション範囲を選択します。
4. デスクトップに青色の半透明の範囲が表示されます。青色の範囲を動かして、お好みのキャリブレーション範囲に合うようにサイズ変更ができます。



7.3 インタラクション



インタラクションの方法と**視覚**フィードバックをGaze Interactionに**適**合させるには、以下のステップに**従**います。

1. **Gaze Interaction Settings** の**設**定 **>** インタラクションを**開**きます。

スコープ

異なるGaze Interactionアプリケーションに**別**々の**設**定が必要な**場**合は、ここで**調**整を行います。

2. どのようにインタラクション**設**定を反映するかを**選択**します。
   - 特定のアプリケーションだけではなく、ユーザープロファイル全体に新しい**設**定を**適**用する**場**合は、**現**在**選択**されたユーザープロファイルのデフォルト**設**定を**設**定します。
   - ユーザープロファイルの特定のアプリケーションに新しい**設**定を**適**用する**場**合は、**現**在**選択**されているユーザープロファイルのアプリケーション固有の**設**定 を**選択**します。次に、アプリケーションドロップダウンリストで**選択**可能なアプリケーションを**選択**します。

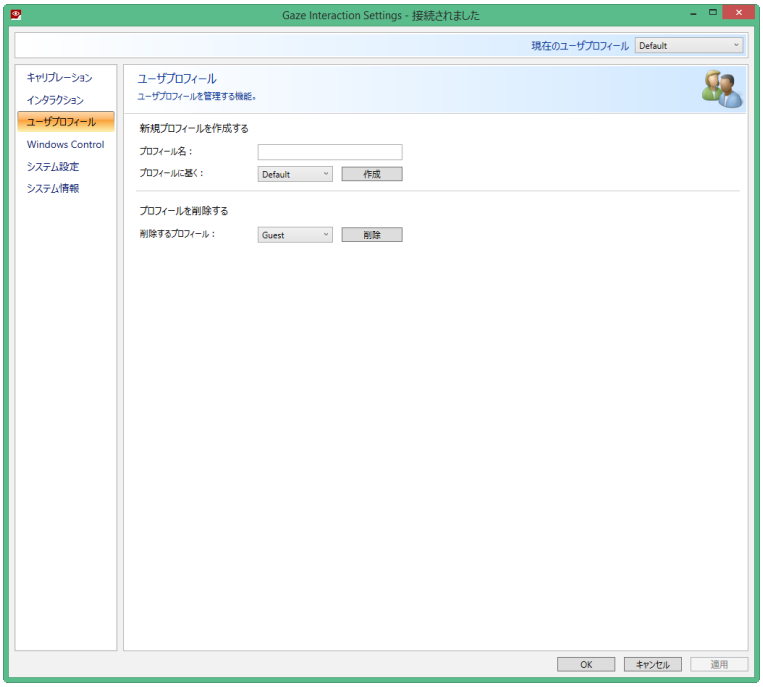
方法

3. アクティブ化の方法ドロップダウンリストからアクティブ化の方法を**選択**します。それぞれアクティブ化**時間**が**異**なる、3 つの方法があります。
   - 保持･停留。保持･停留**時間** のスライダーを**動**かすことにより、保持･停留**時間**を**調**整します。
   - スイッチ。それぞれのスライダーを**動**かすことにより、クリック**時間**とクリック**間**の最短**時間**を**調**整します。
   - まばたき。それぞれのスライダーを**動**かすことにより、瞬きの最短と最**長**の**時間**を**調**整します。

視覚フィードバック

4. 保持･停留フィードバックの**種類**ドロップダウンリストから、**視覚**フィードバックのマークを**選択**します。
5. フィードバックのマークの色をフィードバック色ドロップダウンリストから**選択**します。
6. マルのサイズとフィードバックマークの透明度を、それぞれのスライダーを**動**かして特定します。
7. アクティブな**範囲**の周**囲**に目に**見**える**輪**郭を表示チェックボックスを**選択**すると、Gaze Interaction**選択**のすべてのインスタンス内のアクティブな**領**域の周**囲**に点**線**が表示されます。
8. アクティブ化の方法がどのように画面に**現**れるかを**確認**する**場**合は、アクティブ化をシミュレートするを**選択**します。アクティブ化をシミュレートするボタンの上に例が表示されます。

7.4 ユーザープロファイル



7.4.1 新規プロファイルの作成

別々のプロファイルを利用することで、複数の人のキャリブレーションとフィードバックのプリファレンスをデバイスに保存できます。または、1 人でも時々メガネをかけたり、複数の方法でデバイスにアクセスする場合は、自分用に複数のプロファイルを作成すると良いでしょう。

新規プロファイルを作成するには：

1. **Gaze Interaction Settings** の設定を開き、ユーザープロファイルを選択し.ます。
2. プロファイル名フィールドに新しい名前を入力します。
3. プロファイルに基くドロップダウン リストの中から既存のプロファイルを選択します。新規プロファイルは、選択されたプロファイルの全ての設定を受け継ぎます。以前にプロファイルが 1 つも作成されていない場合は、デフォルト・ プロファイルのみを選択できます。
4. 作成 クリックして新規プロファイルを保存します。新規プロファイルは、作成をクリックすると直ちに保存されます。

7.4.2 現在のユーザープロファイルの選択

現在のユーザープロファイルを選択するには:

1. **Gaze Interaction Settings** の設定を開きます。
2. 現在のユーザープロファイルのドロップダウンリストからユーザープロファイルを選択します。
3. 適用する を選択します

7.4.3 プロファイルの削除

プロファイルを削除するには:

1. **Gaze Interaction Settings** の設定 > ユーザープロファイルを開きます。
2. 削除するプロファイルのドロップダウンリストからプロファイルを選択します。

3. 削除 をクリックして、**選択**したプロファイルを削除します。削除を**選択**すると、プロファイルは直ちに削除されます。デフォルト・ プロファイルは削除できないことに留意してください。

アクティブなユーザーは削除できません。

7.5 Windows Control

Windows Controlは、Gaze Interaction を使ってデスクトップと Windows コンピューターのすべてのアプリケーションにアクセスすることを可能にします。

7.5.1 自動起動

デバイス起**動時**に Windows Control を自**動**的に**開**始させるには、

- 起**動時**に **Windows Control** を自**動開**始チェックボックスを**選択**します。

デバイスの起**動時**に Windows Control を自**動**的に**開**始しないようにするには、

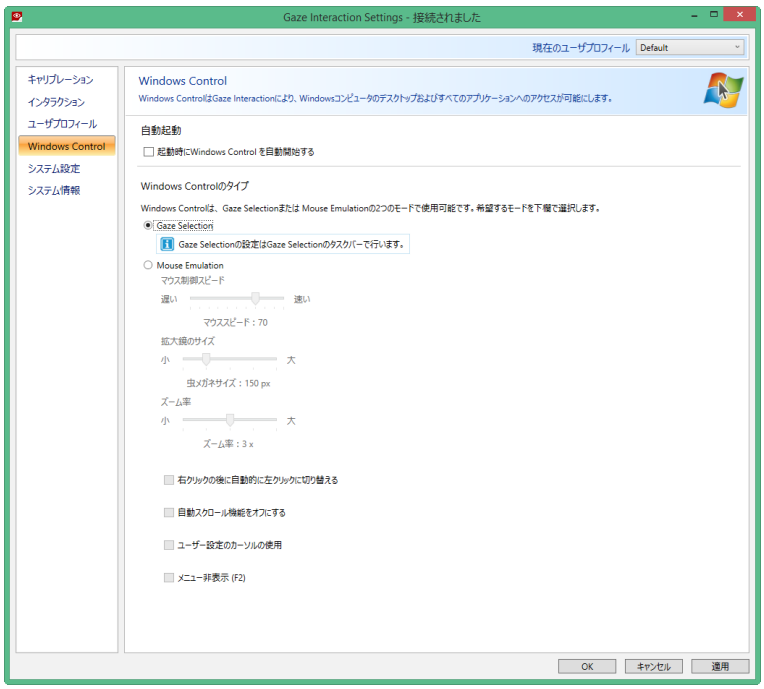
- **Windows Control** をシステム起**動時**に自**動**起**動**する チェックボックスのチェックを解除します。

7.5.2 Windows Control の種類

使用したい Windows Control の**種類**を**選択**するには、

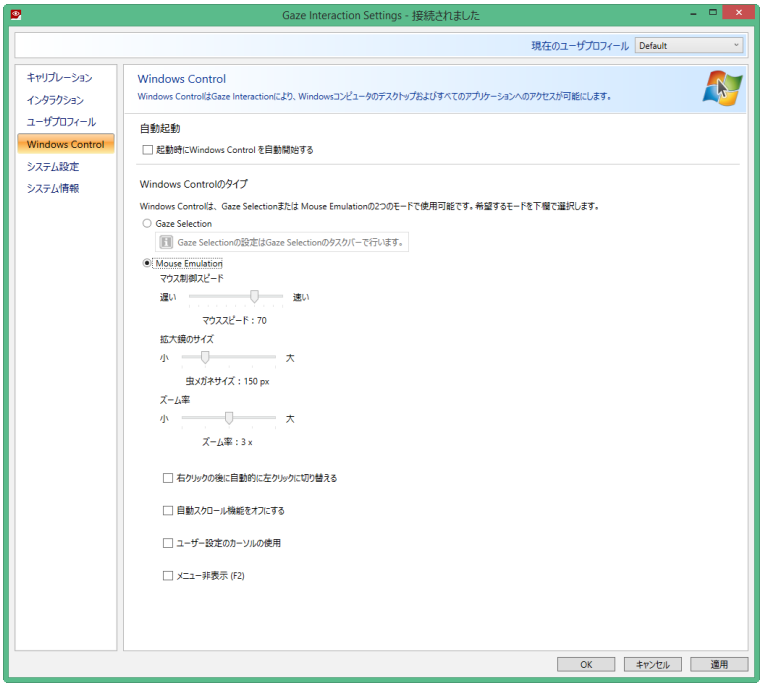
- Gaze Selection — Gaze Selection のラジオボタンを**選択**します。Gaze Selection についてのより**詳**しい情**報**は、*5.4.3 Gaze Selection* の使用、ページ *30* を参照してください
- Mouse Emulation — Mouse Emulationのラジオボタンを**選択**します。Mouse Emulation の使用についてのより**詳**しい情**報**は、*5.4.4 Mouse Emulation* の**開**始、ページ *45* を参照してください

7.5.2.1 Gaze Selection



Gaze Selection の設定は、Gaze Selection Windows Control が作動している時にはスクリーンにドックされる Gaze Selection タスクバー内にあります。設定アイコン を見つめて選択すると、Gaze Selection Settings が開きます。Gaze Selection Settings についてのより詳しい情報は、*8 Gaze Selection* の設定、ページ *81* を参照してください。

7.5.2.2 Mouse Emulation



7.5.2.2.1 マウスコントロールスピード

マウスコントロールスピードのスライダーを動かすことにより、マウスコントロールスピードをカスタマイズします。スライダーを右に動かすとスピードが増し、左に動かすと減少します。

7.5.2.2.2 拡大鏡のサイズとズーム

拡大鏡サイズのスライダー を動かして、拡大鏡のサイズをカスタマイズします。スライダーを右に動かすとサイズが増し、左に動かすと減少します。

ズーム率のスライダーを動かしてズーム率をカスタマイズします。スライダーを右に動かすとズーム率が増し、左に動かすと減少します。

7.5.2.2.3 右クリックから左クリックに自動切替

Windows Control Mouse Emulation によって希望するマウスクリック選択を自動的に切り替える (右クリック、 を選択して実行した後、左クリック、 に戻す) ようにする場合は、これにチェックします。

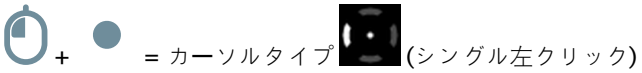
7.5.2.2.4 スクロール機能をオフにする

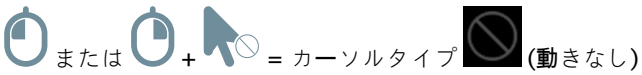
Gaze Interaction のスクロールを有効にしたくない場合は、スクロール機能の無効化チェックボックスをチェックします。

7.5.2.2.5 ユーザー設定のカーソル

ユーザー設定のカーソルは、Mouse Emulation モードでウィンドウズ制御を使用する際に、通常のマウスカーソルを様々な複数のカーソルに変える機能です。

それぞれのカーソルは、Mouse Emulation で**選択**した Gaze Interaction の「マウスクリック」の**種類**を**視覚**的に表します（Mouse Emulation メニューのシンボルの定**義**については、*5.4.4.2 Mouse Emulation* モードの *Windows Control* でのクリック、ページ *45*、*5.4.4.3 Mouse Emulation* モードの *Windows Control* での**拡**大、ページ *46* および *5.4.4.4 Mouse Emulation* **機**能の**選択**、ページ *46* を参照してください）。





ユーザー**設**定のカーソルのチェックボックスをチェックすると、Mouse Emulation モードの Windows Control 用のユーザー**設**定カーソルがアクティブになります。

7.5.2.2.6 メニュー非表示

使用中に Mouse Emulation メニューを非表示にしたい**場**合は メニュー非表示 チェックボックスにチェックを入れてください。キーボード上の

(F2) キーは、Mouse Emulation の使用中にメニューのオンとオフ（非表示/表示）を瞬**時**に切り替えをするのにも使用できます。

7.6 システム**設**定

7.6.1 システム・オフスクリーン・メニュー

位置ドロップダウンメニューを**選択**して、画面上のスクリーン・システムメニューの表示**場**所を**変**更します。

オフスクリーン・システムメニューは次の位置に表示されるように**設**定できます。

- 下部（既定）
- 上部
- 左
- 右
- 非表示

オフスクリーン・システムメニューを非表示に**設**定して、オフスクリーン・システムメニューを**無効**にします。

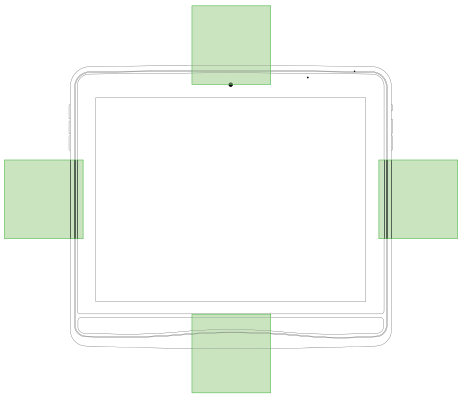


図 7.1 システム・オフスクリーン・メニューのエリア

利用可能なメニューボタンを**選択**する **> Gaze Interaction** の一**時**停止**/**再**開**チェックボックスを**選択**し、Gaze Interaction を一**時**停止/再**開**する可能性をアクティブにします。一**時**停止/再**開**の使用方法についての情**報**は、*5.6 Gaze Interaction* を一**時**停止/再**開**する。*Gaze Interaction* で *Tobii Dynavox I-Series+* をスリープ状**態**にする、ページ *48* を参照してください。

利用可能なメニューボタンを**選択**する **> Sleep-on-Gaze** チェックボックスを**選択**して、Gaze Interaction でデバイスをスリープ状**態**にする可能性をアクティブにします。Sleep-on-Gaze の使用方法についての情**報**は、*5.6 Gaze Interaction* を一**時**停止/再**開**する。*Gaze Interaction* で *Tobii Dynavox I-Series+* をスリープ状**態**にする、ページ *48* を参照してください。

7.6.2 位置**設**定ガイド

位置**設**定ガイドをオンにするには：

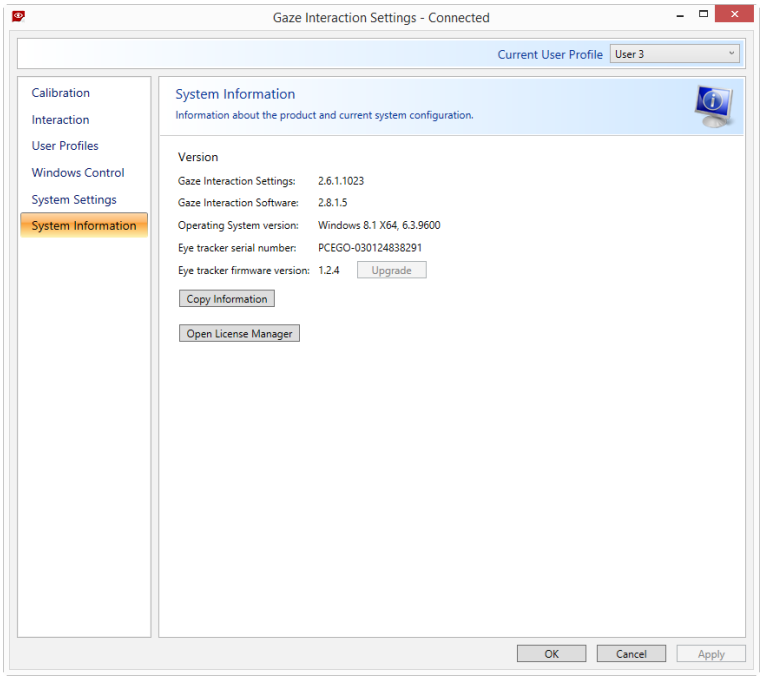
1. **Gaze Interaction Settings >** システム**設**定を**開**きます。
2. 位置**設**定ガイドを有**効**にするチェックボックスを**選択**します。

位置**設**定ガイドをオフにするには：

1. **Gaze Interaction Settings >** システム**設**定を**開**きます。
2. 位置**設**定ガイドを有**効**にするチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

位置**設**定ガイドについてのより**詳**しい情**報**は、*5.3.4* 位置**設**定ガイド を参照してください。

7.7 システム情報



デバイスのバージョンと型式番号を表示するには：

Gaze Interaction Settings > システム情報を開きます。

本デバイスに問題が生じてカスタマーサポートに連絡する必要がある場合は、上記の情報をお手元にご用意ください。

全ての情報をコピーする をクリックすると、コピーした情報は文書 (メモ帳やワードパッド) またはEメールに直接貼り付けることができます。

7.7.1 アイトラッカーのファームウェアのアップグレード

アイトラッカーのモジュールに新規のファームウェアがある場合は、アップグレードボタンが選択可能になります。

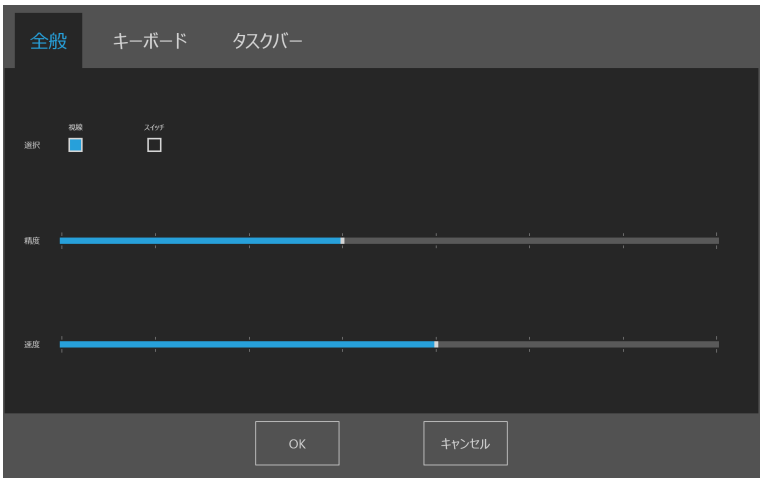
アイトラッカーのファームウェアのアップグレードを開始するには、アップグレードボタンを選択します。

Tobii Dynavox Gaze Interaction Settings の起動時にアイトラッカーのファームウェアのアップグレードがある場合は、ポップアップ通知ウィンドウが開きます。

8 Gaze Selection の設定

Gaze Selection 設定ダイアログは Gaze Interaction により制御され、ユーザーはキーボードおよび / またはマウスを使わずにすべての変更を行うことができます。

8.1 一般設定タブ:



選択

- 注視- 注視を選択し、視線の位置で希望タスクの実行で終了するズーム機能をオンにします。
- スイッチ- スイッチを選択し、スイッチを使って希望タスクの実行で終了するズーム機能をオンにします。

精度

ズームの精度は8つのレベルに設定することができます。設定を変更するには希望の位置を見つめてください。精度を変更すると、タスクの実行前のズームの度合いが調整されます。スケールの右に行けばいくほど、ズームが拡大されます。

精度がゼロに設定されている場合は、ズームされません。一次選択では短いクリックです。二次選択ではズームのままになります。

速度

ズームスピードは8つのレベルに設定することができます。設定を変更するには希望の位置を見つめてください。スピードを変更すると、タスクの実行前のズームスピードに影響があります。スケールの右に行けばいくほど、ズームのスピードが速くなります。

8.2 キーボード設定タブ

言語

選択した言**語**のキーボードレイアウトが表示されます。**別**の言**語**のキーボードレイアウトに**変**更するには、**変**更ボタンを**選択**します。さまざま言**語**のキーボードレイアウトを利用することができます。

単語予**測**

- オン - Gaze Keyboardを使用しているときに、**単語**予**測**をアクティブ化するには、オンを**選択**します。(既定)
- オフ - Gaze Keyboardを使用しているときに、**単語**予**測**を非アクティブ化するには、オフを**選択**します。

サイズ

- 小 - 小さいサイズのGaze keyboardを使用するには、小を**選択**します。画面の半分未**満**のサイズです。**図** *8.1* 小さいキーボードレイアウト (既定)、ページ *82*を参照してください。
- 大 - 大きいサイズのGaze keyboardを使用するには、大を**選択**します。画面の半分のサイズです。**図** *8.2* 大きいキーボードレイアウト、ページ *83*を参照してください。

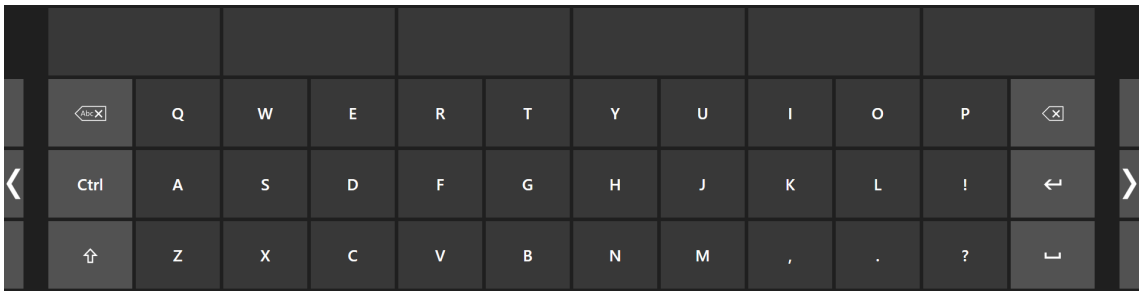


図 8.1 小さいキーボードレイアウト (既定)

図 8.2 大きいキーボード レイアウト

サウンドフィードバック

- オン - Gaze Keyboard 上でボタンを**選択**する**際**にサウンドフィードバックを有**効**にするには、オンを**選択**します。
- オフ - Gaze Keyboard 上のボタンを**選択**する**際**にサウンドフィードバックを**無効**にするにはオフを**選択**します。

Gaze typing スピード

Gaze typing のスピードは、8つのレベルに**設**定することができます。**設**定を**変**更するには、希望の位置を**見**つめてください。Gaze typing スピードを**変**更するには、タスクを**実**行する前に、ユーザーが注**視**する**長**さをボタンで**調**整します。Gaze typing スピードの**調**整ボタンは、左へ**動**かすとスピードが**遅**くなり、右へ**動**かすと速くなります。

終了するには、**OK** を**選択**して保存するか、キャンセルを**選択**して**変**更をキャンセルします。

8.3 タスクバー設定タブ

タスクバーに使用するタスクを**選択**します。タスクについてのより**詳**しい情**報**は、*5.4.3.2* タスクボタン、ページ *32* をご**覧**ください。

より小型の画面では、タスクバーで使用されるタスクの数が多いほど、**選択**が困**難**になる**場**合があることにご注意ください。

タスクをタスクバーで使用できるようにするには、各タスクのオン/オフのチェックボックスをオンにします。

タスクバーでのタスクの使用と表示を**無効**にするには、各タスクのオン/オフのチェックボックスをオフにします。

8.3.1 最大化の左クリック/タップ

左クリック/タップの最大化を有効にすると、タスクバー内の左クリック/タップタスクのアクティブな領域が大幅に拡大します。これにより、左クリック/タップタスクの選択が大幅に容易になります。

タスクバーの左クリック/タップのタスクを拡大して強調表示するには、最大化の左クリック/タップを使用します。これがオフ状態になっている場合は、選択されたすべてのタスクは、タスクバー上に均等に配置されます。オン状態になっている場合は、左クリック/タップ以外のすべてのタスクは元の/より小さいサイズのままになり、左クリック/タップのタスクは、タスクバーの残りの領域を占めます。

9 製品のお手入れ

9.1 温度と湿度

9.1.1 一般利用

Tobii Dynavox I-Series+ は室温で、乾燥した状態で最適に保管することができます。本デバイスに関する温度と湿度の推奨範囲は以下の通りです:

ポータブルモード：

- 周辺温度：0°C ~ 30°C (32°F ~ 86°F)
- 湿度:最大 70% (デバイス上に結露がないこと)

装着モード：

- 周辺温度：0°C ~ 37°C (32°F ~ 99°F)
- 湿度:最大 70% (デバイス上に結露がないこと)

9.1.2 移動と保管

バッテリー以外の移動と保管に関して、本デバイスの温度と湿度の推奨範囲は以下の通りです:

- 温度:-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
- 湿度:20% ~ 70% (デバイス上に結露がないこと)

Tobii Dynavox I-Series+ は防水加工されておらず、完全な耐水性はありません。デバイスは過度に湿度の高い、湿った、または濡れた状態で保存しないでください。本デバイスを水中やその他の液体の中に浸さないでください。デバイスに、特に I/O カバーにより保護されていないコネクタ部分 (図 *3.2* 底面、左側、右側、ページ *18* の製品箇所29) に液体をこぼさないようご注意ください。デバイスは、IP クラス 43 (I/O カバー付きの場合) として登録されています。

9.2 掃除

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスのクリーニングを行う前に、すべてのケーブルを取り外し、I/O カバー (図 *3.2* 底面、左側、右側、ページ *18*の製品箇所29) を取り付け、バッテリーを取り外します。柔らかい、湿った不織布か、アルコールを含むクリーニング用ワイプ (アルコール含有率96%の湿った布) を使用してください。デバイスの穴や隙間に湿気が入らないようにしてください。窓ガラス用洗剤、家庭用洗剤、エアゾール·スプレー、溶剤、アルコール、アンモニア、または研磨剤は、デバイスの掃除に使わないでください。

9.2.1 スピーカーのクリーニング

スピーカー部分の穴が詰まっている場合は、綿棒や歯ブラシを使ってゴミを除去します。Tobii Dynavox I-Series+ スピーカーのIP保護材を損傷しないようにご注意ください。

9.3 配置

お近くの販売代理店や営業担当者が推奨する取付具のみを用いて、これらが説明書どおりに正しく装着され、固定されていることを確認してください。デバイスは不安定で平らではない表面に置かないでください。

9.4 Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの移動

すべてのケーブルを取り外し、デバイス背部のハンドルを使って持ち運びます。

デバイスを修理、発送または移動のために運送する際には、元の箱と梱包材を使ってください。

Tobii Dynavox I-Series+ の梱包材は保管しておいてください。

保証内容に関連する問題や修理のためにデバイスをTobii Dynavoxに返品する必要が生じた場合は、発送に元のパッケージ (あるいは同等のもの) を使用することが求められます。

9.5 バッテリーの廃棄

バッテリーは一般家庭ごみ、または一般業務用ごみとして廃棄しないでください。バッテリーの廃棄にはお客様の地域の法規に従ってください。

9.6 Tobii Dynavox I-Series+ の廃棄

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは一般家庭ごみ、または一般業務用ごみとして廃棄しないでください。お客様の地域の、電気機器と電子装置廃棄に関する法規に従ってください。

付属書 A　サポート、製品保証、トレーニング用リソース

A1　カスタマーサポート

サポートが必要な場合は、地域の代理店、またはTobii Dynavoxのサポートまでご連絡ください。速やかな対応を受けられるよう、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスへのアクセス、および可能な場合はインターネット接続を準備しておいてください。また、デバイスの裏面、I-Series Control Center またはGaze Interaction Settings の設定にあるデバイスのシリアル番号も、すぐに入力できるように用意しておいてください。詳細は *6.9* システム、ページ *64* および *7.7* システム情報、ページ *80* を参照してください。

商品に関する詳細情報とその他のサポート情報に関しては、Tobii Dynavoxのウェブサイト www.tobii.com をご覧ください。

A2　製品保証

パッケージに同梱されたManufacturer's Warrantyに関する文書をお読みください。

デバイスの使用前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。保証は、デバイスがユーザーズマニュアルに従って利用されている場合に限り有効です。Tobii Dynavox I-Series+ を分解した場合、保証は無効になります。

Tobii Dynavox I-Series+ の梱包材は保管しておいてください。

保証内容に関連する問題や修理のためにデバイスをTobii Dynavoxに返品する必要が生じた場合は、発送に元のパッケージ (あるいは同等のもの) を使用することが求められます。

A3　トレーニング・リソース

Tobii Dynavoxでは、Tobii Dynavox I-Series+ 商品と関連通信商品用に、様々なトレーニング・リソースを提供しています。基本操作、ウェビナー、クイックガイドを盛り込んだトレーニング・リソースはTobii Dynavoxのウェブサイト www.tobiidynavox.com にてご覧になれます。Tobii Dynavox I-Series+ の基本操作ガイドは Tobii Dynavox I-Series+ デバイスに装備、保存されています。

付属書 B　準拠に関する情報

B1　FCC規則適合声明

このデバイスはFCC規則の第15節に準拠しています。操作は次の2つの条件に従うものとします：（1）本デバイスは、有害な干渉を引き起こさない、（2）本デバイスは好ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉も含め、いかなる干渉にも順応する。

Tobii Dynavox により明示的に承認されていない変更を加えた場合、FCC (連邦通信委員会) 規則に基づき、ユーザーによる機器操作の権限が無効になることがあります。

B1.1　P15B 機器用

本機器はテストされ、FCC 規則の第15節に従い、クラス B デジタル機器に関する規制に適合するものと認定されています。これらの規制は、住宅への設置における有害な干渉に対して、適切な保護を提供するように考案されています。本機器は、電磁波を発生・使用し、外部に放射することがあり、指示に従いインストールおよび使用されない場合は、無線通信に有害な干渉をもたらすことがあります。

しかし、特定のインストールで干渉が起きないという保証はありません。本機器がラジオまたはテレビの受信に干渉して害を与えることがないことを機器のオン・オフを行うことによって確認し、ユーザーは以下のいずれかの方法で干渉を正すことができます。

- 受信アンテナの配向を変えるか位置を変える。
- 機器と受信機の間の距離間隔を伸ばす。
- 機器を受信機の接続されている回路とは別の回路のコンセントにつなげる。
- 販売店または有資格のラジオ/テレビ技術者に相談する。

B1.2　ポータブルデバイス用

FCC RF 放射線被ばく声明:

1. 送信機を他のアンテナや送信機と同じ場所に置いたり、同時に作動させないでください。
2. 本機器は、制御不能な環境に対する FCC RF 放射線被ばくに関する制限に準拠しています。本機器は、本機器の側面を体に直接触れる機器により、通常の携帯型機器の動作が試験済みとなっています。FCC RF 放射線被ばくコンプライアンス要件を順守するため、送信中は送信アンテナに直接触れないようにしてください。

B2　電波と比吸収率 (SAR) について

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、クラス 1 医療機器として試験済みです。このような医療電気機器は、電磁環境両立性 (EMC) に関して特別な注意を必要とするため、本マニュアルに説明された情報に従って設置し、作動させる必要があります。

本デバイスに備えられた、または組み込まれたもの以外のケーブルやアクセサリーの使用は、EMC の動作に影響を及ぼすことがあります。

FCC (米国) が指示する SAR (比吸収率) の限界は、1 グラムの組織に対し平均 1.6W/kg です。欧州/EU (CE 規制) では、これは 10 グラムの組織に対し平均 2.0 W/kg です。Tobii Dynavox I–12+（FCC ID:W5MTDI12A) およびTobii Dynavox I–15+（FCC ID:W5MTDI15) はこれらの SAR 限界に対して試験済みであり、FCC/CE RF 被ばく要件に準拠しています。

本機器は、制御不能な環境に対する FCC RF 放射線被ばくに関する制限に準拠しています。

I–12+ デバイスのSAR最高値は 0.8 W/kg です。I–15+ デバイスのSAR最高値は 0.8 W/kg です。

ガイダンスおよび製造業者の公表 - 電磁放射線		
Tobii Dynavox I-Series+ は、以下に明記された電磁気環境での使用を意図されています。**Tobii Dynavox I-Series+** デバイスの顧客またはユーザーは、本デバイスはそのような環境で使用されることを請け合うことが必要です。		
放出試験	準拠	電磁気環境 - ガイダンス
RF (高周波) の放出 CISPR 11	グループ 1	Tobii Dynavox I-Series+ は、その機能の目的を果たすために電磁エネルギーを放ちます。そのため、近くの電子機器に影響が出ることがあります。
RFの放出 CISPR 11	クラス B	
高調波の発生 IEC 61000-3-2	該当なし	製品の有効電力は、定格荷重条件で P≤75 Wです。そのため、適用される制限はありません。
電圧変動/ フリッカー 発生 IEC 61000-3-3	該当なし	製品の有効電力は、定格荷重条件で P≤75 Wです。そのため、指針値以上で電圧変動またはフリッカーを発生させる恐れはほとんどありません。

Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、他の機器と隣り合わせ、または重ねて使用しないでください。

ガイダンスおよび製造業者の公表 - 電磁環境耐性			
Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、以下に明記された電磁気環境での使用を意図されています。 **Tobii Dynavox I-Series+** デバイスの顧客またはユーザーは、本デバイスはそのような環境で使用されることを請け合うことが必要です。			
電磁波耐性試験	**IEC 60601** 試験水準	準拠レベル	電磁気環境 - ガイダンス
静電放電 (ESD) IEC 61000-4-2	± 6 kV 接触放電 ± 8 kV 気中放電	± 6 kV 接触放電 ± 8 kV 気中放電	床は木製、コンクリート、またはセラミックタイル。床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は最低 30 %。
電気高速過渡/裂傷 IEC 61000-4-4	± 2 kV (電源ライン) ± 1 kV (入出力ライン)	± 2 kV (電源ライン) ± 1 kV (入出力ライン)	電源プラグの品質は、一般業務または病院環境のもの。
電圧変化 IEC 61000-4-5	± 1 kV (ライン間電圧)	± 1 kV (ライン間電圧)	電源プラグの品質は、一般業務または病院環境のもの。

ガイダンスおよび製造業者の公表 - 電磁環境耐性			
Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、以下に明記された電磁気環境での使用を意図されています。 **Tobii Dynavox I-Series+** デバイスの顧客またはユーザーは、本デバイスはそのような環境で使用されることを請け合うことが必要です。			
電磁波耐性試験	**IEC 60601** 試験水準	準拠レベル	電磁気環境 - ガイダンス
電源入力ラインにおける電圧ディップ、短時間停電および電圧変化。 IEC 61000-4-11	< 5% UT (> 95% UTのディップ) 0.5 サイクル間。 < 40% UT (60% UTのディップ) 5 サイクル間。 < 70 % UT (30 % UTのディップ) 25 サイクル間。 < 5% UT (> 95% UTのディップ) 5 サイクル間。	< 5% UT (> 95% UTのディップ) 0.5 サイクル間。 < 40% UT (60% UTのディップ) 5 サイクル間。 < 70 % UT (30 % UTのディップ) 25 サイクル間。 < 5% UT (> 95% UTのディップ) 5 サイクル間。	電源プラグの品質は、一般業務または病院環境のもの。電源が中断している間に、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスのユーザーが引き続き操作を行う必要がある場合、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスのバッテリーを定位置に取り付けるか、またはデバイスの電源供給が無停電電源装置(UPS)から行われるようにすることをお勧めします。 UT は 100 VAC 60 Hz または 230 VAC 50 Hz。
電力周波数 (50/60 Hz) 磁場 IEC 61000-4-8	3 A/m	3 A/m	電力周波数磁場は、標準的な商用または病院環境と同じであることが望ましい。

ガイダンスおよび製造業者の公表 - 電磁環境耐性			
Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、以下に明記された電磁気環境での使用を意図されています。 **Tobii Dynavox I-Series+** デバイスユーザーの顧客は、本デバイスが必ず上記のような環境で使用されるように万全を期す必要があります。			
電磁波耐性試験	**IEC 60601** 試験水準	準拠レベル	電磁気環境 - ガイダンス
			ポータブルおよび携帯 RF 通信機器は、ケーブルを含む Tobii Dynavox I-Series+ デバイスのあらゆる部分に、送信器の周波数に適用される方程式から計算された推奨分離距離よりも近づけて使用してはいけません。 推奨分離距離
伝導RF IEC 61000-4-6	3 Vrms 150 kHz ~ 80 MHz	3 V	$d = \frac{3,5}{3}\sqrt{P}$ 150 kHz ~ 80 MHz 範囲の場合
放射RF IEC 61000-4-3	3 V/m 80 MHz ~ 2.5 GHz	3 V/m	$d = \frac{3,5}{3}\sqrt{P}$ 80 MHz ~ 800 MHz 範囲の場合 $d = \frac{7}{3}\sqrt{P}$ 800 MHz ~ 2.5 GHz 範囲の場合

ガイダンスおよび製造業者の公表 - 電磁環境耐性			
Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、以下に明記された電磁気環境での使用を意図されています。 **Tobii Dynavox I-Series+** デバイスユーザーの顧客は、本デバイスが必ず上記のような環境で使用されるように万全を期す必要があります。			
電磁波耐性試験	**IEC 60601** 試験水準	準拠レベル	電磁気環境 - ガイダンス
			送信器の製造業者によると、"P" が送信器の最大出力電力定格 (ワット (W)) であり、"d" が推奨分離距離 (メートル (m)) の場合。 電磁気の実地調査[i]によって定められたように、固定 RF 送信器からの磁界強度は、各周波数範囲内の準拠レベルより小さくなってはいけません。[ii] 以下のマークが付いた装置の近くでは、干渉が発生する場合があります。 ((•))
注記 **1** 80 MHz および 800 MHz では、より高い周波数範囲が適用されます。 注記 **2** これらのガイドラインは、全ての状況に適用されないこともあります。電磁伝搬は吸収によって影響を受け、建造物、物、人々から反射されます。			
i. 無線通信の基地局、(携帯/コードレス) 電話および陸上移動無線、アマチュア無線、AM および FM ラジオ放送、および TV 放送などの固定送信器からの磁界強度は、理論上、正確に予測することはできません。固定 RF 送信器による電磁気環境を評価するには、電磁気の実地調査の実施を考慮してください。Tobii Dynavox I-Series+ デバイスが使用されている場所の測定された磁界強度が上記の適切な RF 準拠レベルを超える場合、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスを調べ、動作が正常であることを確認する必要があります。異常な動作が見られた場合は、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの方向や位置を変えるなどの対策が必要な場合があります。 ii. 周波数範囲が 150 kHz ~ 80 MHz を超える場合、磁界強度は 3 V/m未満です。			

ポータブルおよび携帯 **RF (**高周波**)** 通信機器と **Tobii Dynavox I-Series+** デバイス間の推奨分離距離。			
Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは、放射 RF 妨害が制御された電磁気環境での使用を意図されています。 Tobii Dynavox I-Series+ デバイスの顧客またはユーザーは、通信機器の最大出力電力に従い、以下に記載されたポータブルおよび携帯 RF 通信機器 (送信器) と Tobii Dynavox I-Series+ デバイス間の最小距離を維持することで、電磁気の干渉を防ぐことができます。			
送信器の定格最大出力電力 **W**	送信器の周波数による分離距離		
	150 kHz ~ 80 MHz	**80 MHz ~ 800 MHz**	**800 MHz ~ 2.5 GHz**
0.01	0.12 m	0.12 m	0.24 m
0.1	0.37 m	0.37 m	0.74 m
1	1.2 m	1.2 m	2.4 m
10	3.7 m	3.7 m	7.4 m
100	11.7 m	11.7 m	23.4 m

6.2.1.10 EN 60 601-1-2 (2007) に明記された試験仕様の下、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスは以下に該当しないものとします:

- コンポーネントの故障
- プログラム可能なパラメーターにおける変更
- 工場出荷時設定への意図されないリセット
- 間違った警報を出す
- アラームが伴う場合でも、意図されない動作が開始される

6.2.1.10 EN 60 601-1-2 (2007) に明記された試験仕様に関しては、アラームが伴う場合でも、セーフティクリティカルな動作は実行されないという理由から、意図された動作の停止や中断は Tobii Dynavox I-Series+ デバイスにおいて許可されています。

また、6.2.1.10 EN 60 601-1-2 (2007) に明記された試験仕様に関して、診断や治療に影響を与えるほど大きな数値の誤りが表示されることは、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスには当てはまりません。

クラス 1 医療機器としての準拠を維持するために、Tobii Dynavox I-Series+ デバイスと組み合わせて使用されるスイッチは、15 V DC に基にしたIEC/EN 60601-1 絶縁要件を満たさなければなりません。すなわち、電気的に浮いているスイッチ (接地されていないスイッチ) でなければなりません。

B3　カナダ規格適合声明

低電力ライセンス免除無線通信機器 (ICES-003)

De faible puissance exempts de licence des appareils de communication radio (CNR-210)

a. 共通する情報
   操作は次の2つの条件に従うものとします：

   1.本機器は干渉の原因を引き起こしません。

   2.本機器は、望ましくない機器の動作の原因となる干渉を含み、いかなる干渉にも順応します。

b. 2.4 GHz 周波数帯域。
   ライセンス許諾サービスに対する無線干渉を防ぐため、本機器は屋内動作用であり、屋外に設置する場合ライセンスに従ってください。

a. Informations communes
   Son fonctionnement est soumis aux deux conditions suivantes:

   1.Ce dispositif ne peut causer des interférences, et

   2.Ce dispositif doit accepter toute interférence, y compris les interférences qui peuvent causer un mauvais fonctionnement du dispositif.

b. Le fonctionnement en bande de 2,4 GHz
   Pour prévenir les interférences radioélectriques aux services sous licence, cet appareil est destiné à être exploité à l'intérieur et à l'extérieur d'installation est soumise à licence.

本デバイスは、一般社会 (制御不能な環境)における限界(1.6W/Kg) を定めるRSS-102の、電波 (SAR)への暴露に関する安全要件について試験されています。I–12+ デバイスのSAR最高値は 0.8 W/kg です。I–15+ デバイスのSAR最高値は 0.8 W/kg です。本デバイスは、機器とユーザーの身体の間の最短距離が 0 cm 以上の場合に安全に使用できます。

Ce dispositif a été testé aux exigences de sécurité pour l'exposition aux ondes radio (SAR) dans le CNR-102 à le grand public (environnement non contrôlé) des limites (1.6W/Kg).La valeur maximale mesurée de SAR pour le I–12+ dispositif est:0.8 W/kg.La valeur maximale mesurée de SAR pour le I–15+ dispositif est:0.8 W/kg.Ce dispositif peut être exploité en toute sécurité avec un 0cm distance minimale entre le matériel et les corps de l'utilisateur.

本クラス B デジタル装置は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme CNR-210 du Canada.

B4　CE 声明

本機器は、無線機器および通信端末機器の規制を満たすよう、電磁気両立性に関連する要件、ITE 用の EN 300386 クラス B、　電磁気両立性に関連する欧州連合の法律の近似値に関する理事会指令 2004/108/EC の重要保護要件および R&TTE 指令 1999/5/EG に準拠しています。

B5　規格

弊社 Tobii AB は、当マニュアルに記載されている Tobii Dynavox I-Series+ 製品が下記の指令に準拠していることをここに宣言いたします。

- 93/42/EEC (MDD) - 医療機器指令、2007/47/EC により改訂
- 2011/65/EU (RoHS 2) - Restriction of Hazardous Substances Directive
- 2004/108/EC (EMC) - Electromagnetic Compatibility Directive
- 2006/95/EC (LVD) - Low Voltage Directive

- R&TTE 1999/5/EG (R&TTE) - European Radio equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive
- 2002/96/EC - WEEE Directive
- 2006/121/EC - Reach Directive

製品には次の証明書があります。

UL Demko (DK-33314-UL + DK-45861-UL) Certified Conformity with IEC 60601-1 ed.3 and EN 60601-1:2006
*Medical electrical equipment - Part 1:*基礎安全及び基本性能に関する一般要求事項）の適合証明

Nemko (NO75307+NO86620) Certified Conformity with IEC 60950-1 (ed.2):am1
*Information technology equipment - Safety - Part 1:*一般要求事項）の適合証明

下記の標準が採用されています。

- IEC 60601-1 ed.3
- EN 60601-1:2006
- IEC 60601-1:2005
- EN 60601-1-2:2007 + AC:2010
- CAN/CSA-C22.2No. 60601-1:08
- ANSI/AAMIES60601-1:2005
- IEC 60601-1-11:2010
- IEC 60950-1:2005+A1:2009
- EN 60950-1:2006+A11:2009+A1:2010+A12:2011
- ISO 14971:2007
- EN 55011:2009+A1:2010
- EN 61000-3-2:2006+A1:2009+A2:2009
- EN 61000-3-3:2013
- EN 55022:2010+AC:2011 (EMC)
- EN 55024:2010 (EMC)
- ETSI EN 301 489-1:V1.9.2 (09-2011) (EMC)
- ETSI EN 301 489-17:V2.1.1 (05-2009) (EMC)
- ETSI EN 300 328:V1.8.1 (2012-06) (BT-WLAN)
- FCC 47 CFR Part 15 Subpart B
- FCC 47 CFR Part 15 Subpart C (BT-WLAN)
- FCC 47 CFR Part 18 Subpart C
- CFR Part §2.1093
- ANSI C63.4:2009
- CISPR22:2008 (EMC
- ANSI/IEEE C95.1-1999
- IEEE Std 1528-2003 (SAR)
- IEEE Std 1528a-2005 (SAR)
- FCC/OET Bulletin 65 Supplement C [2001] (SAR)
- RSS-102 Issue 4, March 2010 (SAR)
- IEC 62209-2:2010 (SAR)
- Canada RSS-210 Issue 8: Dec.2010 (BT-WLAN)
- Canada RSS-Gen Issue 4: Nov 2014
- ACMA Radiocom. (Short Range Devices):2004
- AS/NZS 60950.1
- AS/NZS 4268 2012 + A1:2013 (BT-WLAN)
- AS/NZS CISPR22:2009 (EMC)
- ICES-003: issue 5 (EMC)
- IEC 60529 Ed 2.1:2001 (IP)
- EN 60825-1:2007 （近赤外線 (NIR) 放射）
- MEPS (オーストラリアおよびニュージーランド)
- VCCI (Japan) – *only for I-15+*
- CAN/CSA-CE/IEC CISPR 11-04 (R2013)
- CISPR 16-1-4:2010
- ANSI C63.4:2009
- ANSI C63.10:2009
- EN 62479:2010
- ICES-001: issue 4

- IEC 62133:2002

付属書 C　コンピューターデバイスの運用状況

表 C.1 コンピューターデバイスの運用状況

詳細設定および電力制御インターフェイス（ACPI）状況	説明
S0（稼働中）	正常な運用状況 – Windows セッションが稼働中 一定時間アイドル状態が続くと、ディスプレイは暗くなり、オフになります。ただし、1、2、メニューおよび音量増減ボタンは常に S0 状態で点灯し続けます。
S3（スリープ状態）	デバイスはスリープ状態にあります。Windows セッションはサスペンドされて RAM に保存されるため、次の方法によりすぐに S0 状態で再開できます。 1. 電源ボタンを押す 2. 電源オン機能を有効にするよう設定されたスイッチポートに接続されたボタンを押す 3. Wake-on-Gaze（有効化されている場合） デバイスは S3 状態でも少量の電力を消費します。完全に充電されたバッテリー（ACアダプターに非接続）は S3 状態で最低24時間持続します。 Windows が最低限必要とするバッテリーレベルは S3 状態でも監視され、バッテリーが完全に消耗されるのを防止します。バッテリーが必要最低レベルに達すると、デバイスは S4（ハイバーネーションあるいは休止）状態になります。
S4（ハイバーネーション）	デバイスは休止中です。Windows セッションは SSD（ハードドライブ）にサスペンドされ、デバイスの電源が切られます。セッションは下記の方法で S0 状態に戻すことができます。 1. 電源ボタンを押す 2. 電源オン機能を有効にするよう設定されたスイッチポートに接続されたボタンを押す
S5（シャットダウン）	Windows はシャットダウンされます。デバイスの電源がオフにされます。バッテリー（残量あり）やACアダプターは接続された状態です。
G3（機械的オフ）	すべての電源が取り外されます（バッテリーもACアダプターも取り外される）。

表 C.2 電源ボタンの正常な機能と LEDの点灯パターン

ACPI 状況	電源ボタンの点灯		ボタン 1、2、メニュー、音量アップと音量ダウンボタン 白に点灯
	バッテリー非充電中	バッテリー充電中	
S0（稼働中）	緑に点灯	青に点灯	オン
S3（スリープ状態）	緑に点滅	青に点滅	オフ
S4（ハイバーネーション）	オフ	青に点灯	オフ
S5（シャットダウン）	オフ	青に点灯	オフ

表 C.3 電源ボタンのエラーまたは警告、LEDの点灯パターン

エラーまたは警告	ACPI 状況と状態	電源ボタンの点灯	備考
シャシーが過熱しつつあります	CPI S0（稼働中）の状態で、表 *D.1* 最高許容温度、ページ *97* において指定されたセフティー設定によるシャシー温度が最高許容温度の摂氏1度以下であった場合。	紫色に点灯	紫色の点灯は、デバイスが最高許容温度に近いことをユーザーに警告します。
シャシーが加熱します	CPI S0（稼働中）の状態で、表 *D.1* 最高許容温度、ページ *97* において指定されたセフティー設定によるシャシー温度が最高許容温度よりも高い場合。	紫色に短い間隔で点滅	ハイバーネーション中あるいはシャットダウンの処理中にはデバイスの LED が点滅します。
シャシーが加熱しています	ACPI S4（ハイバーネーション）および ACPI S5（シャットダウン）状態で、電源ボタン[i]が押された場合。	短い間隔の紫色の光が5秒間点滅します。	デバイスは LED を点滅させ、ACPI S4（ハイバーネーション）または ACPI S5（シャットダウン）状態が持続します。 デバイス温度が9分以内に 表 *D.1* 最高許容温度、ページ *97* において指定されたセフティー設定による最高許容温度未満に下がらない場合、デバイスは起動し、最高で9分間稼働します。
バッテリーパックの残量レベルが低減	ACPI S4（ハイバーネーション）および S5（シャットダウン）状態で、電源ボタン[i]が押された場合。 1. DCプラグが挿入されていない場合、および 2. バッテリー残量が必要最低レベルか、それ未満になっている場合	短い間隔の青色の光が5秒間点滅します。	

i. あるいはスイッチポートが電源ボタンの機能を持つように設定されてある場合。

付属書 D　　最高許容温度

表 D.1 最高許容温度

手で接触される可能性がある **Tobii Dynavox I-Series+** の金属製外表面の最高許容温度	最高温度 ℃/℉	
	携帯モード	設置モード
設置モードの温度の閾値： 許容外表面温度 手で接触される可能性が低い領域における外表面温度、この領域の位置を確認するには、図 *D.1* 温度閾値の領域、ページ *97* の製品箇所1を参照してください。		55/131 60/140
携帯モードの温度の閾値： 許容外表面温度 手で接触される可能性が低い領域における外表面温度、この領域の位置を確認するには、図 *D.1* 温度閾値の領域、ページ *97* の製品箇所1を参照してください。	43/109 46/115	

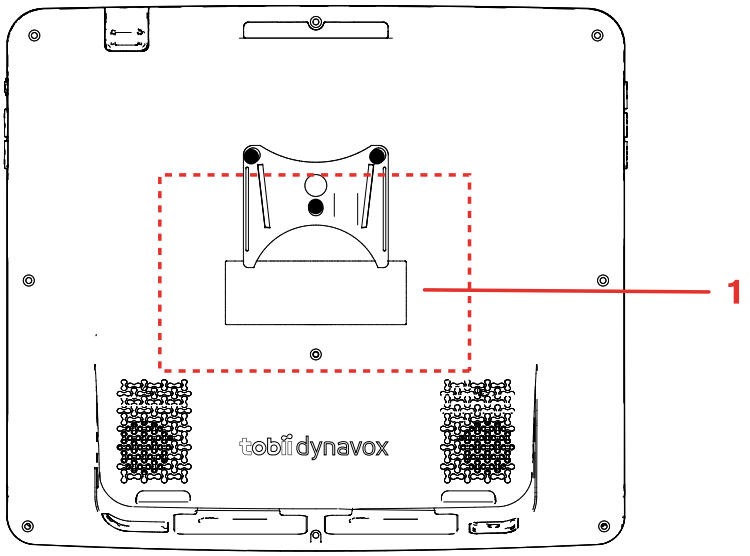


図 D.1 温度閾値の領域

付属書 E　　技術仕様書

E1　標準 Tobii Dynavox I-Series+

標準	Tobii Dynavox I–12+	Tobii Dynavox I–15+
機種/モデル	I–12+ ETR	I–15+ ETR
画面	12.1″、アスペクト比：4:3、LED バックライト・ユニット、 白の輝度 500 cd/m²	15.0″、アスペクト比：4:3、LED バックライト・ユニット 白の輝度 400 cd/m²
画面解像度	1024 × 768 ピクセル（XGA）	
タッチパネル	Gorilla® ガラスを使った投影容量式タッチパネル、10ポイントのマルチタッチ	
寸法（WxHxD）	30,7 × 27,4 × 10,5 cm --	36,9 × 32,6 × 11,2 cm --
重量	2,8 kg --	3,8 kg --
スピーカー	2 × 3 W 密閉型スピーカー	
マイク	1 × アナログマイク	
プロセッサー	Intel® Celeron Quad Core Processor J1900（2Mのキャッシュ、2 Ghz）	
RAM	4 GB DDR3	
オペレーティング・システム	Microsoft Windows 8.1 または Windows 10	
ハードディスク・ドライブ	2.5″ SSD 120 GB（最低限）	
SDカード	MicroSD カード 32 GB	
コネクタ	1 × HDMI 1.3 コネクタ タイプAケーブル用のコネクタ 2 × USB 2.0（電流制限 = 1000 mA） 1 × USB 3.0（電流制限 = 1500 mA） 1 × RJ45 100/1000 Mbit/s（イーサネット） 2 × 3.5 mm スイッチコネクタのインターフェース（モノプラグの場合のピンアサイン：根元（スリーブ）端子 = アース、先端（Tip）端子 = 信号） 1 × 3.5 mm” ヘッドホンジャック（ステレオ）、ジャック検知機能付き 1 × 24 VDC、2.5/5.5 mm（電源コネクタ）	
ボタン	1 × 電源オン 1 × 音量アップ 1 × 音量ダウン 1 × メニュー 2 × プログラム設定可能な	
WLAN (オプション)	IEEE 802.11 b/g/n 偏波共用ダイバーシティ・アンテナ・システム	
Bluetooth®（オプション）	Bluetooth® 3.0+HS 携帯電話通信専用	

標準	Tobii Dynavox I–12+	Tobii Dynavox I–15+
機種/モデル	I–12+ ETR	I–15+ ETR
赤外線リモコン（環境制御ユニット）	GEWA プログラム設定が可能な赤外線リモコン（環境制御ユニット）、19 ~ 455 kHz、940 nm、広範囲のリモコンに対応 平ら方向：1 × 赤外線受信センサー付き 1 × 赤外線フィルターウィンドウ、3 × 赤外線送信ダイオード、および 1 × ステータス表示用赤色 LED 直立方向：4 × 赤外線送信ダイオード付き 1 × 赤外線フィルターウィンドウ	
カメラ	ユーザーカメラ（裏面）5メガピクセル、AF（オートフォーカス） ウェブカメラ（前面）2メガピクセル、FF（固定焦点）	
アイトラッカー	Tobii IS20 Module [iii] Tobii IS4 Module[iv]	
バッテリー稼働時間[i]	~ 9時間	~9.5/8[ii] 時間
バッテリー充電所要時間	最大 5.4 時間（0%から100%まで充電時）	
バッテリー貯蔵寿命	40%以上の充電レベルで最長6ヶ月	
デスクスタンド	一体型	
サポートされる装着システム	Daessy および REHAdapt 用Tobii DynavoxQR アダプターパネル	
パワーサプライ	Adapter Technology Co. Ltd, ATM065-A240 入力：共通規格 100 ~ 240 VAC / 50 ~ 60 Hz 出力：+24VDC / 0 ~ 2.71A	
IP クラス	IP 43（I/O カバーが付けられた状態）	

i. Gaze Interaction を使って（該当する場合）屋内で継続的にコミュニケーションを行った場合。電源が最適化された状態で約24 時間。

ii. アイトラッカーが無効の状態で 9.5 時間、アイトラッカーが有効の状態で 8 時間

iii. ユニット番号:12003611または12003612

iv. ユニット番号:12003613または12003630

E2 バッテリーパック

項目	仕様	備考
バッテリー採用技術	リチウムイオン充電池パック、ガスゲージ付き（SMBus v1.1 インターフェイス）	
電池	6× Panasonic NCR18650 (3S2P)	
バッテリーパック容量	62.64 Wh	初期容量、新しいバッテリーパック
公称電圧	10.8 V	
充電所要時間	最大 5.4 時間	0%から100%まで充電時
最大充電回数	500回	製造当初の75%以上の容量
許容可能な稼働温度	0 ~ 45 °C、45 ~ 85%RH -20 ~ 60 °C、45 ~ 85%RH	充電時 放電時
保管温度	-20 ~ 35 °C、45 ~ 85%RH -20 ~ 40 °C、45 ~ 85%RH -20 ~ 45 °C、45 ~ 85%RH -20 ~ 50 °C、45 ~ 85%RH	1年 6ヶ月 1ヶ月 1週間

項目	仕様	備考
保管時間[i]	40%以上の充電レベルで最長6ヶ月	40%未満の充電レベルでバッテリーパックを長期間保管しないでください。

i. バッテリーをデバイスに付けたまま保存しないでください。

E3 アイトラッカー

技術仕様書	**Tobii IS20** モジュール	**Tobii IS24** モジュール
動作範囲	40 ~ 90 cm 16 ~ 35 インチ	45 ~ 85 cm 18 ~ 33 インチ
頭の動きの自在さ[1] **@ 70 cm / 27.5** インチ (幅 **x** 高)	50 × 36 cm 20 × 14 インチ	35 × 30 cm 13.8 × 11,8 インチ
配置		
画面からの距離	45 ~ 85 cm 17,7 ~ 33,5 インチ	45 ~ 85 cm 17,7 ~ 33,5 インチ
トラックボックスのサイズ (幅 × 高)	27 × 23 ~ 52 × 44 cm 10.6 × 9.1 ~ 20.5 × 17,3 インチ	20 × 15 ~ 35 × 30 cm 7.9 × 5.9 ~ 13.8 × 11,8 インチ
トラックボックスの深さ	40 cm 15.7 インチ	35 cm 13.8 インチ
注視データ率	30 Hz	60 Hz
ユーザーキャリブレーション (以前のトラッキング堅牢性)	––	>99%
視線の検出		
相互作用 >30Hz	––	母集団[2]の95%に対して98%
未加工データ最大フレームレート	––	母集団[2]の95%に対して90%
視線の正確さ		
母集団[2]の95%	––	<1.9°
母集団[2]の90%	––	<1.7°
母集団[2]の80%	––	<1.3°
母集団[2]の65%	––	<1.0°
理想[3]	<0.4°	<0.3°
視線の正確性		
母集団[2]の95%	––	<0.4°
母集団[2]の90%	––	<0.3°
母集団[2]の80%	––	<0.25°
母集団[2]の65%	––	<0.2°
理想[3]	<0.4°	<0.1°
最大ヘッド移動速度		
目の位置	30 cm/秒 (11.8 インチ/秒)	40 cm/秒 (15.7 インチ/秒)
視線データ	––	10 cm/秒 (3.9 インチ/秒)
最大ヘッド傾き	––	>20°

技術仕様書	**Tobii IS20** モジュール	**Tobii IS24** モジュール
最大**Yaw**、ピッチ	––	25°
可視性	––	
フリッカー	––	
データフローとデータレート 視線の遅延 視線の回復 低解像度ストリーム	 –– –– ––	 25 ms 100 ms 640×480 @30 Hz
接続部	内蔵	内蔵
パワーサプライ	内蔵	内蔵

1. 頭の動きの自在さは、最低でもユーザーのいずれかの目がなければならない、トラッカーの前の体積を表します。その数字は画面表面に対して平行/直行するものとして指定され、アイトラッカーが画面に対して20度の角度に設置されていることが前提条件となります。
2. 精度と母集団の割合に対する精度は、母集団全体の代表に対して広範囲にテストした結果です。数十万の診断画像を使用し、異なる条件、視力、民族、目の日常的なほこり、汚れ、傷、焦点の問題などがある約800人に対してテストを実施しました。この結果、数学的に「理想的」なシナリオではなく、母集団全体に対して、さらに堅牢で高性能なアイトラッキング経験を作りだし、さらに現実的な真のパフォーマンスを実現できました。
3. 「理想」の度合いは、正確性と精度を測定する以前の基準であり、いずれも以前はTobiiであり、現在はすべての他社のアイトラッキングから得られたものです。「理想」の数値は比較した品質とパフォーマンスに関して一般的な感覚を得るうえでは役立ちますが、母集団全体の代表に対して広範囲に実施されたテストに基づく母集団の割合に対する定量的な正確さや精度と同じ方法で現実に使用することはできません。

付属書 F　　承認済みのアクセサリー

説明	型式番号	Tobii Dynavoxパーツ番号
Tobii Dynavox I-Series+ AC アダプター (電源供給器)	AdapterTech ATM065–A240	12002664
バッテリーパック	TISB1	12004072

最新の承認済みTobii Dynavoxアクセサリーに関する情報については、弊社ウェブサイト www.tobiidynavox.com をご覧になるか、地域のTobii Dynavox再販店にご連絡ください。

Copyright ©Tobii AB (publ).図および仕様は、各地域の市場で提供される製品およびサービスに必ずしも該当する訳ではありません。技術仕様は予告なしに変更されることがあります。その他の全ての商標は各所有者に属します。

Tobii Dynavoxデバイスのサポート

オンラインヘルプの利用

お使いのTobii Dynavoxデバイスの個別製品サポートページをご覧ください。問題に関する最新情報や、その製品に関連するヒントやアイディアが記載されています。オンラインのサポートページの*www.TobiiDynavox.com* または *www.myTobiiDynavox.com*をご覧ください。

営業担当者または販売代理店にお問い合わせください。

お使いの製品について質問がある場合や支障が生じた場合は、最寄りのTobii Dynavoxの営業担当者または認定販売代理店までお問い合わせください。お客様個人の設定に詳しい担当者がおり、ヒントを提案したり製品に関するトレーニングを提供することができます。詳細については、*www.TobiiDynavox.com/contact*をご覧ください